2.4GHz Telemetric AFHSS ADAPTIVE FREQUENCY HOPPING SPREAD SPECTRUM

HiTEC

FLASH 8

8 Channel 2.4 GHz Aircraft Computer Radio System

フラッシュ 8　取り扱い説明書



- 4096 Resolution
- 7ms Frame Rate Latency
- 20-Model Memory
- Telemetry Capabilities
- Battery Voltage Power Out
- Built-in AFHSS 2.4GHz / SLT™ Module

4096 Resolution

SLT™ SECURE LINK TECHNOLOGY

Ver.1.1 k 20150327

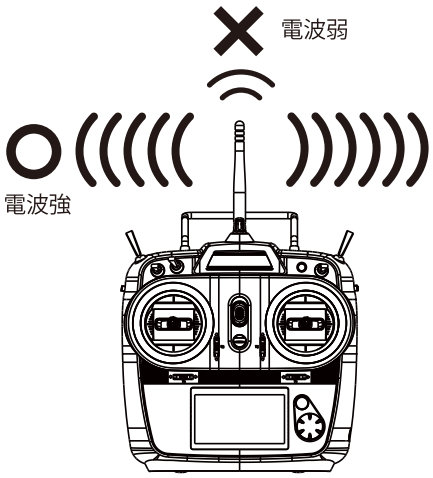
Made in philippines

製品のご使用前に

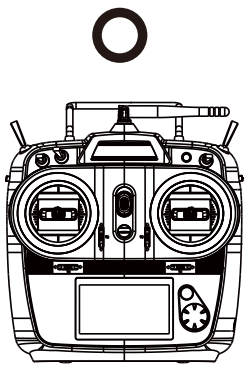
この度はハイテック製品 FLASH 8 をご購入いただき誠にありがとうございます。
安全の為、ご使用前に必ず本説明書をよくご覧ください。

⚠ 製品取扱い上の注意点 （必ずお読みください）

- 本製品はホビー用ラジコン向けに販売されています、他用途には使用しないでください。
- 電波障害を受ける可能性がありますので電波塔や送電線の近くまたはその他の電気ノイズや機械ノイズが多い環境では使用しないでください。
- フライト毎には送受信機の電池残量チェック及びRC装置の正常動作を確認してください。
- RC製品は精密機器です。故障の原因となりますので埃や湿気は避け、高温になる場所では保管しないでください。
- 受信機のアンテナは波長に合わせ長さが設定されています。カットすると到達距離が短くなり危険ですので絶対にカットしないでください。
- 胴体が金属やカーボン製の場合、その内部にあるアンテナ部分は電波が遮断されて有効に受信できません。受信機の近くから胴体外部にアンテナを出し胴体から離して張ってください。
- フライト毎に選択したフライトモデルが機体に適した設定のモデル名であることを確認してください。
- その他の2.4GHz送信機器（※共存テスト完了モデル除く）のシグナルが多い環境では電波障害を受ける可能性がありますので使用しないでください。
- フライト毎にはレンジチェックを行い各RCメカの動作に異常がないことを確認してください。
- 電源を入れる際は送信機の電源を入れてから受信機を入れます。切る際は逆の手順を行ないます。
- 送信機にリチウムポリマーバッテリーを使用する場合は過放電に十分注意し使用しない時は必ずバッテリーのコネクターを外し送信機からバッテリー取り外して保管してください。
- 2.4GHz帯の電波は強い直進性を持つため障害物に遮蔽されやすい特徴を持ちます。その為、フライトは障害物のない広く見通しのよい場所で行ってください。
- 2.4GHz帯の電波は強い指向性を持ちアンテナの向きにより出力が大きく異なります。正しい向きにアンテナを傾けフライトを行ってください。



間違ったアンテナの向き



正しいアンテナの向き

目次

SECTION 1 Introduction 製品紹介

製品のご使用前に	2
製品保証について	6
FLASH 8 説明書概要	7
ユーザーインターフェース	7
クイックスタートガイドについて	8
送受信機器スペック	8
用語説明	9
Flash 8 本体電源	10
Flash 8 外観説明	11
スティック 長さ調整	12
スティックテンション調整/モード切り替え	12
Flash 8 メインメニュー	13
送信機 警告表示	13
Maximaシリーズ受信機 製品特徴	14
受信機 アンテナの取り付け向き	15
Maximaレシーバーシリーズ 配線図	15
Optima/Minima シリーズ 受信機 製品特徴	16
Optima/Minima シリーズ 受信機 配線図	17
Optima / Minimaシリーズ受信機 バインド方法	18
フェイルセーフとホールドモードの設定	20
テレメトリーシステムについて	21
レンジチェックファンクション	22
スキャンモード	23
SLT プロトコル	24
SLT バインド方法	24

SECTION 2 Quick Start Guides クイックスタートガイド

アクロ＆グライダークイックスタートガイド	25
ヘリコプタークイックスタートガイド	27
システムメニュー 「System.List」	29
システムメニューの表示方法 「System.List」	30
モデルセレクトメニュー 「MDL.SEL」	31
モデルタイプ 「Model Type」	33
モデルタイプ 「ACRO」 設定方法	33
モデルタイプ 「GLID」 設定方法	34
モデルタイプ「HELI」設定方法	36

目次

SECTION 3 System Menus システムメニュー

チャンネルファンクション 「Channel」	37
トリムステップ 「Trim Step」	38
トレーナー 「Trainer」	38
センサー「Sensor」	40
コントロールモード「Mode」	41
マネージメント メニュー「Management」	41
INFO	43

SECTION 4 Model Function Menus モデルメニュー

共通モデルメニュー	44
サーボリバース「Reverse」	45
サブトリム 「Sub Trim」	45
デュアルレート＆エクスポネンシャル「D/R & EXP」	46
エンドポイント「EPA」	49
サーボスピード「S.SPEED」	50
プログラミング ミキシング「PROG.MIX」	50
フライトコンディション「F. Cond」	55
タイマー「Timer」	56
サーボモニター「Monitor」	59
スロットルロック「Throttle Lock」	60

SECTION 5 アクロ＆グライダー専用モデルメニュー ACRO and Glider Programming Menu

アクロ＆グライダー専用モデルメニュー	61
アクロ＆グライダー モデルメニュー設定	62
エルロンディファレンシャル「AIL DIFF」	62
エレボン ミックス「Elevon Mix」	63
Vテール ミックス「V-Tail Mix」	65
エイルベーター「Ailevator」	66
エルロン＞ラダー ミキシング「Aile>Rudd」	68
エレベーター＞キャンバー ミキシング「Elev>Camb」	70
キャンバー ミキシング「Camber Mix」(GLID 専用)	73
フラップコントロール「Flap Con」	76
ランディング「Landing」(ACRO 専用)	78
バタフライミキシング「B-Fly」(GLID 専用)	80
ジャイロ「Gyro」	82
スロットルカット「Thro Cut」(ACRO 専用)	84
スロットルカーブ「T. Curve」(ACRO 専用)	85

目次

SECTION 6 HELI Programming Menu ヘリ専用 モデルメニュー

ヘリ専用 モデルメニュー	88
ヘリ モデルメニュー 表示画面	88
フライトコンディション「F. Cond」	88
スロットルカット「Thro Cut」	90
スロットルホールド「T. Hold」	91
ジャイロ 「Gyro」(HELI専用)	92
レボリューション ミックス「Revo Mix」	94
スワッシュ＞スロットル ミックス「Swash. Thro」	96
スワッシュ ミックス「Swash Mix.」	99
スロットルカーブ「T. Curve」	100
ピッチカーブ「P. Curve」	102
スワッシュ リング「Swash Ring」	105

SECTION 7 Telemetry Function テレメトリー

テレメトリーシステム	106
センサーメニュー画面表示	106
GPS情報	106
回転数情報「RPM」	107
温度情報「Temp」	108
バッテリー情報「Battery」	108
サーボ情報 「Servo」	109
アドバンス情報「Advanced」	110
テレメトリー情報表示	111

製品保証について

・弊社の製造上の責任による故障の場合はご購入後6ヶ月以内が保証期間となります。製品に異常がある場合は一度弊社カスタマーサービスにご連絡いただき、それでも症状が改善しない場合はヤマト運輸、着払いにて弊社宛てにお送りください。初期不良が認められた場合、弊社の判断にて修理または交換作業を行います。必ず日付の入った購入時の領収書（模型店印が必須です）を必ず同封してください。

修理依頼について

・修理を依頼される時は必ず下記項目をメモで同封ください。
1）使用模型、2）故障状況または依頼内容、3）修理上限希望金額

・ご連絡がない場合、修理の上限金額は最大定価の50%以内で行います。（送料別）
それ以下での金額をご希望する場合は必ず事前に連絡をお願い致します。

・保証期間内でも消耗部品や外部、機構の破損は保証対象外です。

・高温、多湿、水や薬品による故障も保証対象外です。

・修理において各データーメモリーを消去する場合があります。

・点検の結果、異常が発見されない場合でも作動点検料金は発生する事があります。

・当製品は修理にお時間がかかる場合があります。

・商品の破損を防ぐ為、元箱を必ず保管し発送時は元箱に入れてください。

免責事項

・弊社はお客様のフライトにおける損失・事故等にはいかなる保障も致しかねます。

・誤ったご使用による製品の不具合は保証対象外となります。

・本製品は品質向上の為、予告なく仕様を変更する場合があります、予めご了承ください。

・弊社はリチウムポリマーバッテリーご使用による損失・事故等にはいかなる保障も致しかねます。

・本製品は玩具ではありません、15歳未満のお子様には使用させないでください。

■ お問い合せ・修理品送付先

〒133-0057 東京都江戸川区西小岩1-30-10 1F
株式会社 ハイテックマルチプレックスジャパン

カスタマーサポート：050-5519-4989

受付時間：月曜日～金曜日（祝祭日・夏期休暇・年末年始を除く）
10：30～12：30、13：30～16：30

修理・点検に関するお問い合わせはホームページ上の
お問い合わせフォームからお願い致します。
http://hitecrcd.co.jp /mailform/

FLASH 8　説明書概要

本説明書は注意事項から設定方法まで幅広く記載されています。
FLASH 8の取り扱いに慣れる為に説明書をよくご覧ください。

当説明書は7セクションで構成されています。

セクション1:「製品紹介」最初の導入のために必要な情報が記載されています。
セクション2:クイックスタートガイド
セクション3:システムメニュー
セクション4:モデルファンクションメニュー
セクション5:アクロ&グライダー専用モデル設定メニュー
セクション6:ヘリ専用モデル設定メニュー
セクション7:テレメトリーファンクション

警告・注意等のアイコン説明

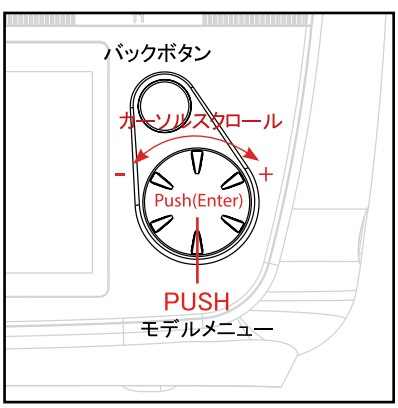


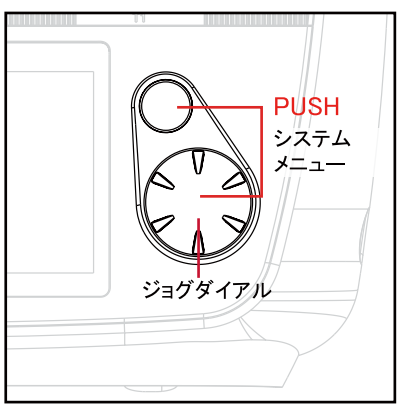
:アイコン使用例

Warning	もしレンジチェックで30m以上到達しなかった場合は絶対に飛行させないでください。

ユーザーインターフェース

FLASH 8は設定インターフェースとしてジョグダイアルシステムを採用しております。
ジョグダイアルはプッシュ&スクロール操作が可能で決定/カーソルの移動等を行ないます。
バックボタンを押すと前のメニューに戻ります。ジョグダイアルを長押しするとモデルメニュー
へ移行しバックボタンとジョグダイアルの両方を同時に長押しするとシステムメニューへ移行します。





クイックスタートガイドについて

セクション1をお読みになりましたらクイックスタートガイドに進むのも、素早くFLASH 8を使いこなす為の一つの方法です。クイックスタートに沿って設定を行ううちにFLASH 8のプログラミング手法に慣れていくと思います。そして実際に飛行される前に、いくつかの機体をプログラミングしてみる事を推奨します。実際に機体をセットアップするうちにFLASH 8独自の理解しやすいメニュー構成がお分かり頂けるでしょう。

送受信機器スペック

Flash 8 送信機

変調方式 : 内蔵式2.4GHzモジュール

使用電源 : 2セル Li-Fe バッテリー 「オプション」 4.8-7.2Vv NiMh. 2セル Li-Ion. Lipo

消費電力 : 300 mA

Flash 8 対応受信機 （この他にSLT受信機に対応します）

- OPTIMA (AFHSS双方向通信): オプティマシリーズ受信機は双方向通信に対応しテレメトリーシステムが使用可能です。
- MINIMA (AFHSS単方向通信): ミニマシリーズ受信機は単方向通信です、テレメトリーシステムは使用できません。
- MAXIMA (AFHSS単方向通信): マキシマシリーズ受信機は単方向通信です、テレメトリーシステムは使用できません。
  この受信機は7msの素早い応答性が特徴です。

Optima 2.4GHzシリーズ受信機

Model	サイズ	重量	品番
Optima 7	(56.9 x 20.8 x 11.6mm)	(17g)	28415
Optima 9	(47.7 x 29.1 x 15.5mm)	(22g)	28426

電源: 4.8V～8.4V 受信機バッテリー&ESC BEC
4.8V～35.0V SPC端子、動力電池直接入力(BEC負担低減用)
消費電流: 30mA

Maxima 2.4GHzシリーズ受信機

Model	サイズ	重量	品番
Maxima 6	(33 x 20.8 x 10.7mm)	(6.4g)	27524
Maxima 9	(38 x 24.4 x 14.6mm)	(8.1g)	27525
Maxima SL	(37 x 24.4 x 14.6mm)	(8.2g)	27526

電源:3.7V～8.4V 受信機バッテリー&ESC BEC
消費電力: 30mA ※Maxima SLはフライバーレス用3Gジャイロ等をシングルラインで接続できるS-BUS＆SRXL-MPXバスシステムを装備します。

Minima 2.4GHzシリーズ受信機

Model	サイズ	重量	品番
Minima 6 T	(30.4 x 20.8 x 7.1mm)	(6.5g)	26610
Minima 6 E	(31.7 x 20.8 x 10.9mm)	(8.1g)	26612
Minima 6 Lite	(31.2 x 19.5 x 8.5mm)	(4g)	26614

電源:3.7V～8.4V 受信機バッテリー&ESC BEC
消費電力:30mA

用語説明

AFHSS 2.4GHz Signal	ハイテック独自のホッピングシステムを採用した2.4GHz周波数です
Telemetry	2.4GHzの特徴を生かした双方向通信システム
Rangecheck	フライト前に電波の出力を下げ地上でしっかりと通信できているか確認すること
Link(ID Setting)	(バインド操作)受信機が使用できるように送信機と認識させます
HPP-22 PC Interface	PC接続用の専用インターフェース (オプション販売品)

MODEL: 現在選択されているモデルのメニュー

ACRO: 『アクロ』動力飛行機のメニュー(エンジン、電動)

GLID: グライダーのメニュー(電動含む)

HELI: ヘリコプターメニュー

AILE: 固定翼やヘリコプターのロール軸の制御

ELEV: 固定翼やヘリコプターのピッチ軸の制御

RUDD: 固定翼やヘリコプターのヨー軸をの制御

INH: 機能停止

ACT: 機能有効

NULL: 機能のON-OFFにスイッチが選択されていない。

AUX: 予備チャンネル

J1: 右スティック(ジンバル)の上下操作

J2: 右スティック(ジンバル)の左右操作

J3: 左スティック(ジンバル)の上下操作

J4: 左スティック(ジンバル)の左右操作

T1: 右スティック(ジンバル)の上下操作トリム

T2: 右スティック(ジンバル)の左右操作トリム

T3: 左スティック(ジンバル)の上下操作トリム

T4: 左スティック(ジンバル)の左右操作トリム

LT: 予備操作 操作トリム

RT: 予備操作 操作トリム

RS: 右サイドレバー

LS: 左サイドレバー

FLASH 8 本体電源

バッテリーの充電方法:

FLASH8には6.4V Li-Feバッテリーが標準で付属し側面にある充電ジャックにはLi-Fe専用の充電器が内蔵されています。そのため充電には下記の二つがあります。

A:充電ジャックにDC8.0V～12.0Vで容量500mA以上のACアダプター、又は安定化電源のDC電圧を範囲内に調整して供給してください。　※1ACアダプター及び安定化電源は別売りです。　※2この方法で充電する場合、電源SWのLEDは充電中赤く点灯し、充電完了で消灯します。充電時間は最大6～8時間かかります。　※3外部DC電源を接続する前に必ず送信機の電源SWはOFFにしてください。

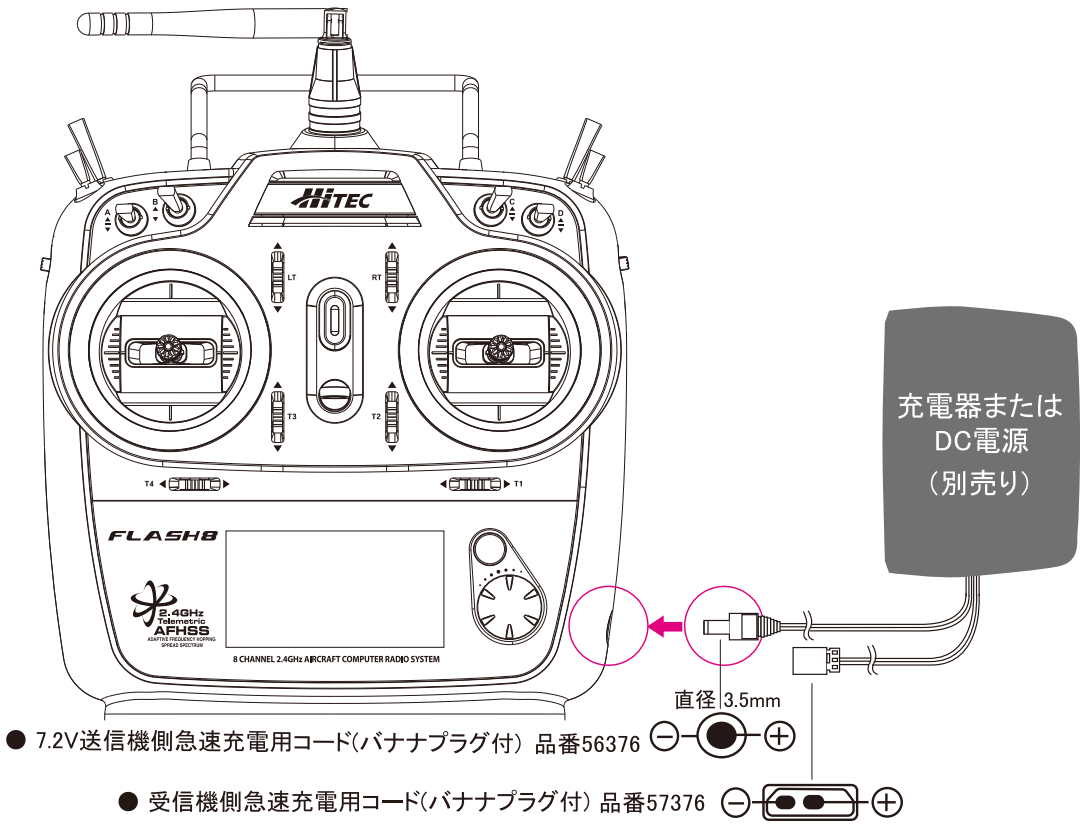
Warning

従来の送信機と異なり充電ジャックには専用充電器が内蔵されているので付属のLi-Feバッテリー以外の充電には絶対に使用しないでください。送信機内部やバッテリーが破損する恐れがあります。

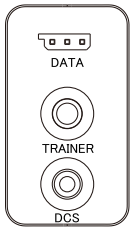
B:送信機からバッテリーを外してLi-Fe充電モードを備えたHitec製急速充電器(別売り)で充電します。充電電流は0.3～0.5Aに設定してください。この場合1C充電(1.4A)では電池内臓の保護回路が動作する場合があります。また他社充電器ではスタートできない場合もあります。　この場合は充電電流を下げてください。

Warning

このLi-Feバッテリーは送信機専用で電池パック内に保護回路が内臓されています。電流を多く流すと保護装置が動作して出力がカットされます。そのため送信機電源以外の用途では使用できません。



FLASH 8 外観説明

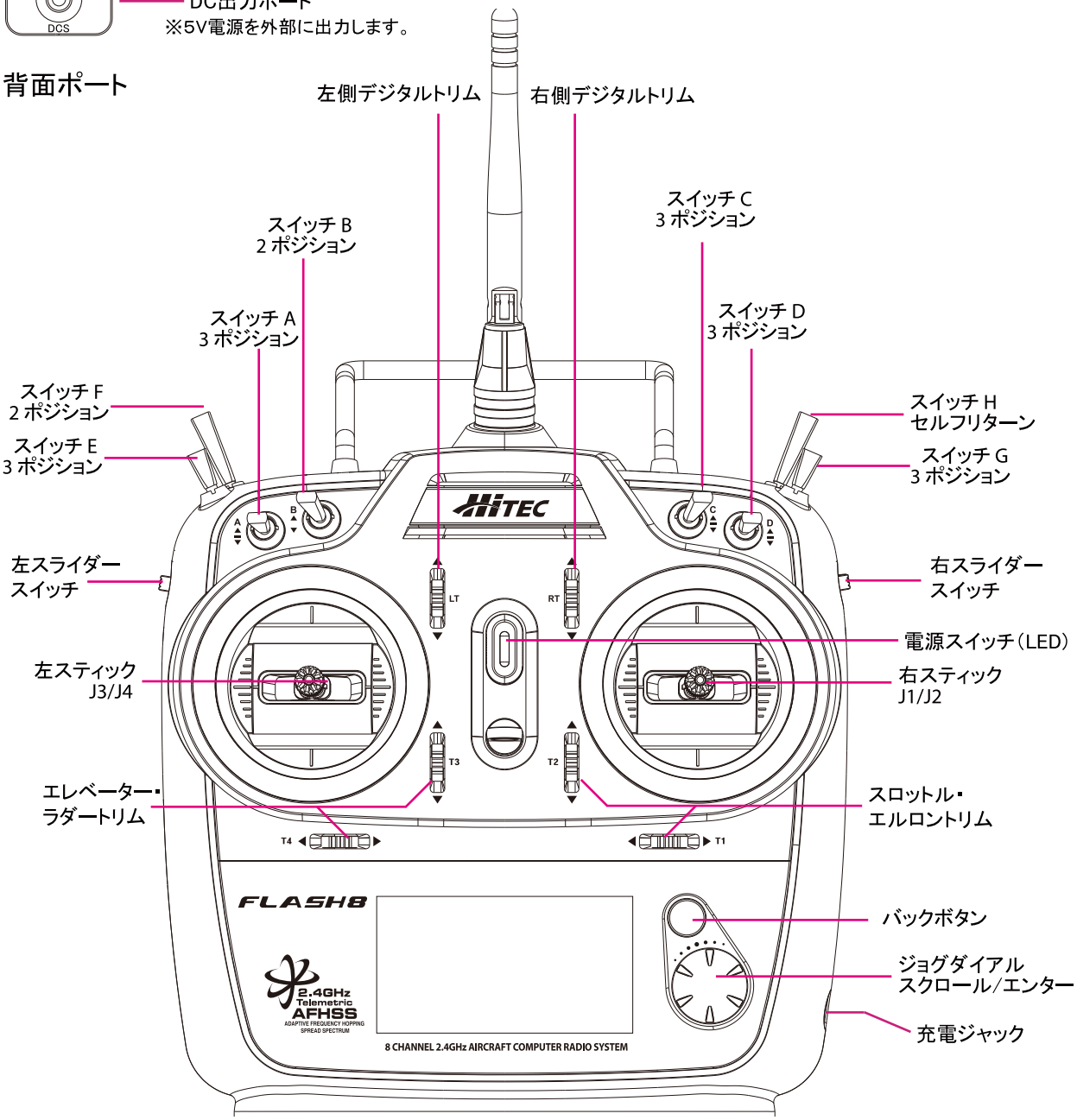


データーポート
※HPP-22等の接続用データポートとして使用します。

トレーナーポート

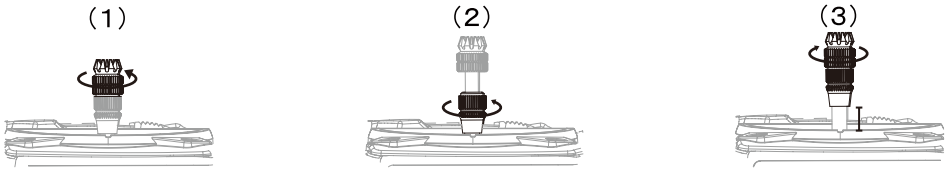
DC出力ポート
※5V電源を外部に出力します。

背面ポート



スティック　長さ調整

FLASH 8はユーザーに合わせ自由にスティックの長さを調節することが可能です。
スティックは上下二段に別れていますので、初めに上段を緩め次に下段を緩めます。
位置が決まったら上段を締めつけ固定します。



スティックテンション調整/モード切り替え

スティックテンション調整

FLASH 8は各スティックのスプリングテンションを調節することが可能です。
図を参考に各テンションボルトを時計回りに締め付けるとテンションが強くなり
反時計回りに回すとテンションが弱くなります。

Note

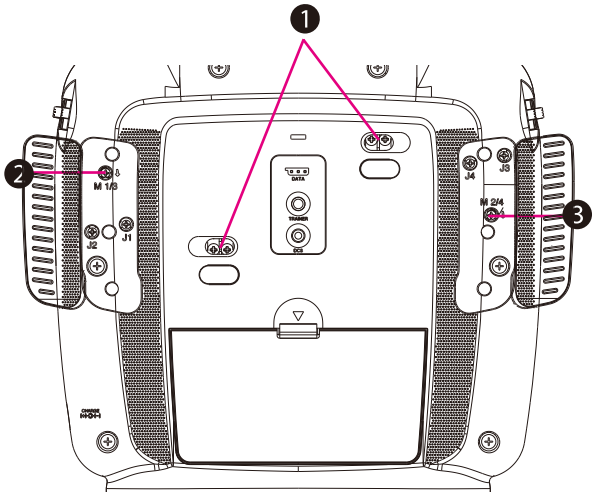
各スティックのテンション調整には1.5mm六角レンチ、その他の調整箇所にはプラスドライバーがそれぞれ必要です。

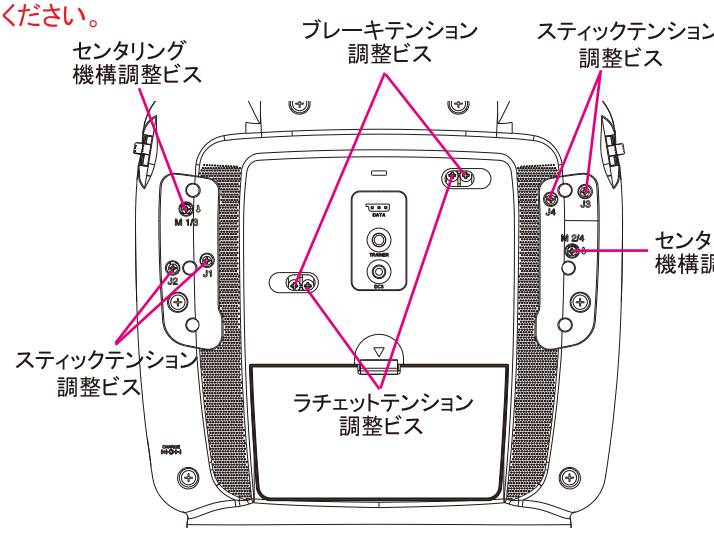
モード2への変更方法

FLASH 8は日本国内において全てモード1仕様となっておりますが、下記の手順
に従いモード2に変更することも可能です。機械的なモード変更が完了したら
P39を参照しソフト側のモード変更も必ず行ってください。

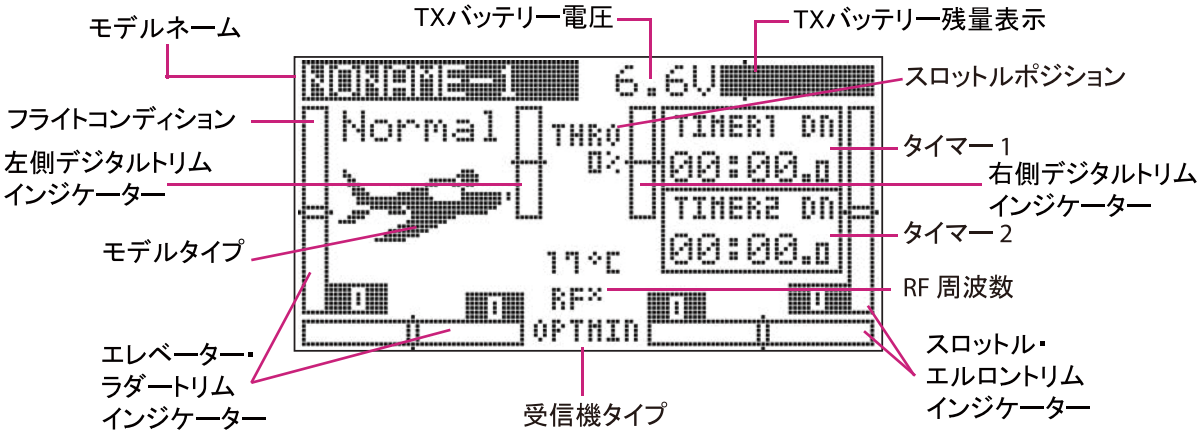
1. 送信機の裏にある4つのラバーカバーを外します。
2. スロットルスティックのラチェット/ブレーキどちらかのテンション調整ビスを緩めます。
3. テンション機構が有効になるまでM1/3センタリング機構調整ビスを緩めます。
4. テンション機構が無効になるまでM2/4センタリング機構調整ビス締め付けます。
5. スロットルスティックのラチェット/ブレーキどちらかのテンション調整ビスを締め付けます。
6. ラバーカバーを取り付けます。

※ 各種調整ビスは緩め過ぎないように十分注意してください。





FLASH 8 メインメニュー



Tip

メインメニューに表示されている各メニュー表示をプッシュすると瞬時に詳細設定メニューに移行します。

: 下記のメニューに移行することが可能です。

モデルセレクトメニュー「MDL. SEL」.

スペクトラメニュー「SPECTRA」.

タイマーメニュー「TIMER」.

フライトコンディション「F.COND」

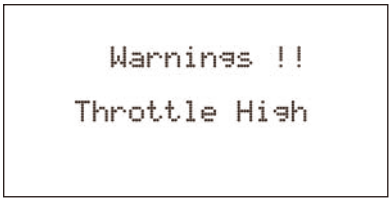
送信機 警告表示

フラッシュ 8は安全の為、操作を誤ると以下のエラーメッセージが表示されアラーム音がします。

: スタートアップ警告

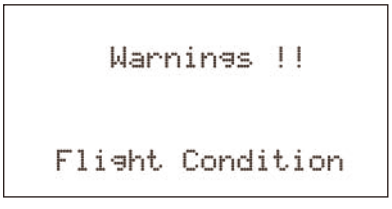
ハイスロットル警告

スロットルスティックが最スローでない状態で送信機のスイッチを入れるとアラーム音と右の図のメッセージが画面に表示されシステムは起動しません。



フライトコンディション警告

フライトコンディションやミキシングプログラムのスイッチがONになっている場合は送信機のスイッチを入れるとアラーム音と右の図のメッセージが画面に表示されシステムは起動しません。



送信機　警告音

フライト　警告

フライト中に連続的な警告音が発生した場合は送受信機の異常が考えられます。
すぐに着陸し送受信機を点検してください。

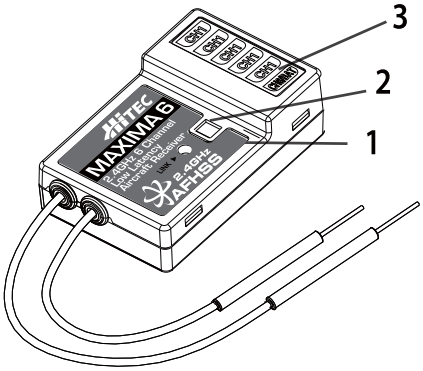
送信機　低電圧警告

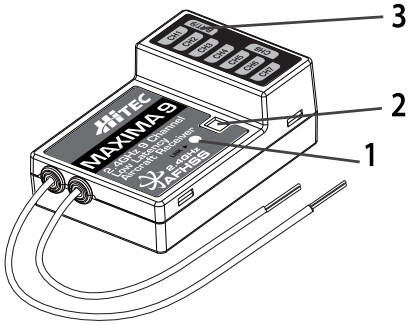
送信機バッテリーの電圧が低下すると送信機から警告音がします。

Maximaシリーズ受信機製品特徴

Caution

Maximaシリーズはハイレスポンスafhssモード専用の受信機です。FLASH シリーズ及び AURORA 9Xのみ使用可能で、その他の送信機では使用できません。また、アナログサーボは使用できませんのでご注意ください。





1. ファンクションボタン
   このボタンはフェイルセーフの設定とバインドの際に使用します

2. デュアルLEDライト
   レシーバーのセットアップ状態や電源が供給されていることを示します

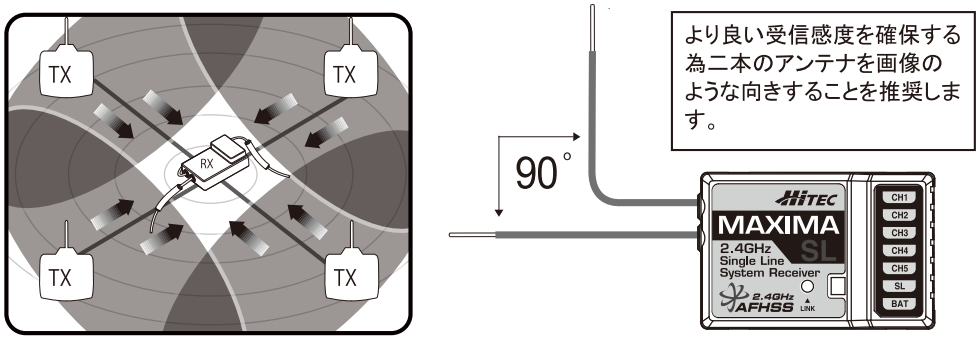
3. 各チャンネルとバッテリー接続の入力ポート
   バッテリーパワーとサーボのポート、ジャイロや他のアクセサリーの各入力ポートが装備されています

4. 入力バッテリー低電圧警告
   レシーバーのバッテリー・レベルが3.6V未満に低下すると、RED LEDが点滅します

5. フェイルセーフ及びホールドモード選択
   仮にレシーバーが正常に受信できなくなった場合は、フェイルセーフを作動することが可能です

受信機　アンテナの取り付け向き

Maximaシリーズ受信機のアンテナは優れた受信能力を発揮するように設計されております。性能を最大限発揮する為に、下記に参考図をご覧頂きアンテナを適切な向きに向け機体に搭載してください。

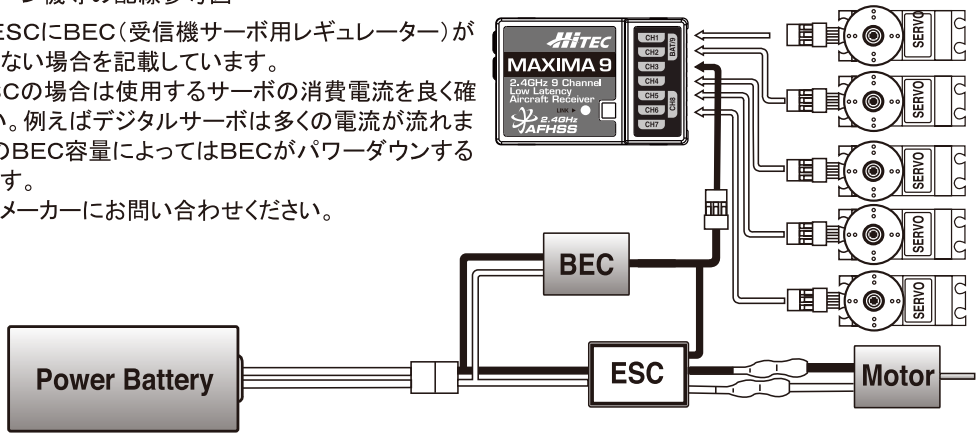


※デュアルアンテナの受信機は全てこの向きにして機体に取り付けます。

Maximaレシーバーシリーズ配線図

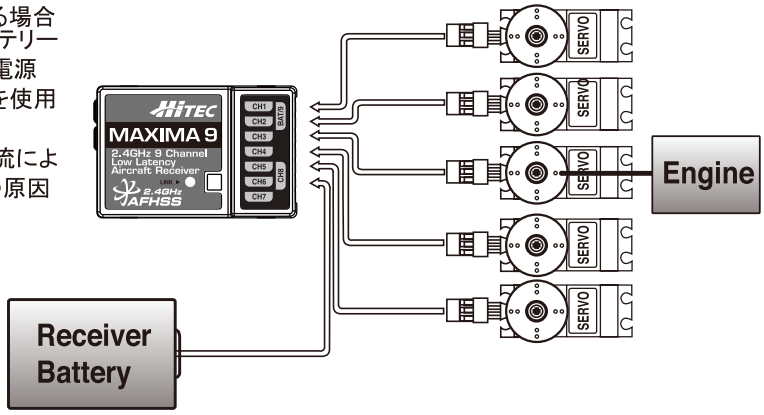
電動エアプレーン機等の配線参考図

イラストではESCにBEC（受信機サーボ用レギュレーター）が内蔵されていない場合を記載しています。
BEC内蔵ESCの場合は使用するサーボの消費電流を良く確認してください。例えばデジタルサーボは多くの電流が流れますのでESCのBEC容量によってはBECがパワーダウンする場合があります。
詳しくはESCメーカーにお問い合わせください。



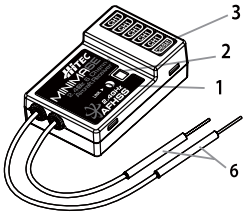
エンジン式エアプレーン機等の配線参考図

バッテリーは必要に応じてレギュレーターを通しサーボの対応電圧を確認し接続します。
デジタルサーボを多く使用する場合は、消費電流が多いのでバッテリー容量は大き目を使用、そして電源SWハーネスも必ず大電流用を使用してください。
通常のSWハーネスでは大電流により電圧降下を起こしトラブルの原因になります。



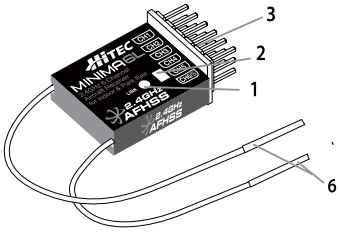
Optima/Minima シリーズ 受信機 製品特徴

次の項目にはOptimaシリーズとMinimaシリーズの製品の使い方や特徴について記載されております。
ご使用する際は受信機のバージョンが最新であること推奨いたします。

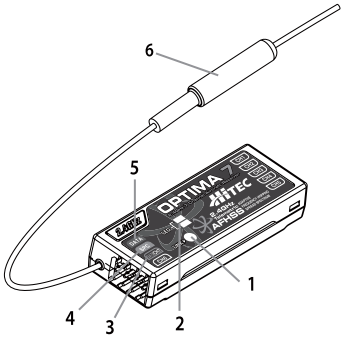


MINIMA 6E & MINIMA 6T

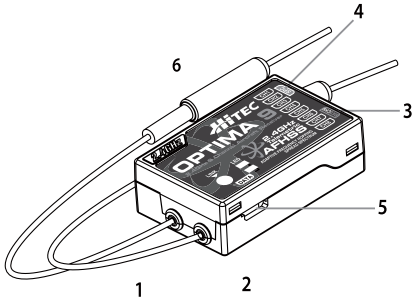
ミニマTは縦挿しタイプ
ミニマEは横挿しタイプ



MINIMA 6L



OPTIMA 7



OPTIMA 9

1. ファンクションボタン:
   このボタンはフェイルセーフの設定とバインドの際に使用します

2. デュアルLEDライト:
   レシーバーのセットアップ状態や電源が供給されていることを示します。

3. 各チャンネルとバッテリー接続の入力ポート:
   バッテリーパワーとサーボのポート、ジャイロや他のアクセサリーの各入力ポートが装備されています。

4. SPC サプリメント電源コネクター:
   受信機SPCコネクターより受信機のみの電源供給として動力バッテリーなどの電源の35Vまで入力可能です。

5. テレメトリーセンサー接続とデータポート:
   オプティマ9とオプティマ7にはテレメトリーやアップデートの際に必要になるデータポートが通常チャンネル
   とは別に用意されております。
   オプションにて販売されておりますHPP-22を接続しシステムのバージョンアップを行う際やテレメトリーシステムの
   センサーステーションを接続する際に使用します。(テレメトリーシステムについてもオプション販売となります)

6. BODA SYSTEM (オムニブーストアンテナシステム):
   オムニブーストアンテナを採用、他社製に比べ2倍の広い電波の受信角度(指向性)を持つ高性能アンテナで送信機の
   電波をしっかりと受信します。OPTIMAシリーズでは通常のBODAシステム、MINIMAシリーズでは受信感度の低下を
   極力抑えたMINI BODAシステムがそれぞれ搭載されています。本シリーズではDUAL BODAシステムが搭載されている
   OPTIMA9が最大の受信感度を発揮し広範囲を飛行させる場合に最適です。

Optima/Minima シリーズ 受信機 製品特徴

適合性:
オプティマとミニマの受信機シリーズはHitec AFHSS 2.4GHzシステムを搭載した送信機と適合します。

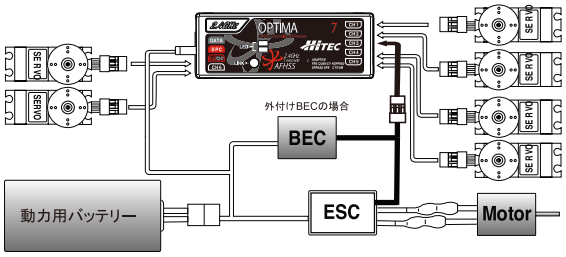
フェイルセーフ及びホールドモード選択:
仮にレシーバーが正常に受信できなくなった場合は、フェイルセーフを作動することが可能です。

受信機電源の電圧低下警告:
オプティマシリーズのみ受信機電源の電圧低下を検知しユーザーに警告する機能があります。

SPCサプリメント電源コネクタ
受信機はテレメトリーの為に電波を送信します。このために消費電流が190mA流れます。お使いのESCのBECの容量が少ない場合は動力用電池(4.8～35.0V)をこの端子に直接接続してください。受信機内部にDC-DCコンバーターが内蔵され安定した電源を受信部のみに供給します。しかしサーボへは供給されませんのでサーボ用電源をESCのBECか外付けBECで供給してください。

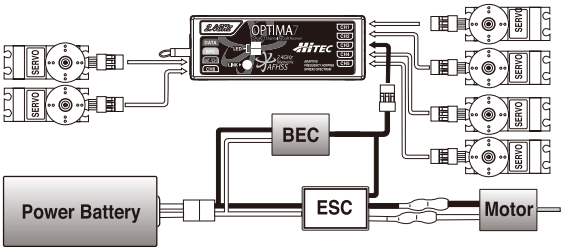
Note
7.4V対応のサーボはハイテック製でも数種類ありますが、使用可能電圧の違うサーボを混載してご使用になる場合は低いものに合わせて受信機用バッテリーをお選びください。
BECの場合も同じように設定をしてください。

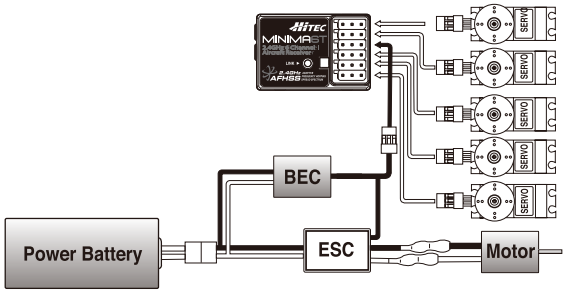
SPC電源システムの接続例



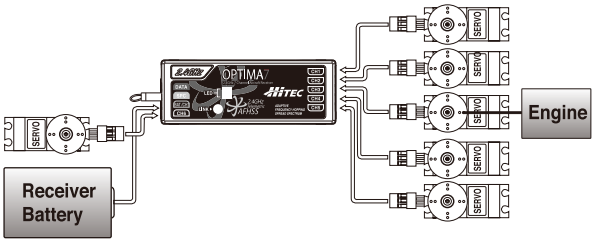
Optima/Minima シリーズ 受信機 配線図

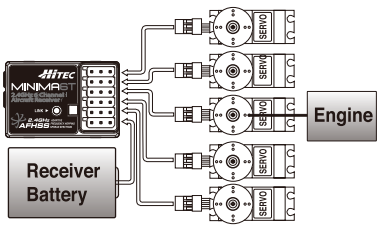
電動エアプレーン機等の配線参考図
イラストではESCにBEC(受信機サーボ用レギュレーター)が内蔵されていない場合を記載しています。BEC内蔵ESCの場合は使用するサーボの消費電流を良く確認してください。例えばデジタルサーボは多くの電流が流れますのでESCのBEC容量によってはBECがパワーダウンする場合があります。詳しくはESCメーカーにお問い合わせください。





エンジン式エアプレーン機等の配線参考図
バッテリーは必要に応じてレギュレーターを通しサーボの対応電圧を確認し接続します。デジタルサーボを多く使用する場合は、消費電流が多いのでバッテリー容量は大き目を使用、電源SWハーネスも必ず大電流用を使用してください。
通常のSWハーネスでは大電流により電圧降下を起こしトラブルの原因になります。

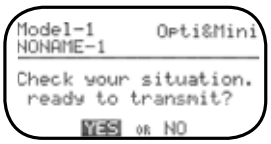




Optima / Minimaシリーズ受信機　バインド方法

Hitec AFHSSシステムは、Hitec 2.4GHzの専用プロトコルを用いMAXIMAやOPTIMAなどの受信機とバインドします、一度バインドしますと混信などの妨害は受けない設計となっております、また新規モデルを作成し受信機を増設してもバインド作業を完了させればモデルを切り替えても再バインドの必要はありません。

1 送信機の電源を入れ電波の発射確認画面にてカーソルをYESに合わせプッシュします。

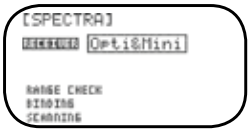


2

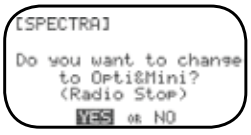


ジョグダイアルとバックボタンを同時に長押ししてシステムメニューを開きます。
次にカーソルをSpectraに合わせプッシュします。

3 プッシュ&スクロール操作でreceiverメニューをOpti&Miniに変更します。



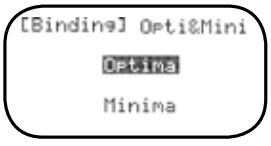
ジョグダイアルをプッシュしてレシーバータイプを確認します。問題がなければYESをプッシュして決定します。
さらにこの画面の次にready to transmit?と表示されますのでYESをプッシュします。



4 プッシュした後、自動的にスペクトラメニューに戻ります。カーソルをBINDINGに合わせプッシュします。



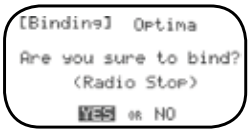
お使いの受信機タイプにカーソルを合わせプッシュします。



5

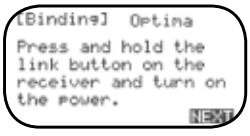
OPTIMA	MINIMA (MAXIMA)

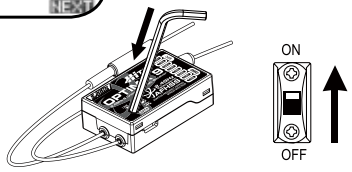
YESを押しバインドを開始します。

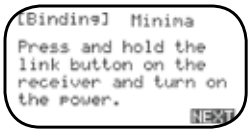


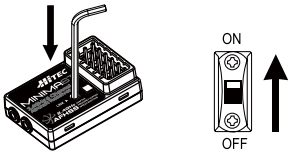


6 ファンクションボタン（バインドボタン）を押しながら受信機の電源を入れます。

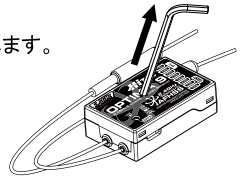




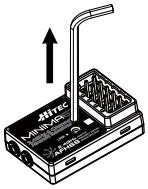




7 バインドボタンを離します。



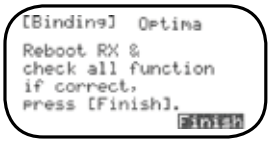
バインドボタンを離します。
送信機からのシグナルを受信すると受信機の赤と青のLEDライトが高速点滅します。



Optima / Minimaシリーズ受信機　バインド方法

8

オプティマシリーズはバインドモードが終了すると
自動的に次の画面に切り替わります。
（受信機の赤のLEDが点灯します。）

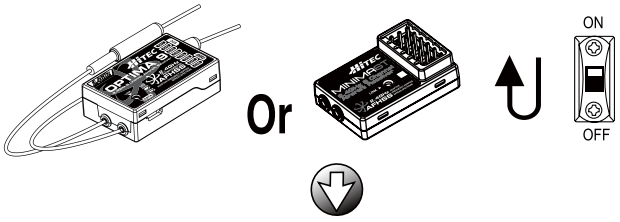


LEDの点滅が終了したらジョグダイアルをプッシュし
次の画面に切り替えます。（青のLEDが点灯します。）

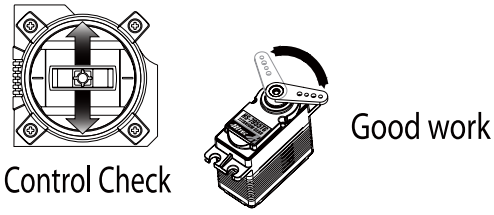


9

一度、受信機の電源を切ってから再度電源を入れ直してください、このとき赤（MINIMAの場合は青）のLEDが
点灯していることを確認します。



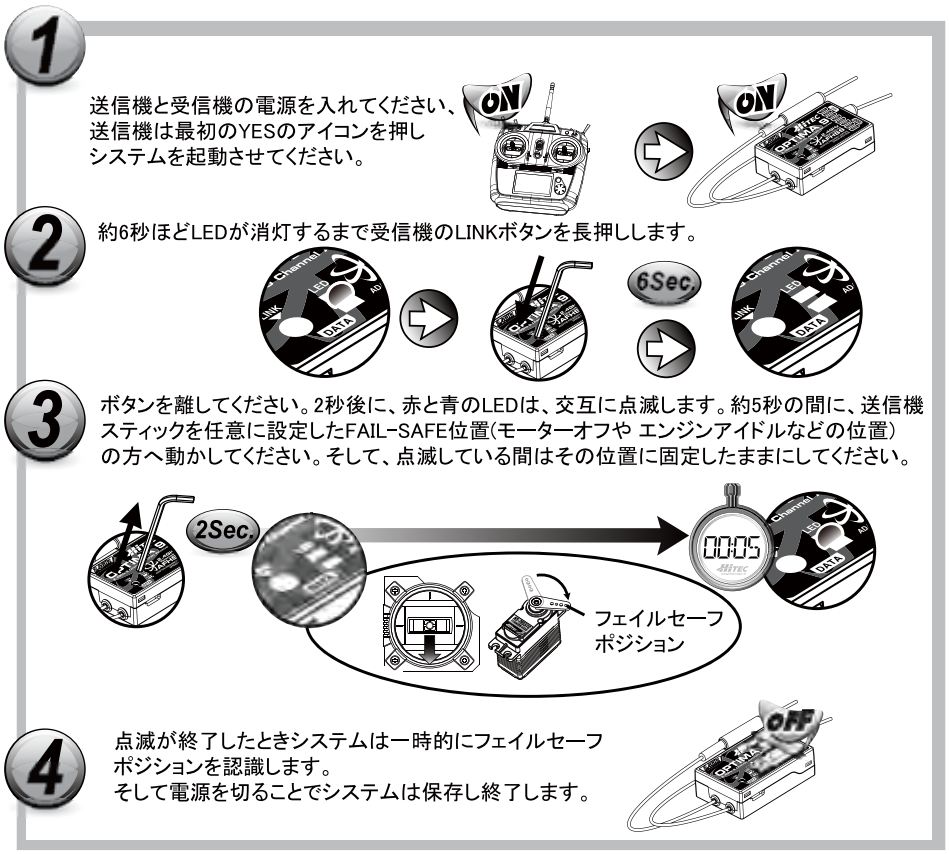
バインドが成功しサーボが正常に動作したら、画面のFnishをプッシュします。



Caution 仮にバインドが正常に行われなかった場合はステップ6まで戻り再度バインド作業をやり直してください。

フェイルセーフとホールドモードの設定

フェイルセーフの設定を正常に行えば送信機の電波が途切れた時、サーボはあらかじめ設定した位置に移動しフェイルセーフが働きます。仮にフェイルセーフ機能を作動させない場合はホールドモードとなりこのモードでは送信機の電波が途切れた時のその瞬間の位置でサーボは固定されます。
通常はフェイルセーフ機能を使用されることを推奨いたします。設定する際はモーターオフやエンジンはアイドルにするなど万が一の際に危険が最小限となるようにしてください。



フェイルセーフ設定のテスト

1. スティックをフェイルセーフで設定した以外のポジションにして送信機の電源を切ってください。
正しく設定されておりましたらホールドポジションの後、約1秒ほどで先ほど記憶したフェイルセーフポジションへ移行します。

フェイルセーフの解除(ホールドモードへ切替)

1:送信機、受信機をONにしてサーボ動作を確認します。
2:受信機のセットアップボタンを6秒間押して離すと赤と青のLEDが交互に点滅します。
3:ボタンを再度押すと、赤LEDの点灯になりフェイルセーフは解除され、ホールドモードが機能します。

ホールドモードの確認

送信機、受信機を動作させているときに送信機をOFFにします。すると各サーボは送信機がOFFになった瞬間のスティック位置で固定(ホールド)されます。

テレメトリーシステムについて

オプティマ9及び7はオプションのセンサーを使用することによりテレメトリーシステムに対応します。
また、受信機電源の電圧表示は標準で装備されております。

オプションテレメトリーセンサー:
各電圧/電流値 、各温度、回転数、高度、速度、GPS座標などの情報を測定するセンサーがオプティマ9及び7で使用可能です。新たなセンサーが追加される場合は弊社WEBサイトにて発表いたします。

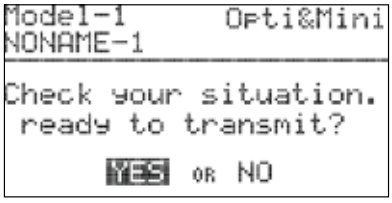
Note	テレメトリー機能はオプティマシリーズの受信機で使用可能です。

Warning	2.4Gシステムと高電圧(HV)対応サーボを使用する際は必ず高容量のバッテリーを満充電でご使用ください、そして受信機電圧は常に注意を払ってください。

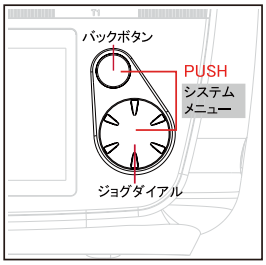
レンジチェックファンクション

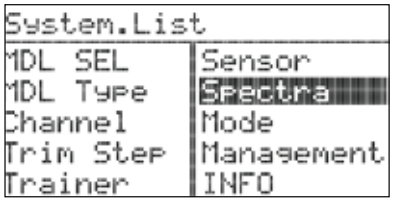
最初のフライトでは必ずレンジチェックを行い、送受信機の受信状態に問題がないことを確認します。レンジチェックは受信状態を確認するために送信機の出力を低下させる機能です。チェック中は機体から30m以上離れ正常に通信できていることを確認します。サーボ等の動作に異常が確認された場合は絶対に飛行させないでください。

1. 送信機の電源を入れYES を選択し電波を発射します。



2. ジョグダイアルとバックボタンを同時に長押ししてシステムメニューを開きます。その後ジョグダイアルでスクロールさせ「Spectra」スペクトラを選択したらダイアルを押しスペクトラメニューに切り替えます。

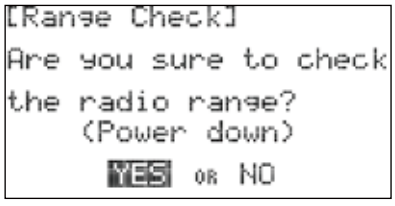




3. スクロールさせ「RANGE CHECK」レンジチェックをプッシュします。



4. 問題がなければYESをプッシュしレンジチェックモードを作動させます。



5. 送信機を機体から約30m程離してレンジチェックを行いチェックが完了したら「STOP」をプッシュします。

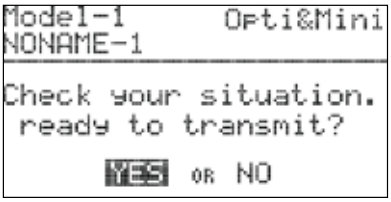


スキャンモード

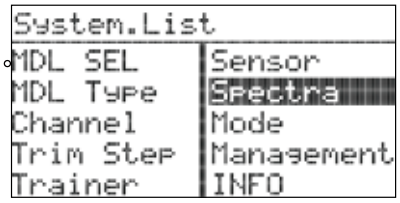
スキャンモードは電波を発射する前に送信機と受信機でバンドの使用状況をスキャンしてバンドの空いている範囲を検出します。そして空いている範囲でFHSS方式で電波を発射する方式です。

※スキャンモードはヨーロッパ諸国の電波法に適合させるモードとなりますので、国内では使用しないでください。

1. 送信機の電源を入れ電波の発射の有無を確認したら YESをプッシュします。



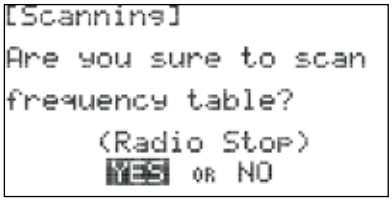
2. ジョグダイアルとバックボタンを同時に長押ししてシステムメニューを表示させます。次にカーソルを「Spectra」に合わせプッシュします。



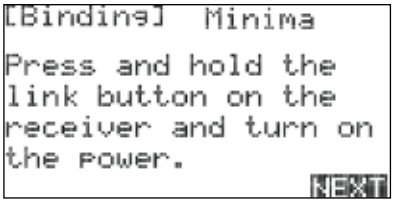
3. カーソルを「Scanning」に合わせプッシュします。



4. スキャンモードを有効にする場合はYESをプッシュします。 その後、画面に表示される説明に従いスキャンモード でのバインドを行います。

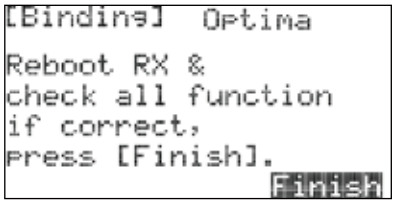


5. スキャンモードでのバインドが成功した場合は受信機の電源を OFFにして一度リセットします。



スキャンモード

6. サーボの動作に異常がないことを確認し受信機とのバインドに問題がなければ「Finish」をプッシュします。

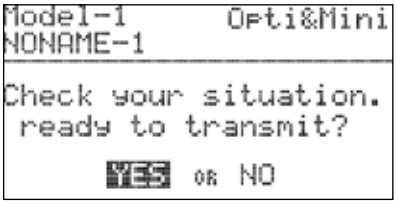


SLT プロトコル

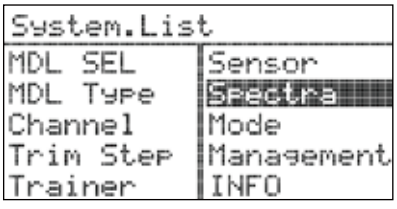
FLASH 8はSLTプロトコルに対応しております。その為、ハイテック製品SLT対応モデルとバインドすることが可能です。

※一部対応しないモデルもありますので詳しくは弊社カスタマーサービスにお問い合わせください。

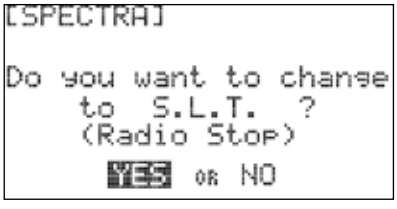
1. 送信機の電源を入れ電波の発射確認画面にてカーソルをYESに合わせプッシュします。

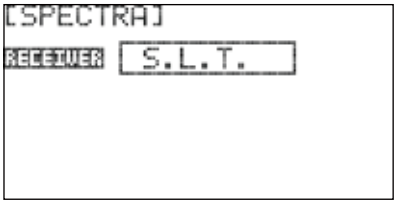


2. ジョグダイアルとバックボタンを同時に長押ししてシステムメニューを表示させます。次にカーソルを「Spectra」に合わせプッシュします。



3. プッシュ&スクロール操作で「receiver」メニューをSLTに変更します。





SLT バインド方法

1. スペクトラがSLTに切り替わっていることを確認し、送信機の電源を入れ電波の発射確認画面にてカーソルをYESに合わせプッシュします。

2. 受信機の電源をONにします。

3. SLTモデルのバインドにはオートバインド式とリンクボタン式があります。機体のマニュアルを確認しリンクボタン式であればボタンを押し、オートバインド式であればバインドが完了するまで待ちます。それぞれバインドが完了したらサーボの動作を確認します。

※SLT対応モデルとの詳しいバインド手順は機体のマニュアルを確認してください。

アクロ＆グライダークイックスタートガイド

アクロ＆グライダークイックスタートガイドは一般的なアクロ（動力飛行機）及びグライダーを対象とした初期設定ガイドとなります。FLASH 8の基本的な操作に慣れていただく為、よくご覧ください。

Note

マルチコプタータイプの機体を設定する場合は後からチャンネルファンクションで自由に操作系統を割り当てられる為、アクロモード・1AILE・TAIL Normalで設定することを推奨します。

単発エンジン−2エルロンの機体例:
Channel 1 - Aileron （エルロン）
Channel 2 - Elevator(エレベーター）
Channel 3 - Throttle（スロットル）
Channel 4 - Rudder（ラダー）
Channel 5 - Aileron #2（エルロン2）

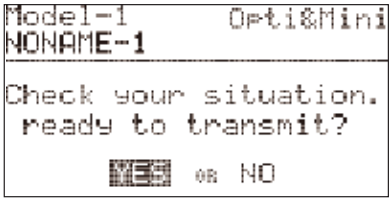
2チャンネルグライダー（動力無し）:
Channel 1 - Aileron (エルロンまたはラダー)
Channel 2 – Elevator（エレベーター）

この設定では以下の事項が完了していることを確認します:
1. サーボ等のRC機器が機体に搭載されている。
2. 送信機と受信機のバインド（リンク）が完了している。

Warning

安全の為に電動機体のセットアップ中はプロペラを外してください。

1. 送信機の電源を入れます。（機体の電源はOFF）

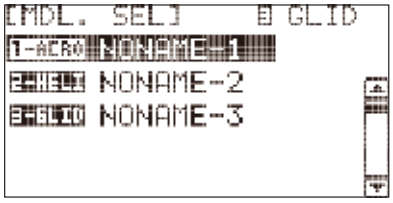


2. 電波の発射の有無を選択します。（ここではNOを選択します。）

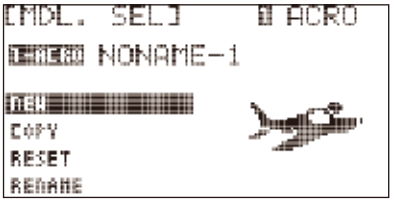
3. ジョグダイアルとバックボタンを同時に長押ししてシステムメニューを表示させます。



4. システムメニューより「MDL..SEL」を選択しプッシュします。



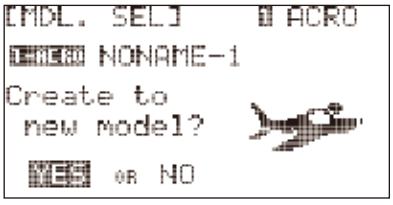
5. デフォルトの（NONAME−1)にカーソルを合わせプッシュします。その後に「NEW」をプッシュします。



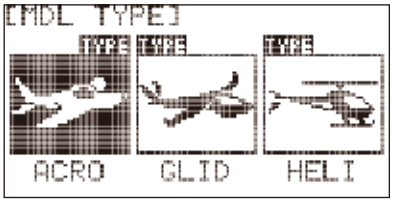
Note

機体タイプでグライダーを選択した場合はアクロモードと重複する設定メニューが表示されます。

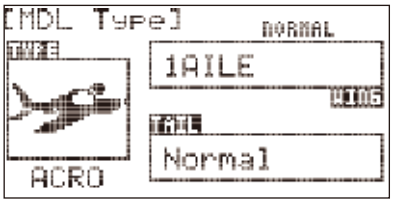
6. 「Create to new model ?」新しくモデルを作りますか？と表示されますのでYESをプッシュします。



これは「MDL TYPE」モデルタイプ画面です。ACROまたはGLIDを選択しプッシュします。



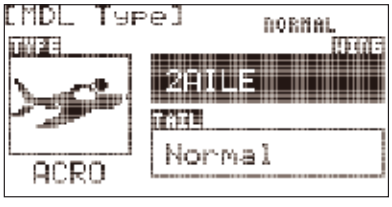
ジョグダイアルを操作し画面上のカーソルを「WING」へ移動させてダイアルをプッシュします。カーソルが消えるとスクロール操作でエルロンタイプを変更可能です。お使いの機体が1サーボエルロンの場合は「1AILE」2サーボエルロンの場合は「2AILE」を選択します。決定したら再度プッシュします。



Note

モデルタイプ設定する時、フラッシュ 8はそのモデルに適した設定項目に自動的にカスタマイズされます。例えば、主翼タイプでフラップを設定しない場合は後の設定項目においてフラップコントロール等の設定項目が表示されません。

7. 次にプッシュ＆スクロールを行い、ご使用の機体に適合するテールウイングタイプを選択します。



8. バックボタンを一度押すと「SPECTRA」スペクトラ、受信機選択画面に切り替わります。適合する受信機タイプを選択してください。



アクロ＆グライダークイックスタートガイド

Note

バインドが完了していない場合は初めにP18をご確認ください。

9. 送信機の電源を一度OFFにして再度ONにします。初期画面にて電波の発射の有無を確認しYESをプッシュします。ここでエアプレーンの初期設定は完了となりますが、飛行の為により詳細な設定が必要な場合はセクション4・5のモデルプログラムメニューご確認ください。

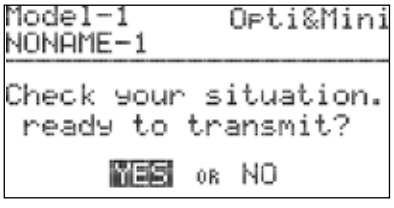
ヘリコプタークイックスタートガイド

ヘリコプタークイックスタートガイドはMPMやCCPMタイプのフライバー付き及びフライバーレスタイプの一般的なヘリコプターを対象とした初期設定ガイドとなります。FLASH 8の基本的な操作に慣れていただく為、よくご覧ください。

受信機のサーボ接続チャンネル:

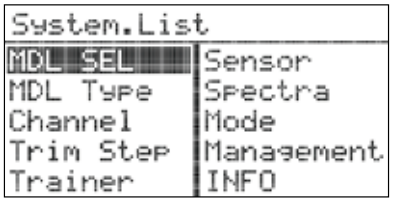
Channel 1 – Roll Cyclic / Aileron ロールサイクリック/エルロン
Channel 2 – Pitch Cyclic / Elevator ピッチサイクリック/エレベーター
Channel 3 – Throttle スロットル
Channel 4 – Tail Rotor Pitch / Rudder テールピッチ/ラダー
Channel 5 – Gyro Function ジャイロ感度
Channel 6 – Collective Pitch コレクティブピッチ

1. 送信機の電源を入れます。(機体の電源はOFF)

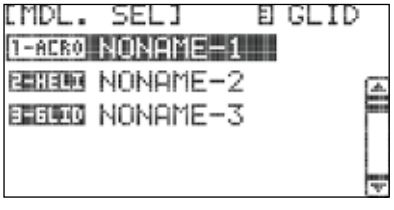


2. 電波の発射の有無を選択します。(ここではNOを選択します。)

3. バックボタンとジョグダイアルを同時に長押ししてシステムメニューを表示させます。

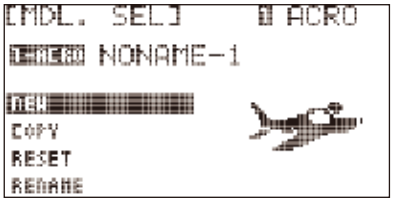


4. システムメニューより「MDL.SEL」モデルセレクトを選択しプッシュします。



ヘリコプタークイックスタートガイド

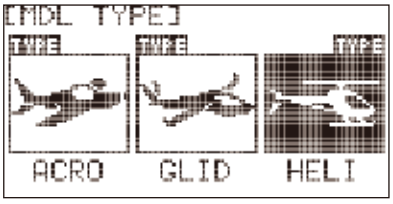
5. デフォルトの（NONAME-1)を選択しプッシュした後
さらにNEWをプッシュします。



Note

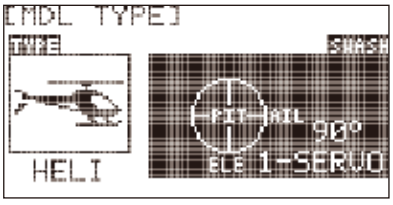
安全の為にセットアップ中は電動ヘリコプターのモーター配線やピニオンギア等を外し動力が伝わらないようにしてください。

6. 「Create to new model ?」新しくモデルを作りますか？と表示されますのでYESをプッシュします。次に「MDL TYPE」モデルタイプ画面が表示されます、HELIを選択しプッシュします。

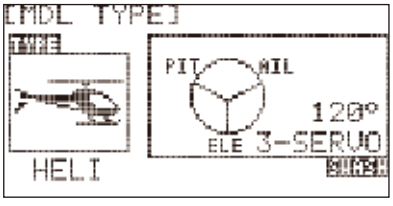


ヘリコプターモデルタイプでは初めにスワッシュタイプを設定します。

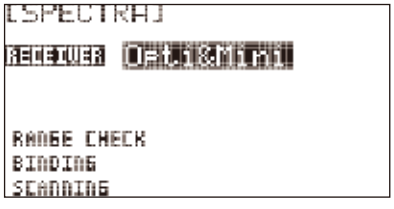
フライトシュミレーター/NE製ヘリコプター/一部3軸ジャイロ等を使用する場合は「1-SERVO 90° 」を選択します。



7. ここでは仮に「 120° 3-SERVO」を選択します。スクロールさせ決定したらプッシュします。



8. バックボタンを一度押すとレシーバータイプ選択画面に移行します。ジョグダイアルのプッシュ＆スクロール操作で使用する受信に適合するレシーバータイプに変更します。



9. 送信機の電源をOFFにした後、再度ONにしその後、電波の発射の有無を確認します。この項目で機体を飛行させる前の初期設定が完了となりますが飛行までのより詳細な設定を行う場合はセクション4・6を確認してください。

システムメニュー 「System.List」

フラッシュ 8は大きく分けて二種類のメニューグループを持ちます。送信機の基本的な設定を行うのがシステムメニューです。そして機種ごとに様々な機能の設定を行うのがモデルメニューです。
ここではシステムメニューの設定方法について説明します。

Note

FLASH 8の基本的な操作慣れていただく為、初めにクイックスタートガイドを参照する事を推奨します。

システムメニューでは下記のメニューについて設定が可能です。

MDL.SEL: モデルセレクトメニュー

- **SELECT:** モデルメモリーの選択 「セレクト」
- **NEW:** 新規モデルメモリーの作成
- **COPY:** モデルメモリーのコピー
- **RESET:** モデルメモリーの初期化「リセット」
- **DELETE:** モデルメモリーの削除「デリート」
- **RENAME:** モデルメモリー名称変更「リネーム」

MDL TYPE: モデルタイプメニュー

- **ACRO:** 飛行機メニュー 「エンジン・電動」
- **GLID:** グライダーメニュー 「動力有り・無動力」
- **HELI:** ヘリメニュー 「エンジン・電動」

CHANNEL: チャンネルファンクション設定

TRIM STEP: トリムステップ (1-200). デフォルト 12

TRAINER: トレーナー

SENSOR: テレメトリーセンサー

SPECTRA: スペクトラ 「オプティマ ミニマ SLT」

- **Range Check Mode:** レンジチェックモード
- **Binding:** バインド
- **Scanning:** スキャンモード

MODE: スティックモード変更 モード1-4

MANAGEMENT: システムマネージメント

- **BACKLIGHT:** バックライト
- **CONTRAST:** スクリーンコントラスト
- **BATTERY:** バッテリータイプ 「アルカリ.NiMh.NiCD.Lipo.Life」

システムメニュー 「System.List」

UI FEEDBACK: ボタン操作時のフィードバック音のON・OFF設定が可能です。

WARNING SETUP: 下記のワーニング設定について変更可能です。

RF CHECK: 電波発射確認をキャンセルすることができます。

HIGH THROTTLE: 電源投入時のハイスロットル警告

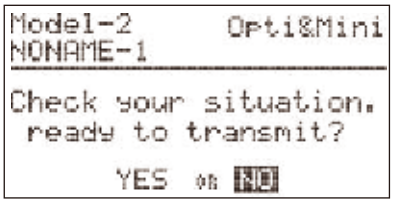
FLIGHT CONDITION: 電源投入時のフライトコンディション警告

FEEDBACK ：ワーニング作動時のフィードバックタイプが変更可能です。

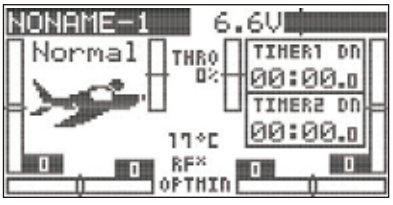
INFO: FLASH 8のバージョンを確認できます。

システムメニューの表示方法 「System.List」

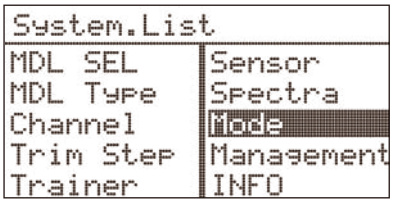
1. 送信機の電源を入れ電波の発射の有無を確認したら NOをプッシュします。



2. ジョグダイアルとバックボタンを同時に長押ししてシステムメニューを表示させます。



3. これがシステムメニュー画面となります。ジョグダイアルを操作し設定する項目にカーソル移動させ決定したらプッシュします。



モデルセレクトメニュー 「MDL.SEL」

モデルセレクトメニューはシステムメニュー及びメインメニューより選択し表示することが可能です。

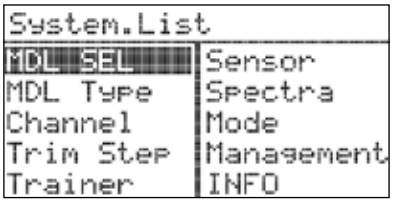
● モデルセレクトメニュー設定項目

NEW: 新規モデルメモリーの作成
SELECT: モデルメモリーの選択 「セレクト」
COPY: モデルメモリーのコピー
RESET: モデルメモリーの初期化「リセット」
DELETE: モデルメモリーの削除「デリート」
RENAME: モデルメモリー名称変更「リネーム」

モデルセレクトメニュー 「MDL.SEL」

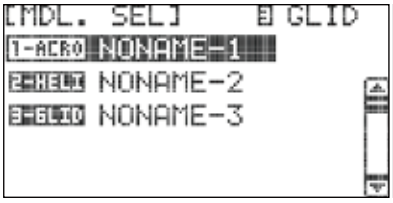
1:新規モデルメモリーの作成 「NEW」

システムメニューより「MDL..SEL」を選択しプッシュします。
デフォルトの(NONAME-1)にカーソルを合わせプッシュします。
その後に「NEW」をプッシュします。

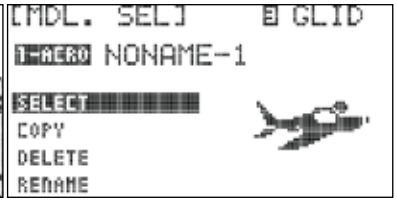


※選択されているモデルメモリー以外からは新しいモデルの作成はできません。

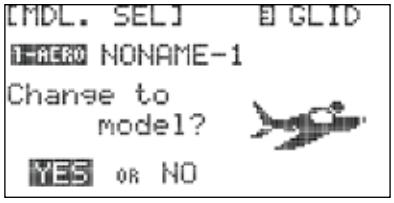
2. モデルメモリーの選択 「SELECT」



a.ジョグダイアルを回し
任意のモデルネームに
カーソルを合わせプッシュ
します。



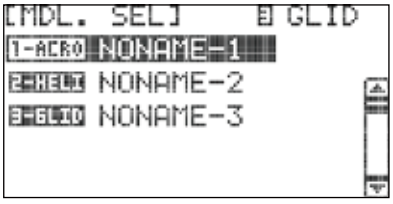
b.カーソルを「SELECT」に
合わせプッシュします。
※既にモデルが選択され
ている場合は「SELECT」の
文字は表示されません。



c.モデルを切り替える
場合は「YES」をプッシュします

3. モデルメモリーのコピー 「COPY」

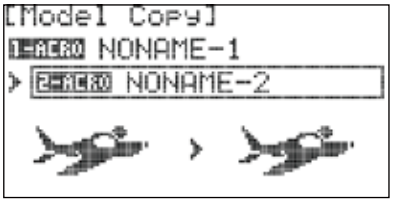
a.モデルメモリーが二つ以上ない場合は新しくモデルメモリーを作成します。



b.モデルセレクトメニューより
コピーしたいモデルを選択し
プッシュします。

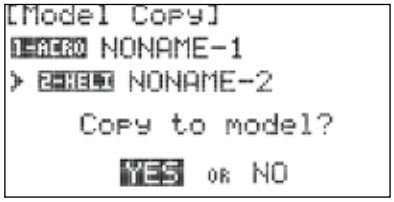


c.カーソルを「COPY」に合わせ
プッシュします。



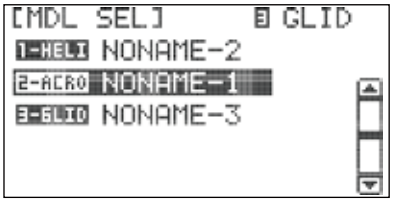
d.プッシュ&スクロール操作で
コピー先のモデルを選択します。
プッシュし決定します。

e.コピーする場合は「YES」をプッシュします。



モデルセレクトメニュー「MDL.SEL」

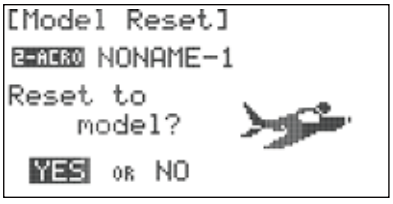
4.モデルメモリーの初期化 「RESET」



a.リセットしたいモデルを選択します。

b.カーソルを「RESET」に合わせプッシュします。





c. リセットしたいモデルを確認し問題なければ「YES」をプッシュします。モデルデータは初期値に戻ります。ただしモデル名、レシーバータイプ及びウイングタイプは以前のデータが引き継がれます。

Note

選択しているモデルデータのみリセットが有効です。

5. モデルメモリーの削除 「DELETE」

a.モデルセレクトメニューより削除したいモデルを選択します。

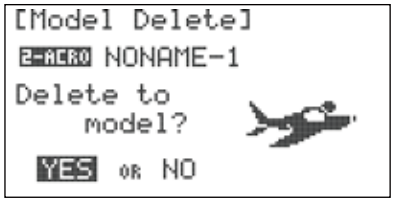
Note

選択しているモデルデータは削除できません。

b. スクロールさせ「DELETE」選択しプッシュします。



c. 削除したいモデルを確認し問題がなければ「YES」をプッシュします。



6. モデルメモリーの名称変更 「RENAME」

a.モデルセレクトメニューより名称変更したいモデルを選択します。



b. スクロールさせ「RENAME」選択しプッシュします。



c.リネーム画面が表示されます。スクロールさせると選択されたアルファベットにカーソルが自動的に移動します。変更したい文字にカーソルを合わせプッシュします。



d. スクロールさせ文字を選択したらプッシュします。

e.名前を変更できるまでステップc～dを繰り返してください。

f.バックボタンを押しモデルセレクトメニューに戻ります。

モデルタイプ 「Model Type」

モデル（機体）のタイプを選択するとそのモデルに適合した設定メニューに自動的にカスタマイズされます。
通常はモデルメモリーを新しく登録する際に任意のアイコンを選択してご使用の機体に適したタイプを選択します。

フラッシュ7は下記のモデルタイプが設定可能です：

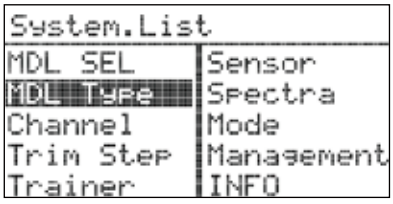

ACRO: エアプレーン「エンジン・電動」


GLID: グライダー「無動力・動力有り」

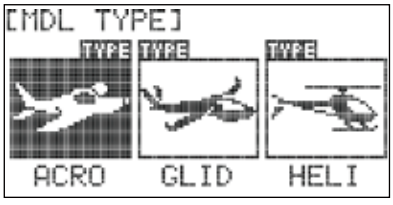

HELI: ヘリコプター「エンジン・電動」

モデルタイプ 「ACRO」 設定方法

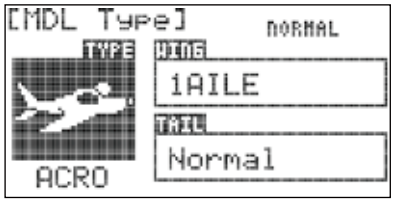
1. システムメニューより「MDL TYPE」を選択します。



2. プッシュ＆スクロール操作でモデルタイプを選択します。
※デフォルトはACROアクロモードです。



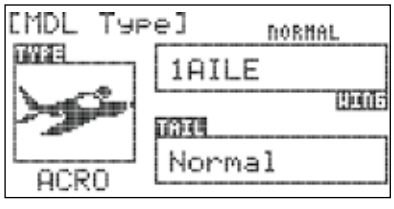
3. ジョグダイアルを再度プッシュしアクロメニューに切り替えます。
4. アクロメニューではご使用の機体に合わせウイングタイプと（尾翼）テールタイプが変更可能です、プッシュ&スクロール操作で設定を変更します。



アクロメニューでは下記のウイングタイプが設定可能です：

● 標準ウイングタイプ

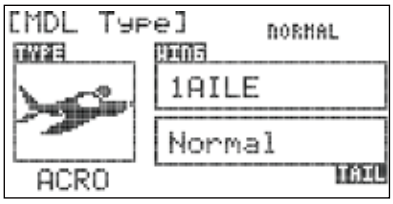
1AILE – エルロンサーボ×１
1AILE+1FLAP – エルロンサーボ×１＋フラップサーボ×１
1AILE+2FLAP - エルロンサーボ×１＋フラップサーボ×２
2AILE – エルロンサーボ×２
2AILE+1FLAP - エルロンサーボ×２＋フラップサーボ×１
2AIL+2FLAP - エルロンサーボ×２＋フラップサーボ×２



モデルタイプ 「ACRO」 設定方法

● デルタウイングタイプ　全翼機（エレボン）
2AILE- エルロンサーボ×2
2AILE+1FLAP - エルロンサーボ×2＋フラップサーボ×1
2AILE+2FLAP- エルロンサーボ×2＋フラップサーボ×2

5. 適合するウイングタイプを選択したらプッシュし決定します。
6. カーソルを「TAIL」に合わせてプッシュします。



（尾翼）テールタイプ:
NORMAL: ノーマルタイプ
水平尾翼と垂直尾翼で構成される一般的な尾翼タイプです。

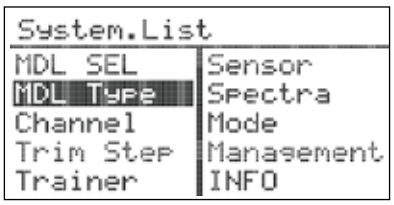
V-TAIL: Vテールタイプ
水平尾翼と垂直尾翼がV字型に組み合わされた尾翼タイプです。

Ailevator: エイルベータータイプ
エレベーターを2つのチャンネルで構成し尾翼動翼にてピッチ及びロールコントロールを可能にします。
テイルロンを必要とする機体に有効です。

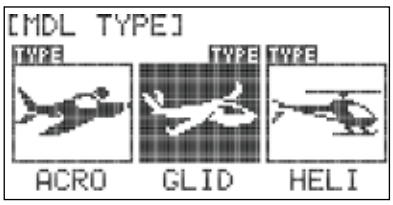
デルタウイング　テールタイプ:
None: 尾翼なし
1Servo: 尾翼あり　サーボ×1
2Servo: 尾翼あり　サーボ×2

7. スクロールさせ適合するテールタイプを選択したらプッシュし決定します。
8. バックボタンを押しシステムメニューに戻ります。

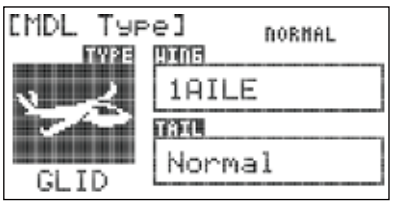
モデルタイプ 「GLID」 設定方法



1. システムメニューより「MDL TYPE」を選択します。



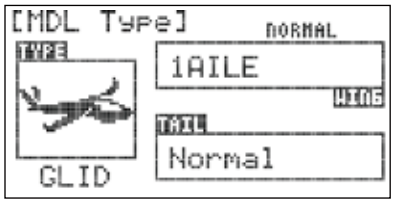
2. プッシュ＆スクロール操作でモデルタイプ「GLID」を選択します。



3. ジョグダイアルを再度プッシュしグライダーメニューに切り替えます。

モデルタイプ 「GLID」 設定方法

4. グライダーメニューではご使用の機体に合わせウイングタイプと（尾翼）テールタイプが変更可能です、プッシュ&スクロール操作で設定を変更します。



グライダーメニューでは下記のウイングタイプが設定可能です：

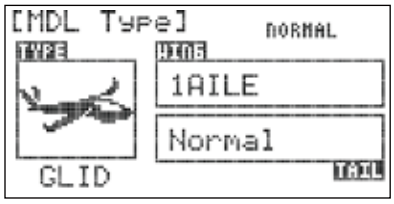
● 標準ウイングタイプ

1AILE – エルロンサーボ×１
1AILE+1FLAP – エルロンサーボ×１＋フラップサーボ×１
1AILE+2FLAP - エルロンサーボ×１＋フラップサーボ×２
2AILE – エルロンサーボ×２
2AILE+1FLAP - エルロンサーボ×２＋フラップサーボ×１
2AIL+2FLAP - エルロンサーボ×２＋フラップサーボ×２

● デルタウイングタイプ　全翼機（エレボン）：
2AILE-エルロンサーボ×2
2AILE+1FLAP - エルロンサーボ×2＋フラップサーボ×１
2AILE+2FLAP- エルロンサーボ×2＋フラップサーボ×２

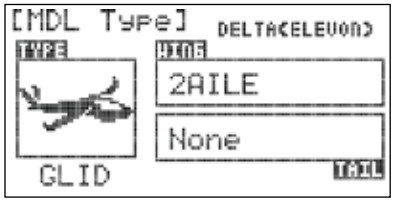
5. 適合するウイングタイプを選択したらプッシュし決定します。

6. カーソルを「TAIL」に合わせてプッシュします。



（尾翼）テールタイプ：
NORMAL: ノーマルタイプ
水平尾翼と垂直尾翼で構成される一般的な尾翼タイプです。

V-TAIL: Vテールタイプ
水平尾翼と垂直尾翼がV字型に組み合わされた尾翼タイプです。



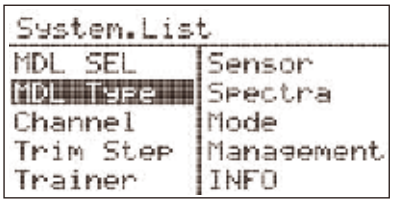
Ailevator: エイルベータータイプ
エレベーターを2つのチャンネルで構成し尾翼動翼にてピッチ及びロールコントロールを可能にします。テイルロンを必要とする機体に有効です。

デルタウイング　テールタイプ：
None: 尾翼なし
1Servo: 尾翼あり　サーボ×１
2Servo: 尾翼あり　サーボ×2

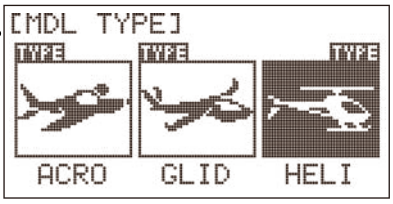
7. スクロールさせ適合するテールタイプを選択したらプッシュし決定します。
8. バックボタンを押しシステムメニューに戻ります。

モデルタイプ「HELI」設定方法

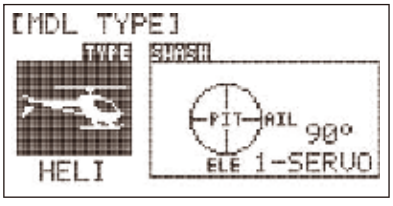
1.システムメニューより「MDL TYPE」を選択します。



2.ジョグダイアルをプッシュしモデルタイプ選択メニューに切り替えます。
スクロールさせ「HELI」を選択します。



3.ヘリアイコンをプッシュしヘリセットアップメニューに切り替えます。



4. ヘリセットアップメニューではご使用の機体に合わせてスワッシュタイプを設定します。
カーソルをSWASHに合わせプッシュ&スクロール操作で設定を変更します。

ヘリメニューでは6 種類のスワッシュタイプが選択可能です:

90° 1 servo: 3つのスワッシュサーボがそれぞれ90° の角度で配置され各サーボが独立して動作します。

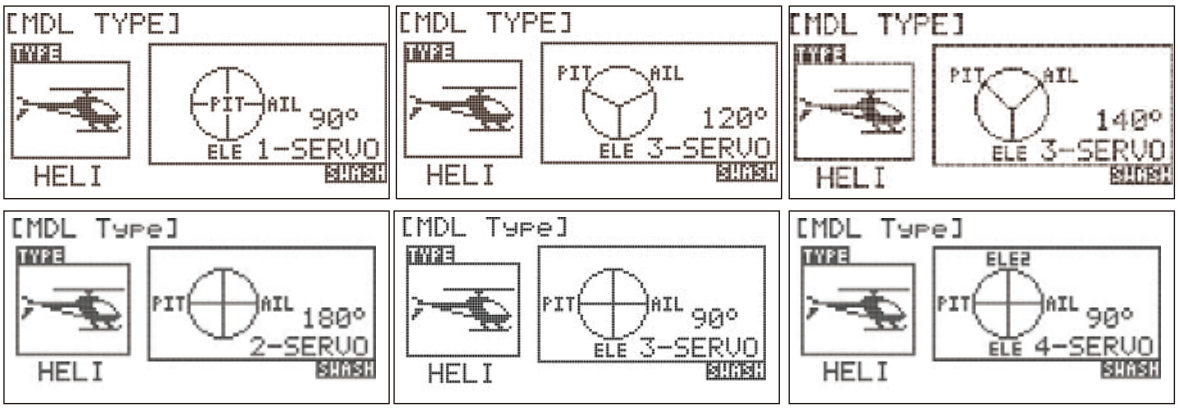
120° 3 servos: 3つのスワッシュサーボがそれぞれ120° の角度で配置され、ミキシング機能により全てのサーボが連動してピッチ、エルロン、エレベーターの動作をします。

140° 3 servos: 3つのスワッシュサーボがそれぞれ140° の角度で配置され、ミキシング機能により全てのサーボが連動してピッチ、エルロン、エレベーターの動作をします。

180° 2 Servo : 2つのスワッシュサーボがそれぞれ180° の角度で配置され、ミキシング機能により全てのサーボが連動してピッチ、エルロンの動作をします。

90° 3 Servo : 3つのスワッシュサーボがそれぞれ90° の角度で配置され、ミキシング機能により全てのサーボが連動してピッチ、エルロン、エレベーターの動作をします。

90° 4 Servo : 4つのスワッシュサーボがそれぞれ90° の角度で配置され、ミキシング機能により全てのサーボが連動してピッチ、エルロン、エレベーターの動作をします。



モデルタイプ「HELI」設定方法

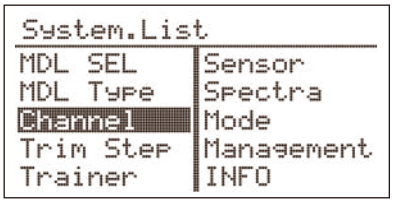
※使用する機器の説明書の指示に従い正しいスワッシュタイプを設定します。

5. 適合するスワッシュタイプを選択したらプッシュし決定します。
6. バックボタンを押しシステムメニューに戻ります。

チャンネルファンクション 「Channel」

チャンネルファンクションは（AILE,THRO,RUDD)等の各チャンネルを全ての操作系統（スティックやスイッチ）「J1,J2,F」等に自由に割り当てることができる機能です。

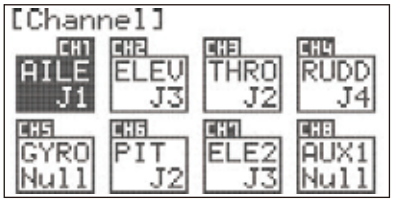
1.システムメニューよりチャンネルファンクション「Channel」を選択しプッシュします。



Note

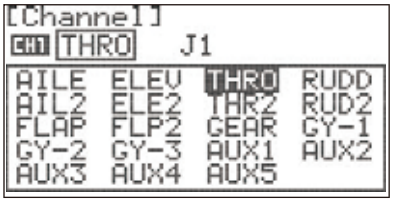
基本となるチャンネル配列はモデルタイプにより異なりますが、このチャンネルファンクション機能により配列を自由に変更することができます。

2. カーソルを変更したいチャンネルに合わせプッシュします。



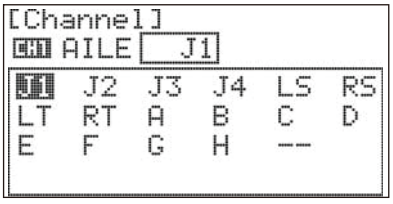
3. チャンネル名にカーソルを合わせプッシュします。

4. スクロールさせ任意のチャンネルを選択しプッシュします。



5. 操作系統名にカーソルを合わせプッシュします。

6. スクロールさせ任意の操作系統を選択しプッシュします。

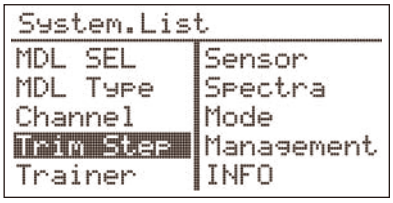


7. バックボタンを押しチャンネル/コントロールセレクション画面に戻ります。

トリムステップ 「Trim Step」

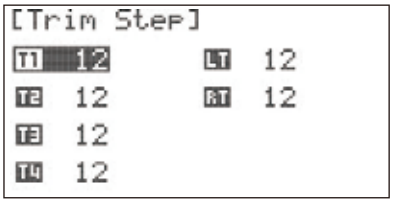
トリムステップ機能は各トリムスイッチで1クリックした時のサーボ動作角度を調整できます。

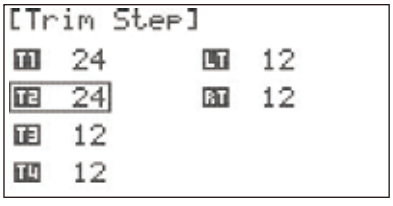
1. システムメニューより「TRIM STEP」を選択しプッシュします。



2. 変更するトリム名にカーソルを合わせプッシュします。
ジョグダイアルをスクロールさせ任意の数値に合わせます、
数値は1～200です。数値が小さいほどトリムの1コマは
少ない動きになります。再度プッシュし決定します。

※デフォルト数値は12です。





3. バックボタンを押しシステムメニューに戻ります。

トレーナー 「**Trainer**」

トレーナーモードでは別売のトレーナーコードでFLASH 8同士を接続することで、初心者の方の操縦指導を行うことができます。さらに生徒の技量に応じて生徒が操作できるチャンネルを制限したり、生徒と先生のスティック操作をミキシングさせる動作も可能ですので従来のようにスイッチで頻繁に切り替える必要がありません。万一の事態に対処でき安全です。

Note	FLASH 8は専用ケーブル以外に市販の3．2mmステレオプラグがトレーナーケーブルとして利用可能です。

Warning	トレーナーモードを使用する時は下記の事項が完了していることを確認します： - 先生側のプロポは機体の飛行設定が完了している。 - 生徒側の送信機の設定内容（リバース方向やトリム位置）は事前に先生側の送信機と同一に合わせる。

トレーナー 「Trainer」

トレーナー設定及びスイッチ操作は先生側のプロポでのみ有効です。FLASH 8同士を
ケーブルで接続し電波を発射する方が先生側、発射しない方が生徒側となります。

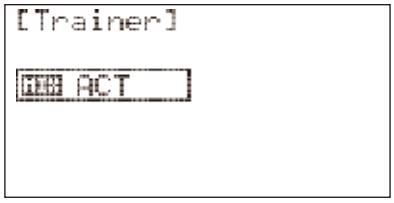
トレーナー設定方法：

1. システムメニューよりスクロールさせ「TRAINER」にカーソルを合わせます。



2. ジョグダイアルをプッシュしてトレーナーメニューを開きます。

3. プッシュ&スクロール操作で」「INH」から「ACT」に変更しトレーナー設定を有効します。



4. カーソルを「MODE」に合わせプッシュします。



5. プッシュ&スクロール操作でコントロールモードを変更します：

ALL – 全てのチャンネル設定が可能です。（1～8CH）

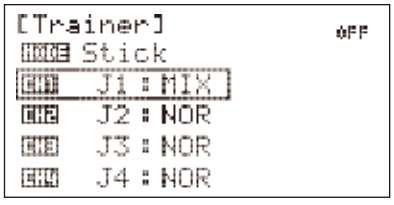
STICK – スティックチャンネルのみ設定可能です。（1～4CH）

設定後、プッシュし決定します。



6. トレーナーメニューでは生徒側でコントロール可能なチャンネル設定を下記のモードから選択できます。

- NOR フルコントロール
- MIX 先生側の操作と混合
- OFF ノーコントロール



7. その他のCHについても変更する場合は任意のCHにカーソルを合わせプッシュします

8. スクロールさせCH設定を（NOR・MIX・OFF）の中から選択しプッシュします。

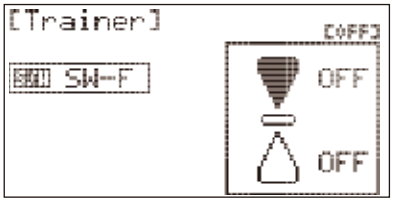
トレーナー 「Trainer」

9. トレーナー機能のON/OFFをスイッチで切り替える場合はまず、カーソルをS/Wに合わせプッシュします。その後、再度プッシュしスイッチ選択を行ないます。

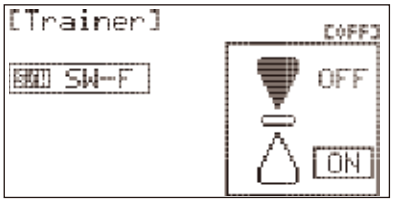


10. スクロール操作で任意のスイッチを選択したらプッシュして決定します。

- NULLを選択した場合、トレーナー機能は常にOFFとなります。
- スイッチを割り当てる場合:
  - スイッチポジションメニューが表示されたらスクロールさせスイッチポジションハイライトを切り替えます。スイッチポジションが決定したらプッシュします。



  - スクロールさせスイッチ設定をOFFからONに切り替えます。その後、プッシュして設定を保存します。正しく設定できれば画面の右上のON/OFF表示がスイッチの操作に合わせ切り替わります。



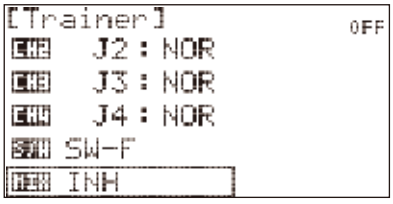
11. バックボタンを押しトレーナーメニューに戻ります。

トレーナー機能のOFF:

1. カーソルを「MIX」に合わせプッシュします。

2. スクロールさせACTからINHに変更しプッシュします。

3. バックボタンを押しシステムメニューに戻ります。



センサー「Sensor」

センサーメニューではOPTIMA受信機を使用する場合にテレメトリー情報を表示させることが出来ます。詳しくはP106をご確認ください。



スペクトラ「Spectra」

スペクトラメニューではお使いの受信機タイプに合わせ電波の変調方式を変更可能です。
詳しくはP18をご確認ください。

コントロールモード「Mode」

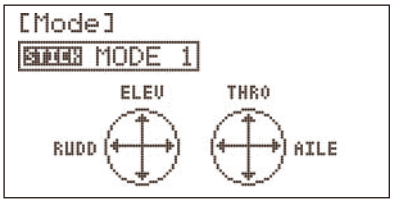
FLASH 8 はモード1～4のコントロールモードに対応します。
※国内はモード1での販売となります。

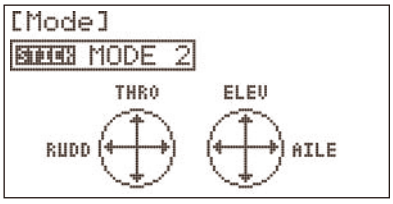
1. システムメニューより「MODE」を選択しプッシュします。

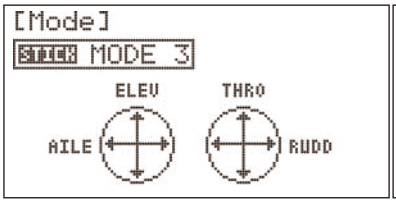
2. 再度ジョグダイアルをプッシュしてモード変更を有効にします。

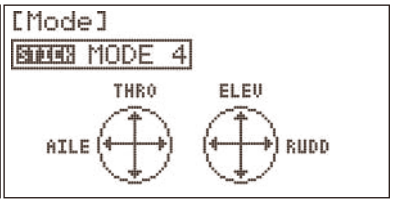


3. スクロールさせ任意のモードを選択したらプッシュし決定します。









Note

コントロールモードの変更に伴いジンバルスティックのセンタリング機構の変更が必要です。
詳しくはP12をご確認ください。

マネージメント メニュー「Management」

FLASH 8 マネージメント メニューでは下記の設定変更が可能です:

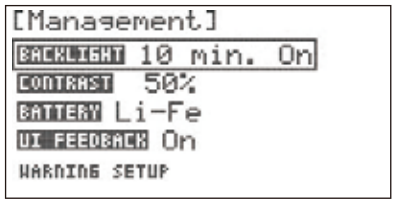
BACKLIGHT: バックライト作動時間設定
CONTRAST: スクリーンコントラスト調整
BATTERY: バッテリータイプ変更 「アルカリ.NiMh.NiCD.Lipo.Life」
UI FEEDBACK: ボタン操作時のフィードバック音のON・OFF設定が可能です。
WARNING SETUP: 電源投入時のワーニング設定について変更可能です。

1. システムメニューより「MANAGEMENT」を選択しプッシュします。



2. カーソルを「BACKLIGHT」に合わせプッシュします。

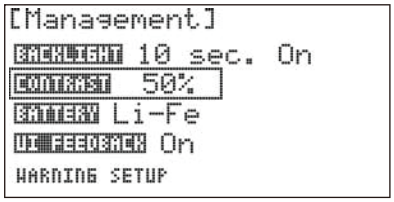
3. スクロール操作でバックライト作動時間を変更し
決定したらプッシュします。



マネージメント　メニュー「Management」

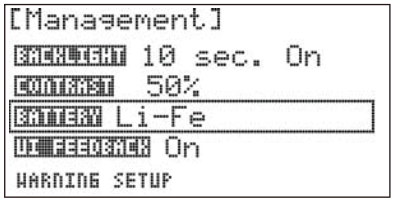
4. カーソルを「CONTRAST」に合わせプッシュします。

5. スクロール操作でコントラストレベルを変更し
プッシュで決定します。



6. カーソルを「BATTERY」に合わせプッシュします。

7. スクロール操作で送信機に使用するバッテリータイプを変更し
プッシュで決定します。



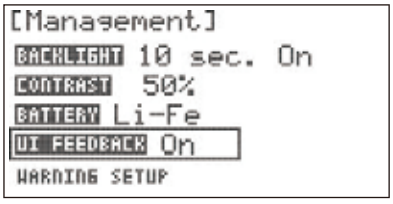
Warning

バッテリー設定ではお使いのバッテリータイプに合わせLi-Fe・NiCd/NiMh・Li-Poの中から正しく設定してください。設定を間違ってしまうと最悪の場合、低電圧を検出しエラー音と同時にシャットダウンします。この場合、規定電圧を検出するまで送信機の電源は入りません。

※バッテリーの扱いに不慣れな方はLi-Feから変更しないでください。

8. カーソルを「UI　FEEDBACK」に合わせプッシュします。

9. スクロールさせONまたはOFFを選択しプッシュします。
OFFを選択するとジョグダイアル操作時のフィードバック音
がOFFとなります。

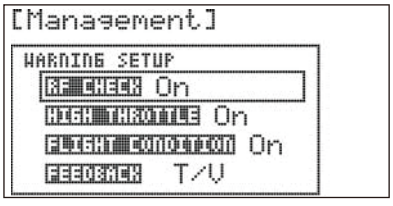


10. カーソルを「WARNING　SETUP」に合わせプッシュします。



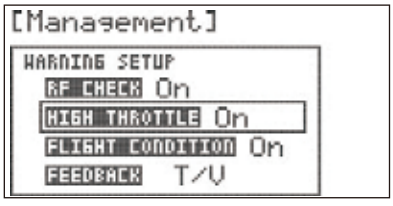
11. カーソルを「RF　CHECK」に合わせプッシュします。

12. スクロールさせONまたはOFFを選択しプッシュします。
RF　チェックをONにすると電源投入時に電波発射確認画面が
現れます。反対にOFFにすると確認画面はキャンセルされ電源を
いれると確認せずに電波が発射されます。



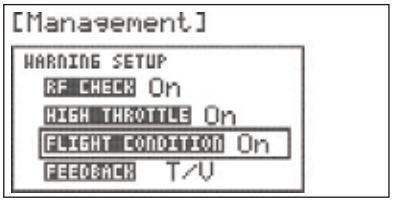
13. カーソルを「HIGH　THROTTLE」に合わせプッシュします。

14. スクロールさせONまたはOFFを選択しプッシュします。
ハイスロットルワーニングをONにすると電源投入時に
スロットルスティックが最スローの位置に下がっていない
場合エラー音がします。反対にOFFにするとスロットル
位置確認はキャンセルされます。



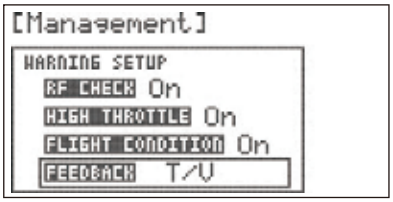
マネージメント　メニュー「Management」

15. カーソルを「FLIGHT　CONDITION」に合わせプッシュします。



16. スクロールさせONまたはOFFを選択しプッシュします。
フライトコンディションワーニングをONにすると電源投入時にコンディションスイッチがACT(アクティブ)になっている場合エラー音がします。反対にOFFにするとコンディション確認はキャンセルされます。

17. カーソルを「FEEDBACK」に合わせプッシュします。

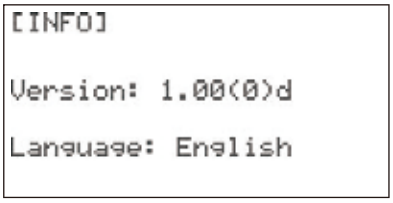


18. スクロールさせフィードバックタイプを選択しプッシュします。
こちらの設定は各ワーニング作動時に反映されます。

19. バックボタンを二回押しシステムメニューに戻ります。

INFO

インフォメニューでは送信機のファームウェアバージョンが確認出来ます。



1. システムメニューより「INFO」を選択しプッシュします。

2. バックボタンを押しシステムメニューに戻ります。

共通モデルメニュー

二種類のメニューグループの内、ここでは（ACRO/GLID/HELI)の各モデルタイプの飛行設定に関する共通のモデルメニューについて説明します。

Tip

FLASH 8の基本的な操作慣れていただく為、初めにクイックスタートガイドを参照する事を推奨します。

モデルメニューでは下記の設定メニューが各モデルタイプ共通で表示されます：

REVERSE: サーボリバース

SUB TRIM: サブトリム

D/R & EXP: デュアルレート＆エクスポネンシャル

EPA: エンドポイントアジャスト

S.Speed: サーボスピード

PROG.MIX: プログラムミキシング

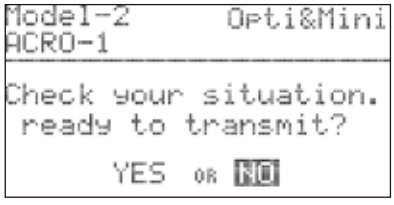
F.COND : フライトコンディション

TIMER: タイマー

MONITOR: サーボモニター

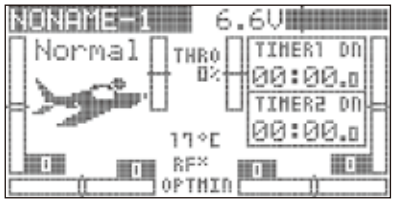
共通モデルメニューの設定方法

1. 送信機の電源を入れ電波の発射の有無を選択します。
   ここではNOをプッシュします。

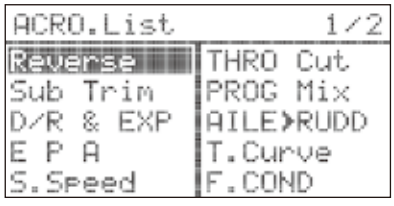


2. ジョグダイアルを長押ししてモデルメニューに切り替えます。





3. モデルメニューで表示される項目はシステムメニューで設定したモデルやウイングタイプ等に合わせて自動的にカスタマイズされます。



サーボリバース「Reverse」

サーボリバース機能は1～8chの各サーボの動作方向を変更できます。

1. モデルメニューより「REVERSE」を選択しジョグダイアルをプッシュします。



2. カーソルをスクロールさせ設定を行うチャンネルを選択しプッシュします。

NOR :（ノーマル）正回転　※デフォルト

REV:（リバース）逆回転



3. スクロール操作で任意の動作方向に変更しジョグダイアルを長押して決定します。
4. バックボタンを一度押しモデルメニューに戻ります。

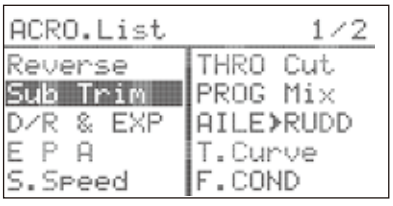


サブトリム「Sub Trim」

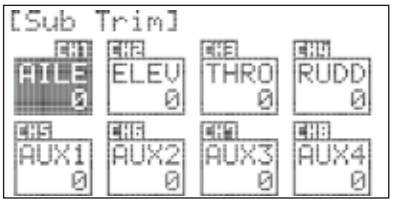
サブトリム機能は各サーボのニュートラルポジションの調整が可能です。
サーボのニュートラルはリンケージロッドに対してホーンが直角である事が重要です。スティックのトリムがセンターの時にこのようになれば良いのですが、サーボホーンの穴位置等では合わせられない場合にこのサブトリムが有効です。

※サブトリムはできるだけ多く使用しないようにサーボホーン取り付け位置とリンケージ調整でニュートラルを合わせてください。

1. モデルメニューより「Sub　Trim」を選択しジョグダイアルをプッシュします。



2. カーソルをスクロールさせ設定を行うチャンネルを選択しプッシュします。



3. ジョグダイアル左右に回しニュートラル数値を変更します。変更後、※ジョグダイアルを長押しすると数値は初期値にリセットされます。全ての数値設定にこちらのコマンド操作が有効です。



4. 設定が完了したらプッシュし決定します。
5. バックボタンを一度押しモデルメニューに戻ります。

デュアルレート＆エクスポネンシャル「D/R & EXP」

・D/R（デュアルレート）
デュアルレートは（エルロン、エレベーター、ラダー）の各舵を最大角まで操作した時の舵角調整が可能です。数値を下げると舵角が減り、上げると舵角が増えます。「調整範囲0～125」

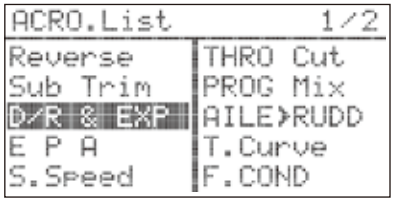
・EXP（エクスポネンシャル）
エクスポネンシャルは（エルロン、エレベーター、ラダー）の各舵のニュートラル（スティック中立）付近の舵角調整が可能です。数値をマイナス方向に増加させると操作がマイルドになり、プラス方向に増加させると操作がクイックになります。「調整範囲-100～+100」

Tip

下記の設定の前にD/R&EXP数値を切り替えるスイッチを予め割り当てておくことを推奨します。

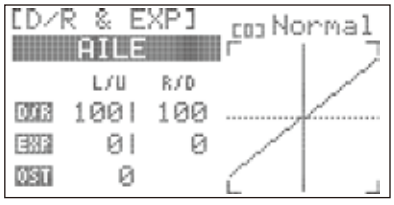
D/R（デュアルレート）

1. モデルメニューよりカーソルを「D/R＆EXP」に合わせプッシュします。



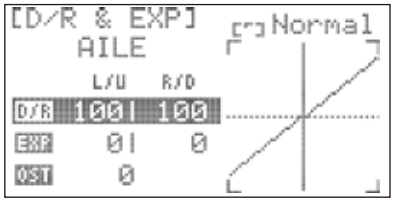
2. カーソルをコントロールファンクション（AILE・ELE・RUDD）に合わせプッシュします。

3. ジョグダイアルを回し任意のコントロールに合わせプッシュで決定します。



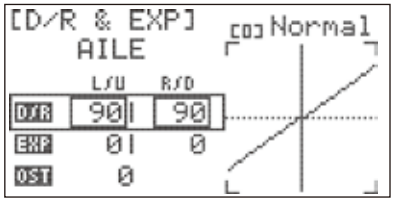
4. スイッチを割り当てている場合、数値の変更を行うスイッチポジションに切り替えます。

5. カーソルをD/Rに合わせプッシュします。D/Rサブメニューが表示されます。



6. スクロールさせ数値を変更するスティック方向、ここではL/U(レフト/アップ）R/D（ライト/ダウン）の両方にカーソルを合わせプッシュします。

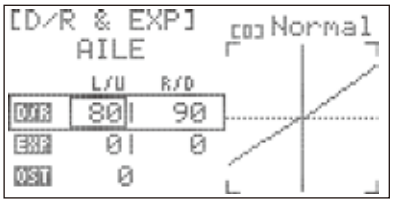
7. ジョグダイアルを回転させ任意の数値を入力しプッシュして決定します。時計回りに回転させると数値が増加し反時計回りでは減少します。（L/U・R/Dの両方にカーソルをを合わせると両方に数値が同時に変化します。）



D/R(デュアルレート)

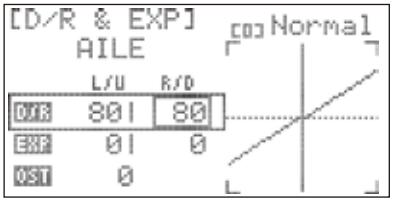
8. カーソルをL/U(レフト/アップ)に合わせプッシュします。

9. ジョグダイアルを回転させ任意の数値を入力しプッシュして決定します。L/Uはスティックをレフト/アップに操作したときに反映される数値となります。スティック方向は選択したチャンネルファンクションにより決定されます。



10. カーソルをR/D(ライト/ダウン)に合わせプッシュします。

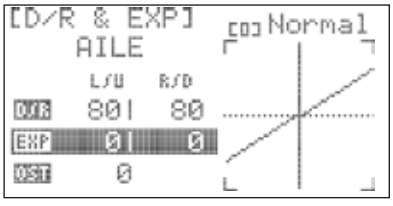
11. ジョグダイアルを回転させ任意の数値を入力しプッシュして決定します。R/Dはスティックをライト/ダウンに操作したときに反映される数値となります。スティック方向は選択したチャンネルファンクションにより決定されます。



12. 完了したらバックボタンを押してD/R&EXPメニューに戻ります。

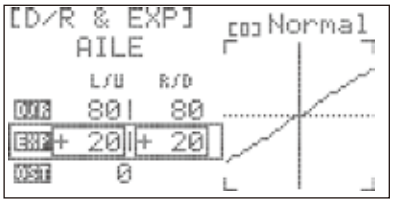
EXP(エクスポネンシャル)

13. カーソルを「EXP」に合わせプッシュします。



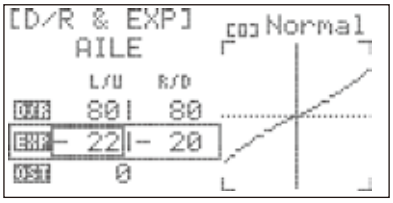
14. スクロールさせ数値を変更するスティック方向、ここではL/U(レフト/アップ)R/D(ライト/ダウン)の両方にカーソルを合わせプッシュします。

15. ジョグダイアルを回転させ任意の数値を入力しプッシュして決定します。時計回りに回転させると数値が増加し反時計回りでは減少します。(L/U・R/Dの両方にカーソルをを合わせると両方に数値が同時に変化します。)



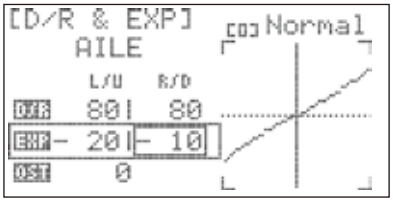
EXP（エクスポネンシャル）

16. カーソルをL/U（レフト/アップ）に合わせプッシュします。



17. ジョグダイアルを回転させ任意の数値を入力しプッシュして決定します。L/Uはスティックをレフト/アップに操作したときに反映される数値となります。スティック方向は選択したチャンネルファンクションにより決定されます。

18. カーソルをR/D（ライト/ダウン）に合わせプッシュします。



19. ジョグダイアルを回転させ任意の数値を入力しプッシュして決定します。R/Dはスティックをライト/ダウンに操作したときに反映される数値となります。スティック方向は選択したチャンネルファンクションにより決定されます。

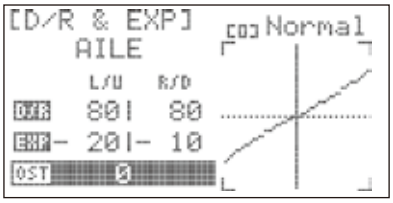
> **Tip**
>
> 画面上のグラフは変更された数値がリアルタイムで反映されます。
> グラフ上の縦線は選択したコントロールファンクションのCH操作に合わせて移動します。

20. 完了したらバックボタンを押してD/R&EXPメニューに戻ります。

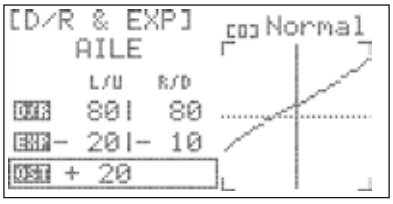
Offset(OST) オフセット

オフセット調整ではD/Rカーブ やEXPカーブとは異なり、カーブ全体を上下に移動させることができます。

21. カーソルを「OST」に合わせプッシュします。



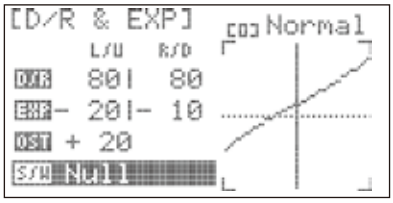
22. ジョグダイアルを回転させ任意のオフセット数値を入力しプッシュして決定します。



23. 完了したらバックボタンを押してD/R&EXPメニューに戻ります。

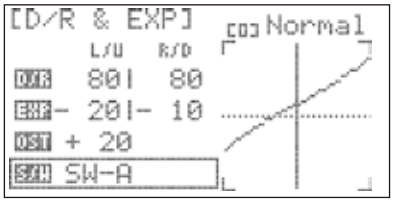
D/R&EXP スイッチ割り当て

24. スクロールさせカーソルを「S/W」に合わせプッシュします。



25. スクロール操作で任意のスイッチを選択します。
確認しプッシュで決定します。

26. 任意の方向にスイッチを傾けて画面右上のポジション番号が
[0],[1],[2] と切り替わることを確認します。



5-23の手順を再度確認し各チャンネルポジションにおいてD/R・EXPの数値を入力します。
各コントロールファンクションにおいてスイッチの割り当てが可能です。4-26の手順を再度確認してください。

Tip

D/R&EXP設定数値に限らず機体及び搭載機器の説明書から設定指示があれば指示に従ってください。

27. バックボタンを一度押し、モデルメニューに戻ります。

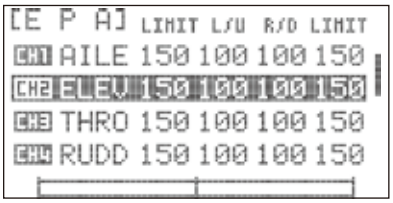
エンドポイント「EPA」

エンドポイントアジャストメント(EPA)は各チャンネルごとの最大動作幅の変更が可能です。
リンケージ構造に負担が生じないように調整します。

1. モデルメニューより「EPA」を選択しプッシュします。

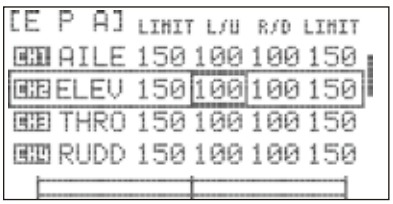


2. スクロール操作で任意のチャンネルを選択しプッシュします。



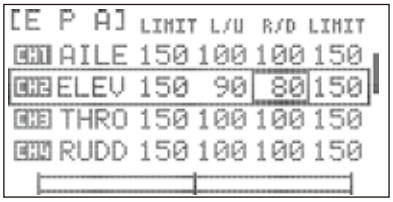
3. 数値を変更する為、スクロールさせスティック方向L/U
(レフト/アップ)を選択しプッシュします。

4. ジョグダイアルを回転させてEPA数値を変更します。数値を確認し
プッシュします。



エンドポイント「EPA」

5. カーソルをR/D(レフト/ダウン)に合わせてプッシュします。
6. ジョグダイアルを回転させ任意の数値を入力しプッシュして決定します。
7. カーソルをLIMIT(リミット)に合わせてプッシュします。



8. ジョグダイアルを回転させ任意の数値を入力しプッシュして決定します。
   LIMIT(リミット)を変更するとエンドポイント数値はリミットの範囲を超えません。
9. バックボタン再度、一回押してモデルメニューに戻ります。

サーボスピード「S.SPEED」

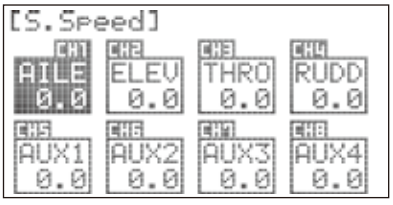
サーボスピード(S.SPEED)設定ではサーボ動作スピードを各チャンネルごとに変更可能です。
こちらの設定は最高速度を抑えるスピードリミッターとお考えください。

※ 調整できるスピードは遅くなる方向のみです、数値を上げるとサーボ動作スピードが低下します。
※ 必ずサーボモニター「Monitor」画面、又は実際のサーボ動作で確認してください。

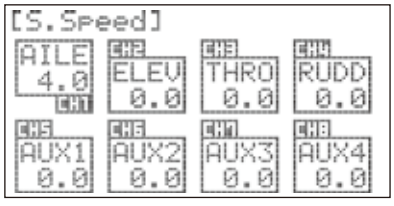
1. モデルメニューよりカーソルを「S.SPEED」に合わせプッシュします。



2. カーソルを変更したいチャンネルに合わせてプッシュします。



3. ジョグダイアルを回転させ任意の数値を入力します。
   数値は(0～25．0)の範囲で調整できます。
4. 任意のサーボスピードを設定したらジョグダイアルをプッシュし決定します。
5. バックボタンを押しモデルメニューに戻ります。



プログラミング ミキシング「PROG.MIX」

FLASH 8はプログラムミキシングを5個装備しています。モデルメニューに無いミキシングが必要な場合に自由な組合わせで新たなミキシングを設定できます。ミキシング機能は正しく設定することで発動機が発生させる反トルクの影響を低減させることやナイフエッジ飛行の癖をとる事などに利用できます。

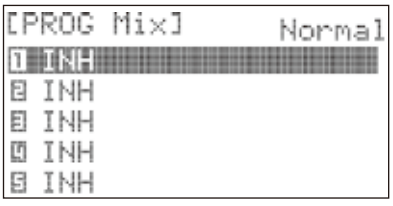
プログラミング　ミキシング「PROG.MIX」

ここでは例としてエルロン操作（マスター側）をラダー（スレーブ側）にミキシングする設定を説明します。設定画面にてスティック左右の数値（RATE)を増減させることでラダーは各操作系統を割り当てなくてもミキシング量が変化しエルロン操作に合わせて連動して動作します。最終的にはサーボモニターや実際のサーボの動作を確認しミキシング数値を入力します。※設定の前にチャンネルファンクションメニューにてマスター側とスレーブ側のチャンネルを正しく設定してください。

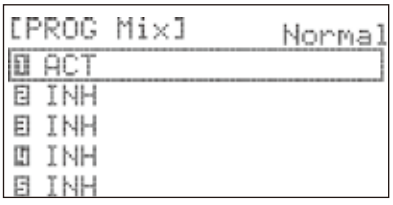
1. モデルメニューより「PROG.MIX」を選択しプッシュします。



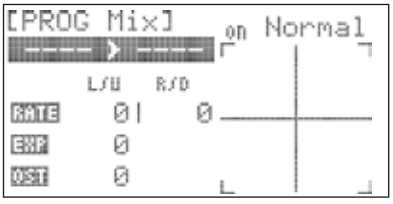
2. プログラム　ミキシング5系統のいずれかを選択しプッシュします。



3. ジョグダイアルを回し「INH」から「ACT」に変更しプッシュします。
次のメニュー画面に切り替わります。

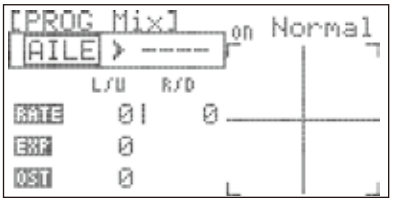


4. ミキシングの入力チャンネル（マスター）及び出力先（スレーブ）を選択するため点線部にカーソルを合わせプッシュします。



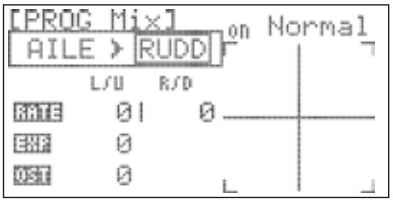
5. 左側がマスター側です。カーソルを左側に合わせプッシュします。

6. スクロールさせ（THRO、RUDD、GEAR）等のチャンネルをマスター側に割り当てプッシュし決定します。



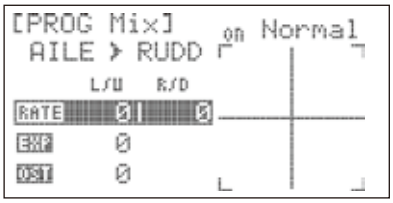
7. 右側がスレーブ側です。カーソルを右側に合わせプッシュします。

8. スレーブチャンネルを設定したらプッシュし決定します。
その後、バックボタンを一度押しカーソルの選択を外します。



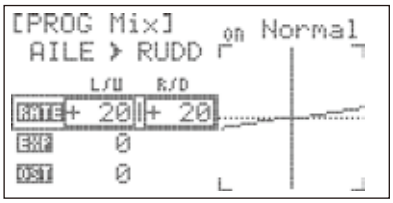
プログラミング　ミキシング「PROG.MIX」

9. カーソルを「RATE」に合わせプッシュします。



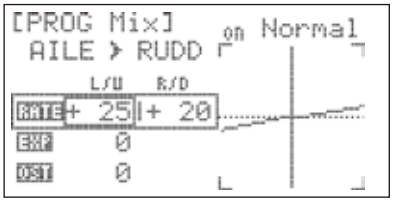
10. スクロールさせ数値を変更するスティック方向、ここでは L/U(レフト/アップ)R/D(ライト/ダウン)の両方にカーソルを合わせプッシュします。

11. ジョグダイアルを回転させ任意の数値を入力しプッシュして決定します。(L/U・R/Dの両方にカーソルをを合わせると両方に数値が同時に変化します。)



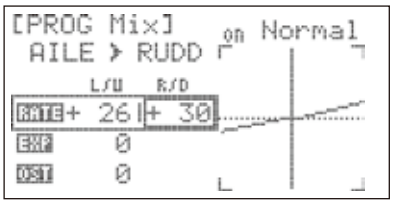
12. カーソルをL/U(レフト/アップ)に合わせプッシュします。

13. ジョグダイアルを回転させ任意の数値を入力しプッシュして決定します。L/Uはスティックをレフト/アップに操作したときに反映される数値となります。スティック方向は選択したチャンネルファンクションにより決定されます。



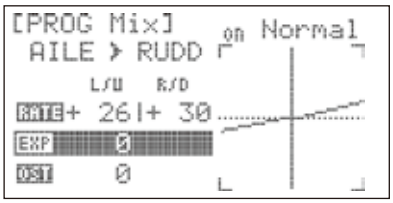
14. カーソルをR/D(ライト/ダウン)に合わせプッシュします。

15. ジョグダイアルを回転させ任意の数値を入力しプッシュして決定します。R/Dはスティックをライト/ダウンに操作したときに反映される数値となります。スティック方向は選択したチャンネルファンクションにより決定されます。



16. バックボタンを一度押しカーソルの選択を外します。

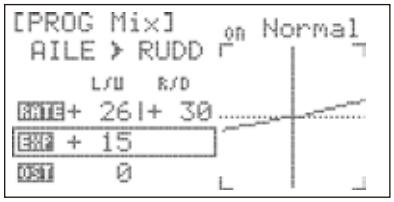
17. カーソルを「EXP」に合わせプッシュします。



プログラミング　ミキシング「PROG.MIX」

18. ミキシングの効き具合を調整する場合はジョグダイアルを回転させ任意の「EXP」数値を入力しプッシュして決定します。

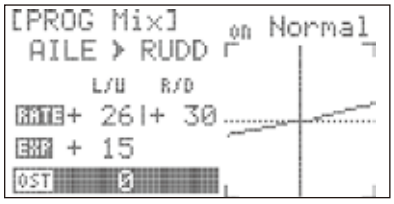
※グラフのカーブを確認しながら調整してください。



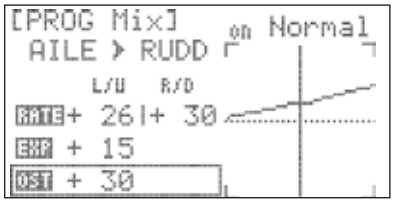
Tip

マスター側のスティックを操作することによりグラフ上の縦線のバーが左右に移動します。

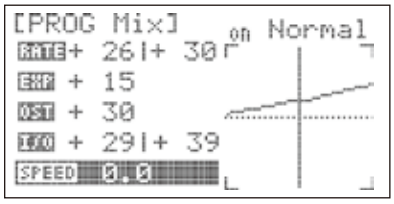
19. カーソルを「OST」に合わせプッシュします。



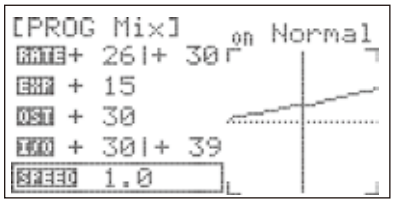
20. ジョグダイアルを回転させ任意のオフセット数値を入力しプッシュして決定します。※オフセット「OST」はカーブ全体を上下に移動させることができます。



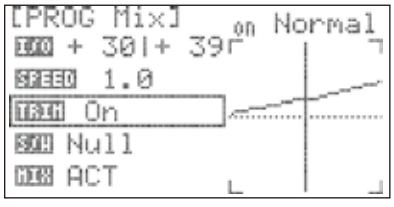
21. カーソルを「SPEED」に合わせプッシュします。



22. ジョグダイアルを回転させ任意のスピード数値を入力しプッシュして決定します。※スピード「SPEED」の数値を上げるとスレーブ側の動作スピードが低下します。



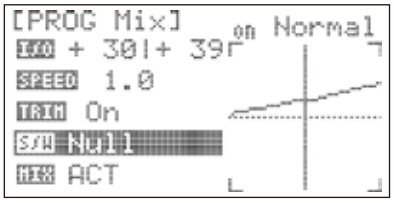
23. カーソルを「TRIM」に合わせプッシュします。トリムリンク「TRIM」をON（有効）にするとマスター側のトリム変更数値がスレーブ側にも反映されます。



24. ジョグダイアルを回しONまたはOFFに変更しプッシュします。

プログラミング　ミキシング「PROG.MIX」

25. カーソルを「S/W」に合わせプッシュします。

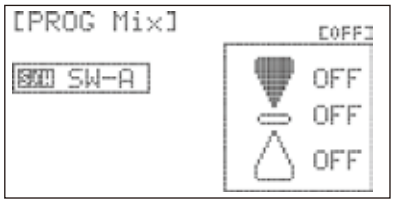


26. 再度プッシュしスイッチ選択を行ないます。

27. スクロールさせ任意のスイッチを選択します。
NULLを選択した場合はスイッチによるミキシングのON/OFF操作が無効となり設定数値を入力した場合、ミキシングは常に有効となります:
設定後、プッシュし決定します。

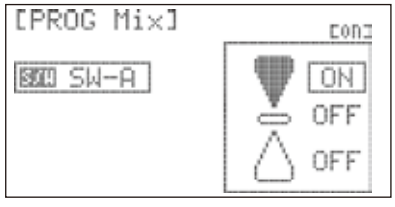


28. スクロールさせ任意のスイッチを選択します。スイッチを選択するとスイッチポジションメニューが表示されます。
選択後、プッシュし決定します。



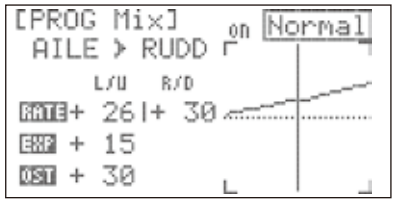
29. スクロールさせスイッチポジションハイライトを切り替えます。スイッチポジションが決定したらプッシュします。スクロールさせ設定をOFFからONに切り替えます。その後、プッシュして設定を保存します。正しく設定できれば画面の右上のON/OFF表示がスイッチの操作に合わせ切り替わります。

30. バックボタンを押しミキシングメニューに戻ります。



31. フライトコンディションが設定されている場合、コンディションを切り替える度に右上の表示と数値が設定されたコンディションに従い変化します。

32. カーソルを右上のコンディション名に合わせプッシュします。スクロールさせるとスイッチを切り替えることなくコンディションの変更が可能です。プッシュしコンディションを決定します。



Tip

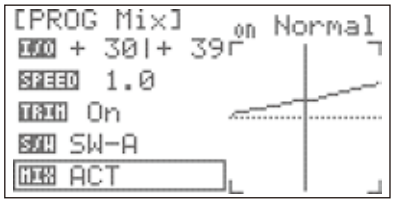
ジョグダイアルでコンディションを切り替える場合はその他の設定は有効になりません。

-ステップ9-24に従い他のコンディションも同様に設定します。

33. ミキシング機能OFF:
「PROG Mix」のミキシング画面よりカーソルをMIXに合わせプッシュします。

34. スクロールさせACTからINHに変更しプッシュします。

35. バックボタンを一度押しモデルメニューに戻ります。



フライトコンディション「F. Cond」

フライトコンディションとはミキシングやスロットルカーブ等の様々な設定内容をスイッチの切り替えにより一括して変更する機能です。フラッシュ8では最大5つのフライトコンディションが設定可能です。ここではアクロ&グライダーの手順を例に説明します。

固定翼機で使用可能なコンディション：

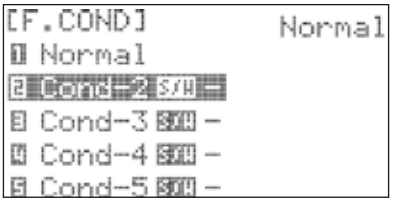
アクロ&グライダー

1. Normal「ノーマル」
2. COND-2「コンディション2」
3. COND-3「コンディション3」
4. COND-4「コンディション4」
5. COND-5「コンディション5」

固定翼機では通常、下記の専用設定メニューがフライトコンディション設定に有効です：

Aileron > Rudder Mix エルロン→ラダーミックス
Elevator > Camber Mix エレベーター→キャンバーミックス
Camber Mix (GLID only) キャンバーミックス（グライダー専用）
Gyro ジャイロ設定
Aileron differential エルロンディファレンシャル
FLAP Control フラップコントロール
Landing (ACRO Only) ランディング（アクロ専用）
Program Mix プログラム ミキシング
Ailevator エイルベーター ミックス
V-Tail Mix Vテール ミックス
Elevon Mix エレボン ミックス
T.Curve スロットルカーブ

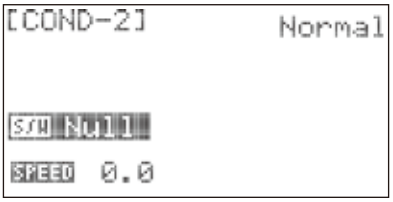
1. モデルメニューより「F.COND」を選択しプッシュします。



2. 任意のコンディションにカーソルを合わせプッシュします。

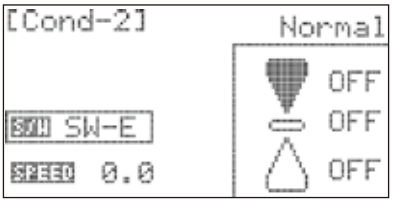
3. 再度プッシュしスイッチ選択を行ないます。

※「Normal」においてスイッチの割り当てはできません。



スクロールさせ任意のスイッチを選択します。

「NULL」を選択するとフライトコンディションは使用できません。



b. スイッチを選択するとスイッチポジションメニューが表示されます。プッシュしON・OFF設定を行ないます。

- スクロールさせスイッチポジションハイライトを切り替えます。スイッチポジションが決定したらプッシュします。スクロールさせスイッチ設定をOFFからONに切り替えます。その後、プッシュして設定を保存します。正しく設定できればスイッチの操作に合わせ右上のコンディション名が切り替わります。

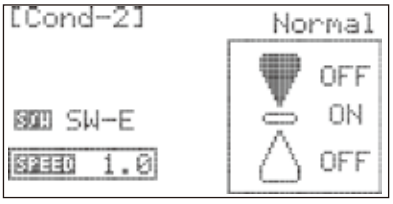
フライトコンディション「F. Cond」

Tip

フライトコンディションを新たに追加すると数字が大きく最後に設定したコンディションが作動に際し優先され、設定後のコンディション名はホームスクリーン上に表示されます。

- バックボタンを二回押してフライトコンディションメニューに戻ります。

5. カーソルをSPEEDに合わせプッシュします。



スクロールさせると「SPEED」の数値を(0.0～10.0)の範囲で調整可能でこのコンディションディレー数値を設定するとコンディションが切り変わるまでの時間を遅らせることが可能です。この設定によりキャンバーの急激な変化等を防ぐことが可能です

7. 追加の設定がある場合はバックボタンを一度押してステップ2～6を再度確認します。

8. 終了する場合はバックボタンを二回押してモデルメニューに戻ります。

※コンディションディレーはノーマルに戻る際は有効となりません。

タイマー「Timer」

タイマー機能は燃料や電池残量の管理に有効です。フラッシュ8は二つの個別タイマー機能を有し各トグルスイッチやスロットルに割り当てることでタイマー操作が可能です。タイマーは常時メインメニュー画面に表示されます。

タイマーの設定方法:

1. モデルメニューより「Timer」を選択しプッシュします。

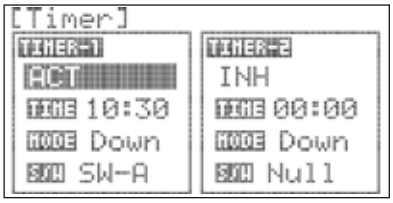


Note

メインメニューに表示されるタイマーアイコンにカーソルを合わせてプッシュすると同様にタイマーメニューに切り替え可能です。

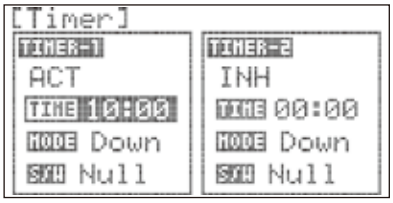
2. カーソルをTIMER-1のINH(インフィビット)に合わせプッシュします。

3. スクロール操作でACT(アクティブ)に変更しプッシュします。



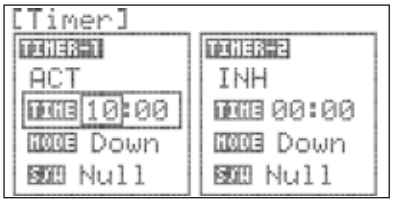
タイマー「Timer」

4. カーソルを「TIME」に合わせプッシュします。



5. カーソルを「分」に合わせプッシュします。

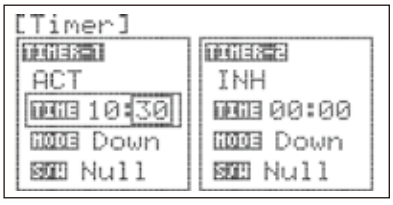
6. スクロールさせ任意の時間を設定したらプッシュし決定します。



7. カーソルを「秒」に合わせプッシュします。

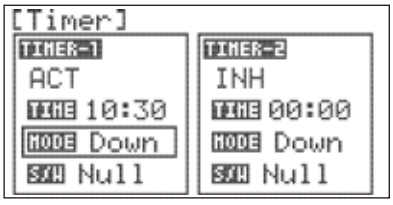
8. スクロールさせ任意の時間を設定したらプッシュし決定します。

9. バックボタンを押しタイマーメニューに戻ります。



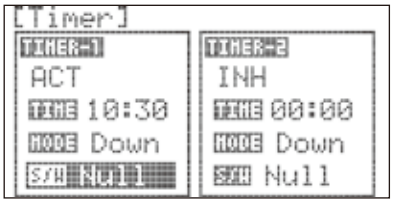
10. カーソルを「MODE」に合わせプッシュします。

11. スクロールさせUPタイマーまたはDownタイマーを
選択しプッシュします。

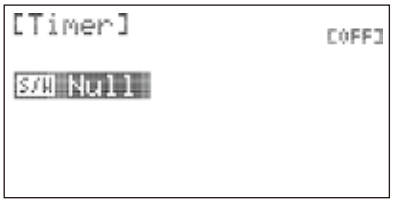


スイッチ操作によるタイマーのスタート・ストップ:

12. カーソルを「S/W」に合わせプッシュします。

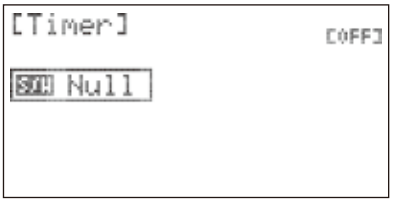


13. 再度、ジョグダイアルをプッシュするとスイッチセレクト画面が
表示されます。



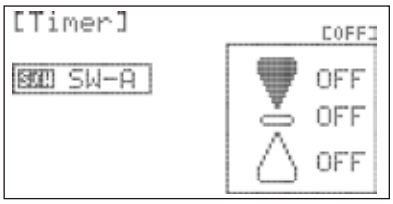
14. スクロールさせ任意のスイッチを選択します。
設定後、プッシュし決定します。

a. 「NULL」を選択した場合はタイマーを使用できません。

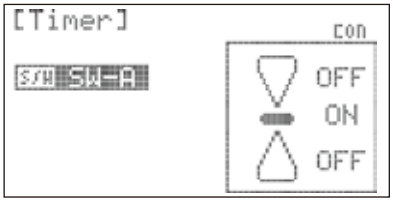


タイマー「Timer」

b.スイッチを選択するとスイッチポジションメニューが表示されます。
- スクロールさせスイッチポジションハイライトを切り替えます。

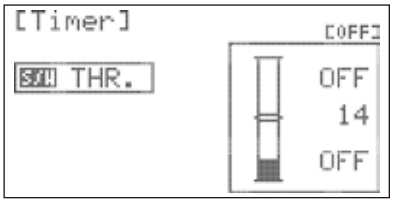


- スイッチポジションが決定したらプッシュします。
- スクロールさせスイッチ設定をOFFからONに切り替えます。その後、プッシュして設定を保存します。正しく設定できれば画面の右上のON/OFF表示がスイッチの操作に合わせ切り替わります。
- バックボタンを押しカーソルの選択を外します。

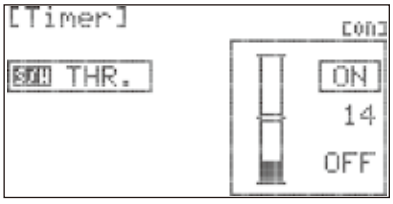


- フラッシュ8はタイマーの作動にスロットルスティックを割当て操作する事が出来ます。

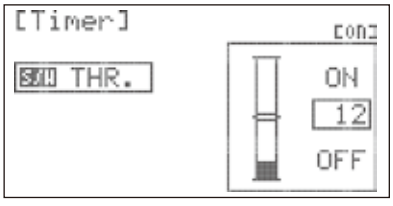
c. スイッチ設定にて「THR」を選択するとスロットルポジションメニューが表示されます。
- カーソルを上部のOFFに合わせプッシュします。



- スクロールさせONに変更したらプッシュし決定します。
- カーソルを中央の数値に合わせプッシュします。



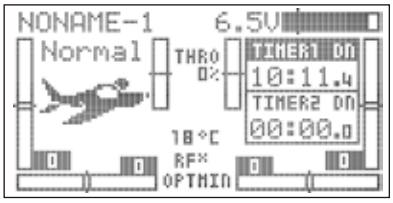
- スクロールさせ任意の数値を入力します。
数値を増減させるとスロットルポジションメニューのインジケーターが変化します。また、スロットルを操作することでスロットルカーソルが連動して動作します。スロットルを操作しスロットルカーソルが設定したスロットルインジケーターより上の位置に移動するとタイマーがスタートし反対に下がるとストップします。
- 設定後、プッシュし決定します。



タイマー「Timer」

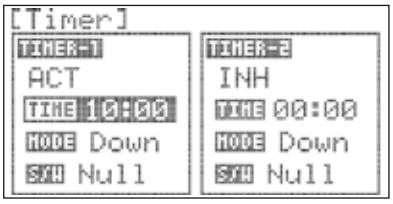
タイマーリセット:

1. ホームスクリーンにてカーソルを「TIMER」に合わせプッシュします。



2. スクロールさせカーソルを「TIME」に合わせプッシュします。

3. この操作によりタイマーはリセットされます。バックボタンを2回押してホームスクリーンに戻ります。



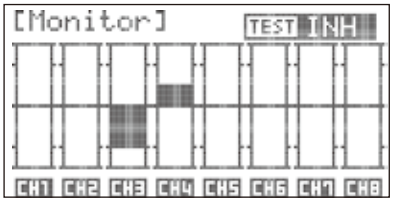
サーボモニター「Monitor」

サーボモニター画面ではフラッシュ8の各コントロール動作をバーグラフで確認できます。 動作角度・ミキシング・速度等が事前に確認できます。色々な機能を設定して複雑になった場合は安全の為にも予想外の動作が無いか確認してください。また全サーボが自動的に動作するテスト機能も付いています。飛行前のサーボ動作確認が容易にできます。

1. モデルメニューより「MONITOR」を選択しプッシュします。



2. モニター画面が表示されます。スティックを動作させると設定されたデータに従い画面上の各CHのバーグラフが変化します。ここで動作角度・ミキシング・速度等の設定が事前に確認できます。



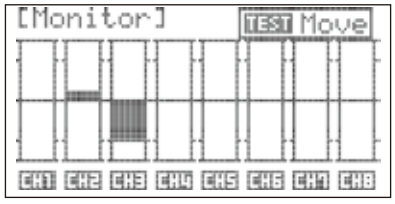
Warning

受信機の電源を入れた状態で動作チェックを行う場合は十分に注意してください。
特に電動モデルの場合は次項のオートチェック機能やニュートラルチェック機能も含めモーターが回らないようにアンプとの接続を外しプロペラ等も機体から取り外してください。

3. ジョグダイアルをプッシュし「TEST」メニューを有効にします。

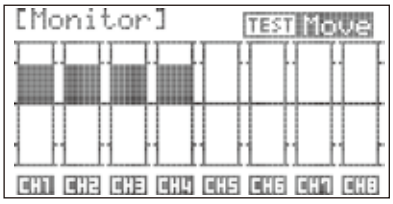
オートチェック機能:

4. スクロールさせ「MOVE」に変更したらプッシュします。



サーボモニター「Monitor」

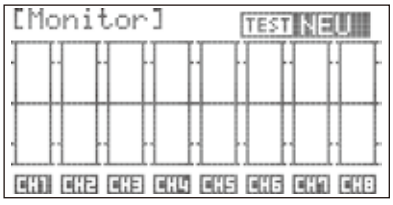
5. オートチェック機能が作動し自動的にテストを行います。
スロットル操作でテストスピードが変化します。



6. その他のテストモードへの切り替えまたはバックボタンを押すことで
オートチェック機能を停止します。

ニュートラルチェック機能:

7. スクロールさせ「NEU」に変更したらプッシュします。



8. ニュートラルチェック機能が作動します。リンケージのニュートラル確認の際に有効です。
※トリム数値とサブトリム数値はモニターに反映されます。

9. その他のテストモードへの切り替えまたはバックボタンを押すことでニュートラルチェック機能を停止します。

スロットルロック「Throttle Lock」

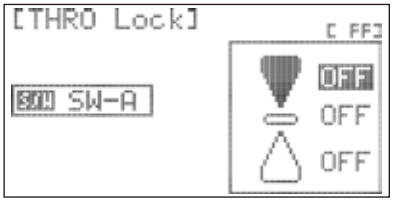
フラッシュ 8は電波の発射時にスロットルロック機能が使用可能です。
下記の設定以外にバックボタンを長押しすることでスロットルロック機能が使用可能です。

1. モデルメニューより「THRO　Lock」を選択しプッシュします。



2. ジョグダイアルをプッシュしスイッチ選択を行ないます。

3. スクロールさせ任意のスイッチを選択します。
選択後、プッシュし決定します。
- 「NULL」を選択した場合はバックボタン長押しでのスロットル
ロックが有効です。



- スイッチを選択するとスイッチポジションメニューが表示されます。スクロールさせスイッチポジション
ハイライトを切り替えます。スイッチポジションが決定したらプッシュします。スクロールさせスイッチ設定を
OFFからONに切り替えます。その後、プッシュして設定を保存します。正しく設定できれば画面の右上
のON/OFF表示がスイッチの操作に合わせ切り替わります。

4. バックボタンを押しモデルメニューに戻ります。

アクロ＆グライダー専用モデルメニュー

アクロ＆グライダー専用モデルメニューでは両タイプ専用の設定が可能です。
ここでは専用モデルメニューの特徴や設定方法について説明をします。

Tip

この設定を行う前にクイックスタートガイドをよくご覧いただきフラッシュ8の基本設定に慣れておきましょう。

アクロ＆グライダー　モデルメニューでは下記の専用項目についての設定が可能です：

AIL DIFF: エルロンディファレンシャル

ELEVON MIX: エレボンミックス

V-TAIL MIX: Vテールミックス

AILEVATOR: エイルベーター

AIL>RUD: エルロン→ラダーミックス

ELEV>CAMB: エレベーター→キャンバーミックス

Camber Mix（グライダー専用）: キャンバーミックス

FLAP CON: フラップコントロール

Landing Mix (Landing) –（アクロ専用）: ランディングミックス

B-fly（グライダー専用）: バタフライミックス

GYRO: ジャイロ設定

THRO CUT（アクロ専用）: スロットルカット

T.CURVE（アクロ専用）: スロットルカーブ



アクロ　モデルメニュー　P1



アクロ　モデルメニュー　P2



グライダー　モデルメニュー　P1



グライダー　モデルメニュー　P2

アクロ＆グライダー　専用モデルメニュー設定

1. 送信機の電源を入れ電波の発射有無を選択します。ここではNOを選択します。
2. システムメニューよりアクロまたはグライダータイプを選択します。
3. ジョグダイアルを長押ししてモデルメニューを開きます。
4. モデルメニューは設定したモデルタイプ及びウイングタイプに合わせ自動的にカスタマイズされます。
   メニューリストが表示されたらスクロール操作でカーソルが移動します。画面に1/2と表示されている場合は2ページ目まで表示可能です。

エルロンディファレンシャル　「Ail Diff」

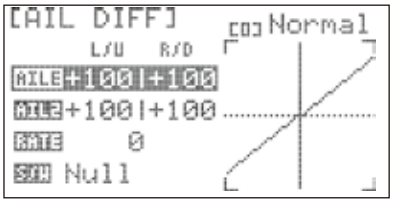
2サーボ以上の主翼ではエルロンの上下の舵角に差をつける事ができます。特にクラークYや半対称の翼型では、この差動を付けないと抵抗成分の影響で機首が逆に向く現象（アドバンスヨー）が出易くなります。1サーボの場合は同様の現象をエルロン→ラダーミックスにて補正します。

1. モデルメニューより「AILDIFF」を選択しプッシュします。

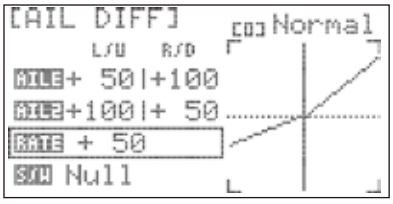


2. カーソルをRATEに合わせプッシュします。

   AILEまたはAILE2を選択しプッシュ&スクロール操作で各数値を独立して変更することができます。

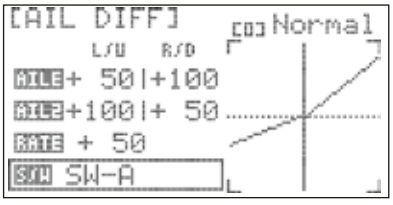


3. RATEの数値を変更するとAILE1とAILE2の数値が連動して変化します。数値の＋、－が変わるとエルロンの連動方向も切り替わります。



4. カーソルを「S/W」に合わせプッシュします。

5. スクロールさせディファレンシャル数値を切り替える為のスイッチを割り当てます。スイッチ割り当てなし「NULL」を選択した場合は常に入力したデファレンシャル数値が有効となります。スイッチを選択した場合は再度ステップ2～4を確認します。



エルロンディファレンシャル 「Ail Diff」

Note	エルロンディファレンシャルの設定数値は使用する機体の説明書に従いに入力してください。

6. バックボタンを押しモデルメニューに戻ります。

エレボン ミックス 「Elevon Mix」

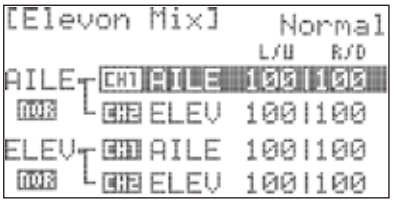
ウイングタイプでエレボンを選択した場合はこちらの設定でエルロンとエレベーターのミキシング作動量を変更出来ます。FLASH 8では片方一つの動翼面ごとに変更可能です。

Tip	この機能の初期設定数値は各100%です、通常では設定変更の必要はありません。

1. モデルメニューより「Elevon Mix」を選択しプッシュします。

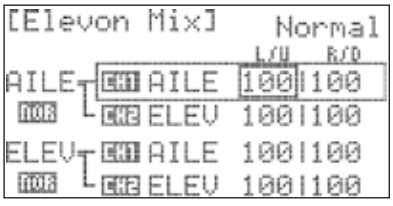


2. カーソルを上段の「CH1 AILE」に合わせプッシュします。



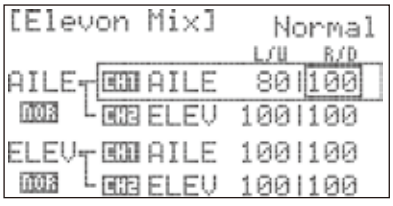
3. カーソルをL/U(レフト/アップ)に合わせプッシュします。

4. スクロール操作でエンドポイント数値を任意の数値に増減させます。右の図の上段の「AILE」はミキシングされたCH1とCH2のエルロン方向のエンドポイント調整、下段の「ELEV」はミキシングされたCH1とCH2のエレベーター方向の調整となります。入力後、プッシュし決定します。



5. カーソルをR/D(ライト/ダウン)に合わせプッシュします。

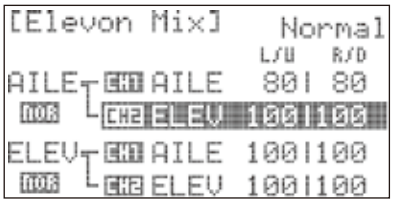
6. スクロール操作でCH1の右エルロン方向のエンドポイント数値を任意の数値に増減させます。入力後、プッシュし決定します。



エレボン　ミックス　「Elevon Mix」

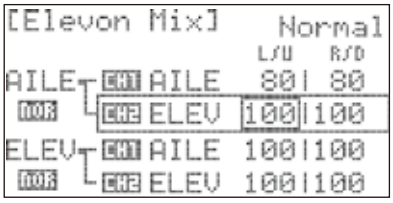
7. バックボタンを押しエレボンミックスメニューに戻ります。

8. カーソルを上段の「CH2　ELEV」に合わせプッシュします。



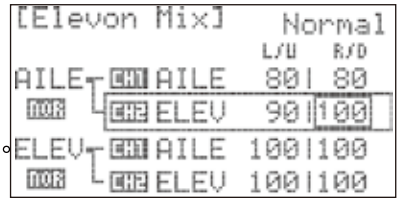
9. カーソルをL/U（レフト/アップ）に合わせプッシュします。

10. スクロール操作でCH2の左エルロン方向のエンドポイント数値を任意の数値に増減させます。入力後、プッシュし決定します。



11. カーソルをR/D（ライト/ダウン）に合わせプッシュします。

12. スクロール操作でCH2の右エルロン方向のエンドポイント数値を任意の数値に増減させます。入力後、プッシュし決定します。

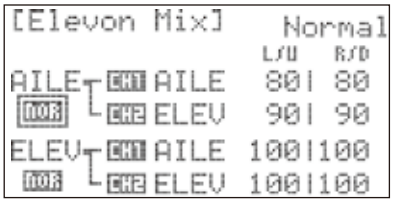


13. バックボタンを一度押しエレボンミックスメニューに戻ります。

14. ステップ2-13に従い下段の「ELEV」についても同様に設定します。

15. ミキシングされたCH1とCH2サーボのエルロンまたはエレベーター動作方向を変更する必要があればまずカーソルを「AILE/ELEV」アイコン下の「nor」に合わせプッシュします。

16. スクロールさせ「nor」から「rev」に変更しプッシュします。

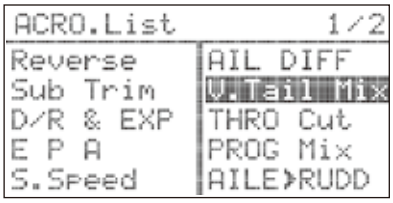


17. バックボタンを2回押しモデルメニューに戻ります。

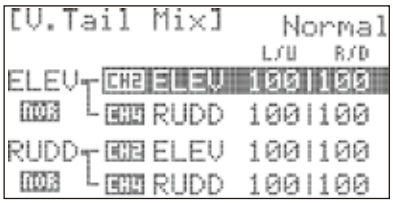
Vテール　ミックス「V-Tail Mix」

テールタイプでVテールを選択した場合はこちらの設定でエレベーターとラダーのミキシング作動量を変更出来ます。FLASH 8では片方一つの動翼面ごとに変更可能です。

1. モデルメニューより「V.Tail Mix」を選択しプッシュします。

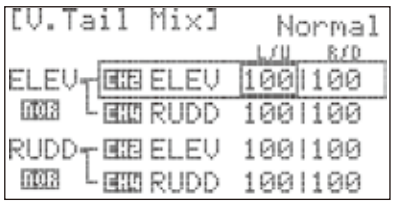


2. カーソルを上段の「CH2　ELEV」に合わせプッシュします。



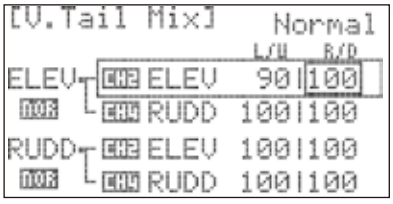
3. カーソルをL/U（レフト/アップ）に合わせプッシュします。

4. スクロール操作でエンドポイント数値を任意の数値に増減させます。右の図の上段の「ELEV」はミキシングされたCH2とCH4のエレベーター方向のエンドポイント調整、下段の「RUDD」はミキシングされたCH2とCH4のラダー方向の調整となります。入力後、プッシュし決定します。



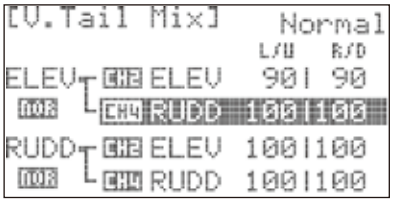
5. カーソルをR/D（ライト/ダウン）に合わせプッシュします。

6. スクロール操作でCH2のエレベーターダウンのエンドポイント数値を任意の数値に増減させます。入力後、プッシュし決定します。



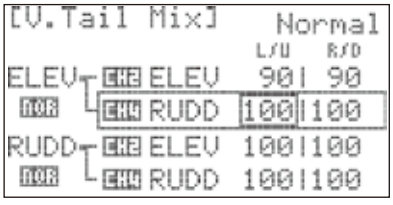
7. バックボタンを押しVテール　ミックスメニューに戻ります。

8. カーソルを上段の「CH4　RUDD」に合わせプッシュします。



9. カーソルをL/U（レフト/アップ）に合わせプッシュします。

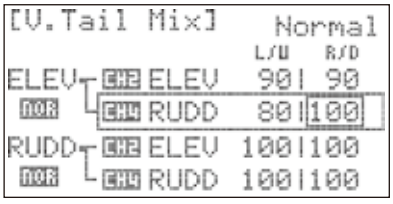
10. スクロール操作でCH4のエレベーターアップのエンドポイント数値を任意の数値に増減させます。入力後、プッシュし決定します。



Vテール　ミックス　「V-Tail Mix」

11. カーソルをR/D（ライト/ダウン）に合わせプッシュします。

12. スクロール操作でCH4のエレベーターダウンの
エンドポイント数値を任意の数値に増減させます。
入力後、プッシュし決定します。

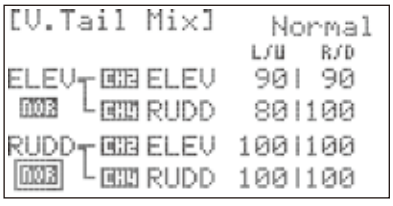


13. バックボタンを押しVテール　ミックスメニューに戻ります。

14. ステップ2-13に従い下段の「RUDD」についても同様に設定します。

15. ミキシングされたCH2とCH4サーボのエレベーターまたは
ラダー動作方向を変更する必要があればまずカーソルを
「ELEV/RUDD」アイコン下の「nor」に合わせプッシュします。

16. スクロールさせ「nor」から「rev」に変更しプッシュします。



17. バックボタンを2回押しモデルメニューに戻ります。

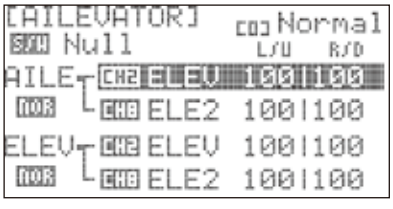
エイルベーター「Ailevator」

テールタイプでエイルベーターを選択した場合はこちらの設定でエレベーター1とエレベーター2のミキシング作動量を変更出来ます。FLASH 8では片方一つの動翼面ごとに変更可能です。エイルベーターはエレベーター動作にエルロン動作をミキシングできます。テイルロンを必要とする機体に有効です。

1. モデルメニューより「AILEVATOR」を選択しプッシュします。

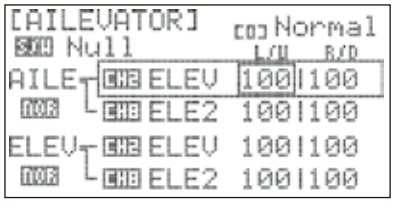


2. カーソルを上段の「CH2　ELEV」に合わせプッシュします。
右の図の上段の「AILE」はミキシングされたCH2とCH6の
エルロン方向のエンドポイント調整、下段の「ELEV」は
ミキシングされたCH2とCH6のエレベーター方向の調整
となります。



3. カーソルをL/U（レフト/アップ）に合わせプッシュします。

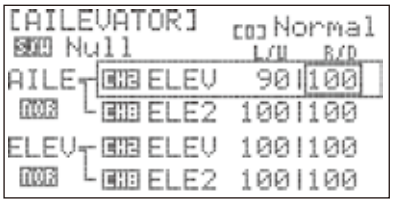
4. スクロール操作でCH2の左エルロン方向の
エンドポイント数値を任意の数値に増減させます。
入力後、プッシュし決定します。



エイルベーター「Ailevator」

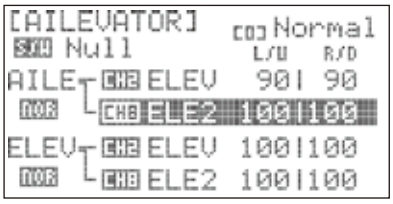
5. カーソルをR/D（ライト/ダウン）に合わせプッシュします。

6. スクロール操作でCH2の右エルロン方向の
エンドポイント数値を任意の数値に増減させます。
入力後、プッシュし決定します。



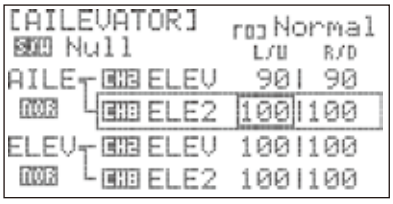
7. バックボタンを押しエイルベーターメニューに戻ります。

8. カーソルを上段の「CH6　ELEV2」合わせプッシュします。



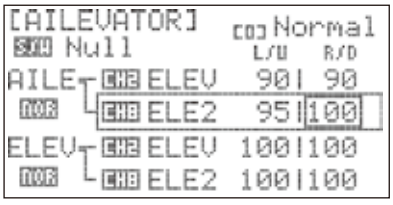
9. カーソルをL/U（レフト/アップ）に合わせプッシュします。

10. スクロール操作でCH6の左エルロン方向の
エンドポイント数値を任意の数値に増減させます。
入力後、プッシュし決定します。



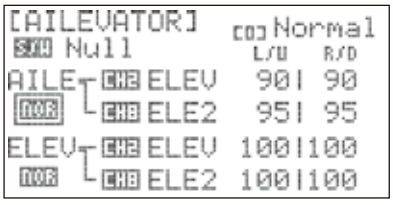
11. カーソルをR/D（ライト/ダウン）に合わせプッシュします。

12. スクロール操作でCH6の右エルロン方向の
エンドポイント数値を任意の数値に増減させます。
入力後、プッシュし決定します。



13. バックボタンを押しエイルベーターメニューに戻ります。
14. ステップ2−13に従い下段の「ELEV」についても同様に設定します。

15. ミキシングされたCH2とCH6サーボのエルロンまたは
エレベーター動作方向を変更する必要があればまず
カーソルをAILE/ELEVアイコン下の「nor」に合わせ
プッシュします。次にスクロールさせて「nor」から「rev」
に変更し再度プッシュします。



16 バックボタンを2回押しモデルメニューに戻ります。

エルロン＞ラダー　ミキシング「Aile>Rudd」

ここではエルロンからラダーへのミキシングを設定することができます。正しく設定することでスムーズな旋回を可能とします、特に大型スケール機の操縦性の向上に有効です。

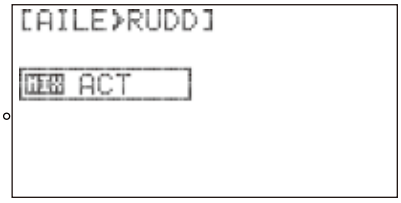
エルロン＞ラダー　ミキシング　設定方法:

1. モデルメニューより「AILE＞RUDD」を選択しプッシュします。

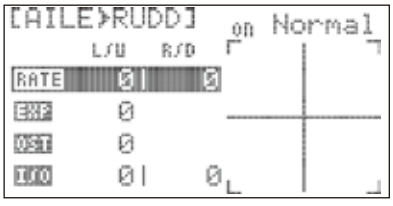


2. 再度ジョグダイアルをプッシュします。

3. ジョグダイアルをスクロールさせINHからACTに変更しプッシュします。

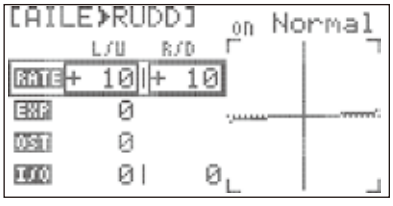


4. カーソルを「RATE」に合わせプッシュします。



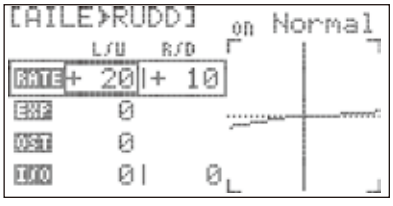
5. スクロールさせ数値を変更するスティック方向、ここではL/U(レフト/アップ)R/D(ライト/ダウン)の両方にカーソルを合わせプッシュします。

6. ジョグダイアルを回転させ任意の数値を入力しプッシュして決定します。時計回りに回転させると数値が増加し反時計回りでは減少します。(L/U・R/Dの両方にカーソルをを合わせると両方に数値が同時に変化します。)



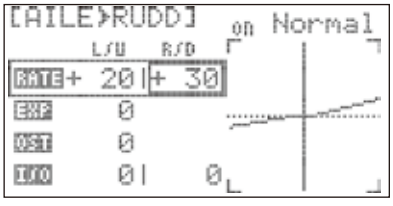
7. カーソルをL/U(レフト/アップ)に合わせプッシュします。

8. スクロール操作で左エルロン操作に連動するラダーミキシング数値を任意の数値に増減させます。入力後、プッシュし決定します。



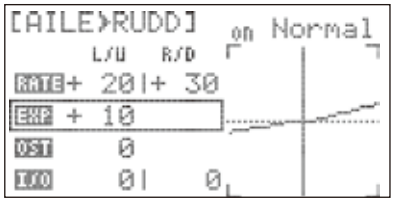
9. カーソルをR/D(ライト/ダウン)に合わせプッシュします。

10. スクロール操作で右エルロン操作に連動するラダーミキシング数値を任意の数値に増減させます。入力後、プッシュし決定します。



エルロン＞ラダー ミキシング「Aile>Rudd cont.」

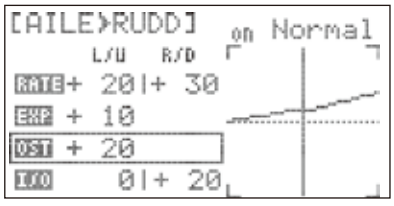
11. カーソルを「EXP」に合わせプッシュします。



12. ミキシングの効き具合を調整する場合はジョグダイアルを回転させ任意の「EXP」数値を入力しプッシュして決定します。

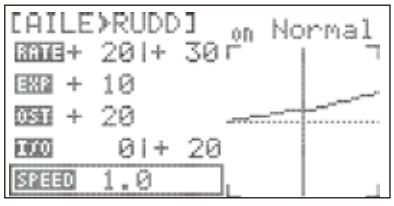
※こちらのEXP数値はラダー操作には反映されません。

13. カーソルを「OST」に合わせプッシュします。



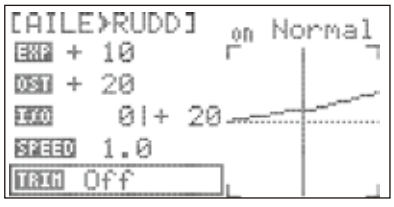
14. ジョグダイアルを回転させ任意のオフセット数値を入力しプッシュして決定します。※オフセット「OST」はカーブ全体を上下に移動させることができます。

15. カーソルを「SPEED」に合わせプッシュします。



16 ジョグダイアルを回転させ任意のスピード数値を入力しプッシュして決定します。※スピード「SPEED」の数値を上げるとスレーブ側の動作スピードが低下します。

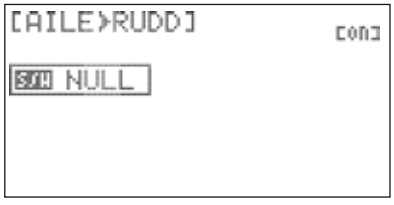
17 カーソルを「TRIM」に合わせプッシュします。



18. ジョグダイアルを回しONまたはOFFに変更しプッシュします。

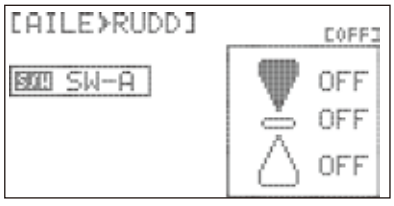
トリムリンク「TRIM」をON（有効）にするとマスター側のトリム変更数値がスレーブ側にも反映されます。

19. カーソルを「S/W」に合わせ二回プッシュします。



20. ミキシングのON/OFFをスイッチで行う場合はスクロール操作で任意のスイッチを選択しプッシュします。

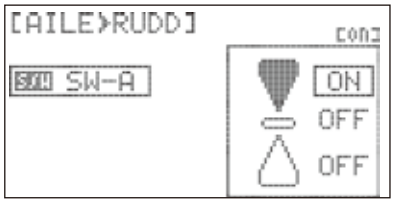
a. NULLを選択した場合はスイッチによるミキシングのON/OFF操作が無効となり設定数値を入力した場合、ミキシングは常に有効となります：



b. スイッチを割り当てる場合：

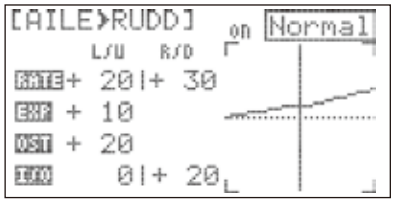
- スイッチポジションメニューが表示されたらスクロールさせスイッチポジションハイライトを切り替えます。スイッチポジションが決定したらプッシュします。

- スクロールさせスイッチ設定をOFFからONに切り替えます。その後、プッシュして設定を保存します。正しく設定できれば画面の右上のON/OFF表示がスイッチの操作に合わせ切り替わります。



エルロン＞ラダー　ミキシング「Aile>Rudd」

21. フライトコンディションが設定されている場合:



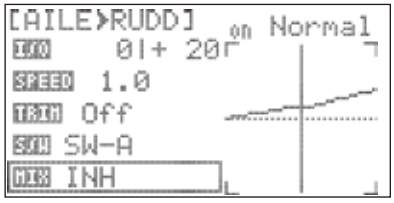
- コンディションが設定されている場合、フライトコンディションを切り替える度に右上の表示と数値が設定されたコンディションに従い変化します。
- カーソルを右上のコンディション名に合わせプッシュします。
- スクロールさせるとスイッチを切り替えることなくコンディションの変更が可能です。プッシュしコンディションを決定します。

Tip

ジョグダイアルでコンディションを切り替える場合はその他の設定は有効になりません。

- ステップ4–18に従い他のコンディションも同様に設定します。

22. バックボタンを一度押しモデルメニューに戻ります。



ミキシング機能OFF:

1.「AILE＞RUDD」 ミキシング画面よりカーソルをMIXに合わせプッシュします。

2. スクロールさせACTからINHに変更しプッシュします。

3. バックボタンを一度押しモデルメニューに戻ります。

エレベーター＞キャンバー　ミキシング「Elev>Camb」

ここではエレベーター操作をキャンバー変化にミキシングすることができます。

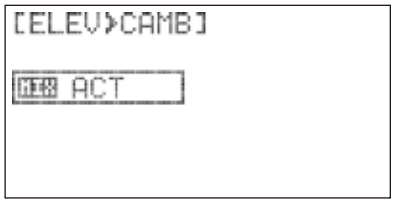
※この設定はキャンバー変化が可能な舵面構成である必要があります。

エレベーター＞キャンバー　ミキシング　設定方法:

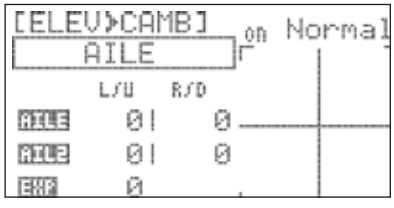
1. モデルメニューより「ELEV＞CAMB」を選択しプッシュします。



2. 再度ジョグダイアルをプッシュします。
3. ジョグダイアルをスクロールさせINHからACTに変更しプッシュします。

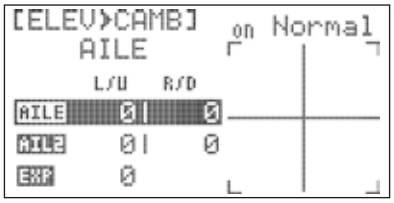


4. スクロールさせスレーブ側の舵面構成を選択します。「AILE」または「FLAP」を選択します。
5. エルロン側を変更する場合は「AILE」を選択しプッシュします。

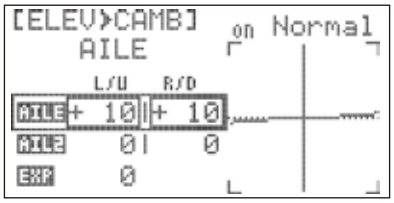


エレベーター＞キャンバー ミキシング「Elev>Camb」

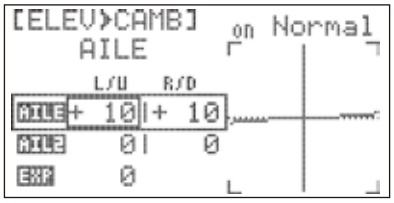
6. カーソルを「AILE」に合わせプッシュします。



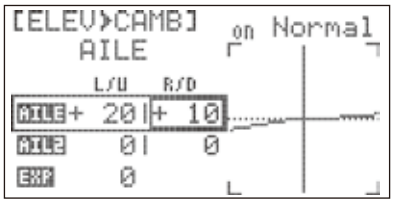
7. スクロールさせ数値を変更するスティック方向、ここでは L/U(レフト/アップ)R/D(ライト/ダウン)の両方にカーソルを合わせプッシュします。
8. ジョグダイアルを回転させ任意の数値を入力しプッシュして決定します。(L/U・R/Dの両方にカーソルをを合わせると両方に数値が同時に変化します。)



9. カーソルをL/U(レフト/アップ)に合わせプッシュします。
10. スクロール操作でエレベーターアップ操作に連動するエルロンキャンバーミキシングの数値を任意の数値に増減させます。入力後、プッシュし決定します。



11. カーソルをR/D(ライト/ダウン)に合わせプッシュします。
12. スクロール操作でエレベーターダウン操作に連動するエルロンキャンバーミキシングの数値を任意の数値に増減させます。入力後、プッシュし決定します。

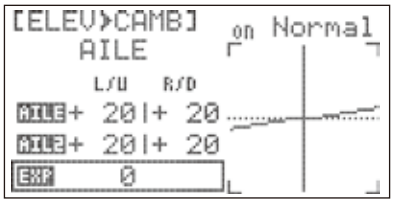


13. ステップ6-12を再度確認し「AILE2」も同様に設定します。

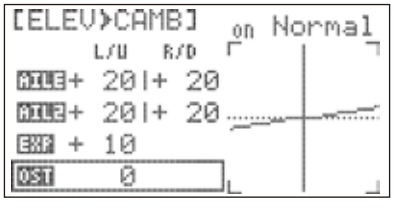
※こちらはエレベーター＞キャンバーミキシング設定となりますので通常のエルロン操作には影響を及ぼしません。

14. カーソルを「EXP」に合わせプッシュします。
15. ミキシングの効き具合を調整する場合はスクロール操作でキャンバーミキシングの「EXP」数値を入力します。(＋)数値でカーブの中間数値が増加し(ー)数値でカーブ中間が低下します。入力後、プッシュし決定します。

※こちらのEXP数値はエルロン・フラップ操作には反映されません。

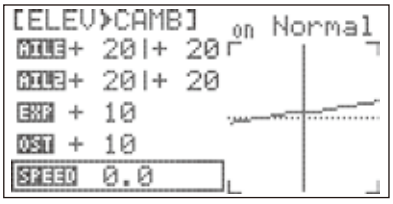


16. カーソルを「OST」に合わせプッシュします。
17. ジョグダイアルを回転させ任意のオフセット数値を入力しプッシュして決定します。※オフセット「OST」はカーブ全体を上下に移動させることができます



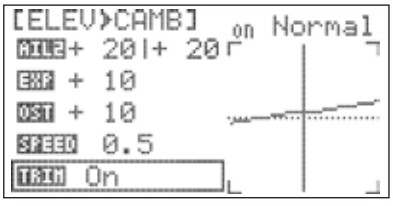
エレベーター＞キャンバー ミキシング「Elev>Camb」

18. カーソルを「SPEED」に合わせプッシュします。



19 ジョグダイアルを回転させ任意のスピード数値を入力しプッシュして決定します。※スピード「SPEED」の数値を上げるとスレーブ側の動作スピードが低下します。

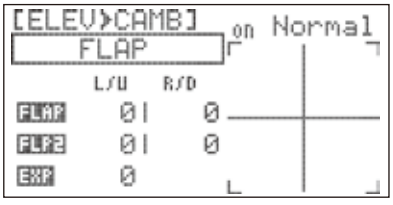
20. カーソルを「TRIM」に合わせプッシュします。



21. ジョグダイアルを回しONまたはOFFに変更しプッシュします。

トリムリンク「TRIM」をON（有効）にするとマスター側のトリム変更数値がスレーブ側にも反映されます。

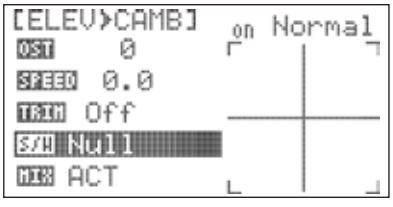
22. フラップ側を変更する場合はプッシュ&スクロール操作でスレーブ側の舵面構成を「FLAP」に変更します。



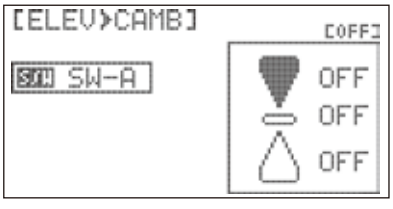
23. ステップ5-21を確認しエルロン側と同様に設定します。

24. 設定を変更しない場合は次のステップ25へ移行します。

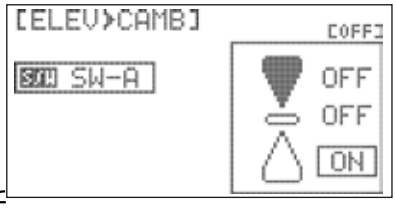
25. カーソルを「S/W」に合わせ二回プッシュします。



26. ミキシングのON/OFFをスイッチで行う場合はスクロール操作で任意のスイッチを選択しプッシュします。



a. スイッチNULLを選択した場合はミキシングが常に有効となります：

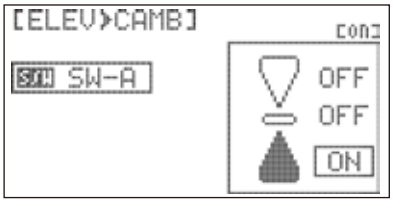


b. スイッチを割り当てる場合：

- スイッチポジションメニューが表示されたらスクロールさせスイッチポジションハイライトを切り替えます。スイッチポジションが決定したらプッシュします。

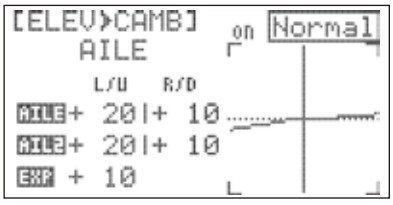
エレベーター＞キャンバー ミキシング「Elev>Camb」

- スクロールさせスイッチ設定をOFFからONに切り替えます。その後、プッシュして設定を保存します。正しく設定できれば画面の右上のON/OFF表示がスイッチの操作に合わせ切り替わります。



27. フライトコンディションが設定されている場合:

- コンディションが設定されている場合、フライトコンディションを切り替える度に右上の表示と数値が設定されたコンディションに従い変化します。
- カーソルを右上のコンディション名に合わせプッシュします。
- スクロールさせるとスイッチを切り替えることなくコンディションの変更が可能です。プッシュしコンディションを決定します。



Tip

ジョグダイアルでコンディションを切り替える場合はその他の設定は有効になりません。

- ステップ4-21に従い他のコンディションも同様に設定します。

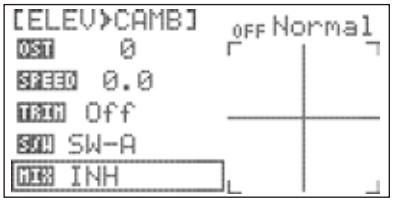
28. バックボタンを一度押しモデルメニューに戻ります。

ミキシング機能OFF:

1.「Elev＞Camb」 ミキシング画面よりカーソルをMIXに合わせプッシュします。

2. スクロールさせACTからINHに変更しプッシュします。

3. バックボタンを一度押しモデルメニューに戻ります。

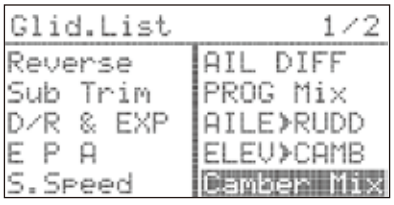


キャンバー ミキシング 「Camber Mix」 (GLID 専用)

キャンバーミキシングはスイッチ操作により各動翼を設定したプリセット位置に移動させ動翼で構成する翼型を可変させることが出来ます。エレベーターによる補正も同時に設定可能です。

キャンバーミキシング設定方法:

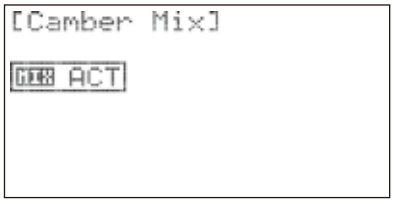
1.モデルメニューより「Camber Mix」に合わせプッシュします。



キャンバー ミキシング「Camber Mix」 (GLID 専用)

2. 再度ジョグダイアルをプッシュします。

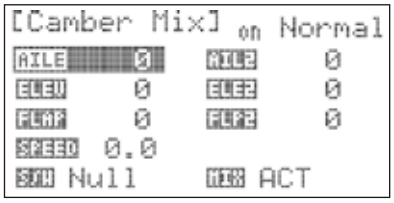
3. ジョグダイアルをスクロールさせINHからACTに
変更しプッシュします。



4. カーソルを「AILE」に合わせプッシュします。

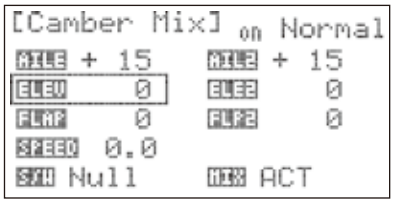
5. スクロール操作で任意の「AILE」キャンバー数値を
設定してプッシュします。

6. 必要に応じて「AIL2」も同様に設定します。

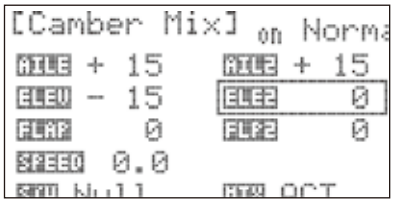


7.カーソルを「ELEV」に合わせプッシュします。

8. スクロール操作で任意の「ELEV」キャンバー数値を
設定してプッシュします。



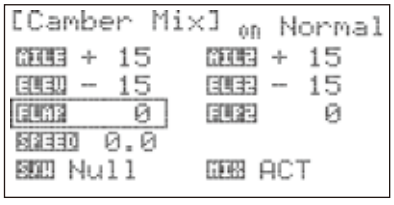
9. 必要に応じて「ELE2」も同様に設定します。



10. カーソルを「FLAP」に合わせプッシュします。

11. スクロール操作で任意の「FLAP」キャンバー数値を
設定してプッシュします。

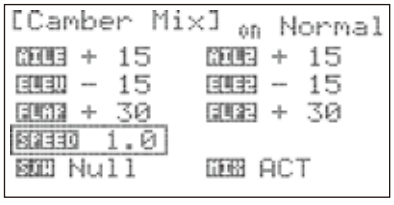
12. 必要に応じて「FLP2」も同様に設定します。



13. カーソルを「SPEED」に合わせプッシュします。

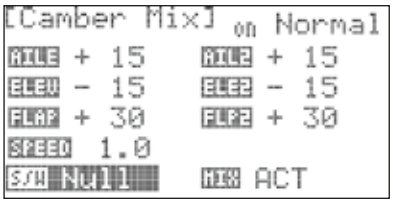
14. スクロール操作で任意の「SPEED」(0.0～10.0)を入力し
プッシュします。この設定により各動翼が変化するまでの
ディレータイムが有効になります。

※スピード設定は遅くなる方向のみ設定可能です、
数値を増加させると作動時に動翼がゆっくりと変化します。



キャンバー ミキシング「Camber Mix」(GLID 専用)

15. カーソルを「S/W」に合わせ二回プッシュします。

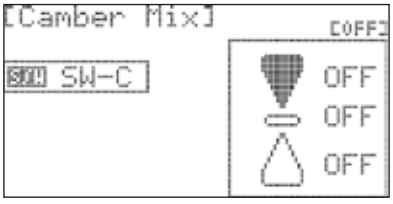


16. ミキシングのON/OFFをスイッチで行う場合はスクロール操作で任意のスイッチを選択しプッシュします。

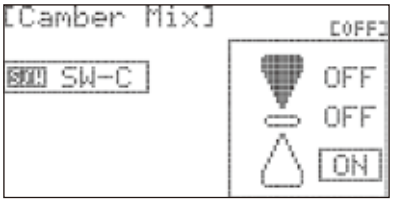
a. NULLを選択した場合はスイッチによるミキシングのON/OFF操作が無効となり設定数値を入力した場合、ミキシングは常に有効となります:

b. スイッチを割り当てる場合:

- スイッチポジションメニューが表示されたらスクロールさせスイッチポジションハイライトを切り替えます。スイッチポジションが決定したらプッシュします。

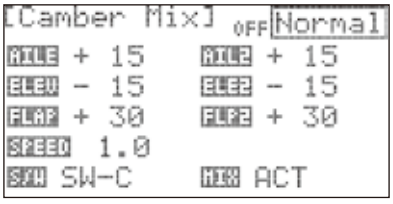


- スクロールさせスイッチ設定をOFFからONに切り替えます。その後、プッシュして設定を保存します。正しく設定できれば画面の右上のON/OFF表示がスイッチの操作に合わせ切り替わります。



17. フライトコンディションが設定されている場合:

- コンディションが設定されている場合、フライトコンディションを切り替える度に右上の表示と数値が設定されたコンディションに従い変化します。
- カーソルを右上のコンディション名に合わせプッシュします。
- スクロールさせるとスイッチを切り替えることなくコンディションの変更が可能です。プッシュしコンディションを決定します。



Tip

ジョグダイアルでコンディションを切り替える場合はその他の設定は有効になりません。

- ステップ4-14に従い他のコンディションも同様に設定します。

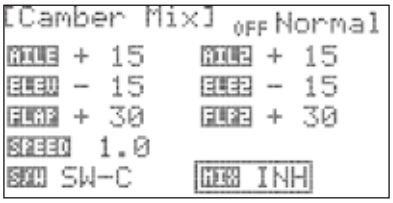
18. バックボタンを一度押しモデルメニューに戻ります。

ミキシング機能OFF:

「Camber Mix」 ミキシング画面よりカーソルをMIXに合わせプッシュします。

スクロールさせACTからINHに変更しプッシュします。

3. バックボタンを一度押しモデルメニューに戻ります。

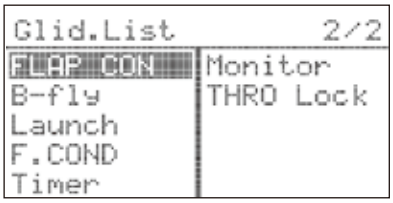


フラップコントロール「Flap Con」

ここではLSサイドレバー操作により変化するフラップ動作角度の設定とエレベーターミキシングによりフラップ作動時のピッチング補正が可能です。※この設定を有効にすると別にフラップチャンネルを割り当てない場合はエルロン1．2のフラッペロンが使用可能です。

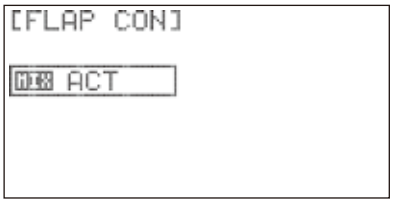
フラップコントロール設定方法：

1. モデルメニューより「FLAP　CON」を選択しプッシュします。

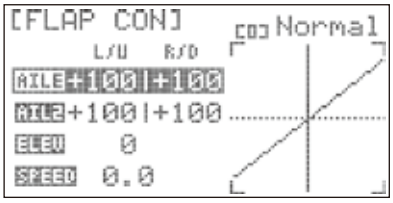


2. 再度ジョグダイアルをプッシュします。

3. ジョグダイアルをスクロールさせINHからACTに変更しプッシュします。

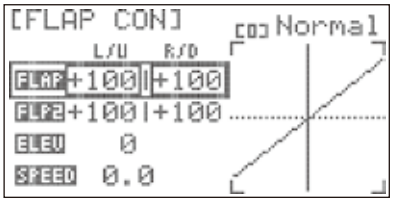


4.カーソルを「AILE」に合わせプッシュします。
※フラップチャンネルを割り当てる場合はここでエルロンの代わりに「FLAP」が表示されます。



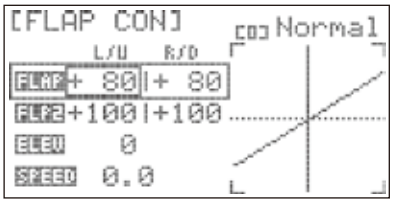
5. スクロールさせ数値を変更するスティック方向、ここではL/U(レフト/アップ)R/D(ライト/ダウン)の両方にカーソルを合わせプッシュします。

6. ジョグダイアルを回転させ任意の数値を入力しプッシュして決定します。時計回りに回転させると数値が増加し反時計回りでは減少します。(L/U・R/Dの両方にカーソルをを合わせると両方に数値が同時に変化します。)



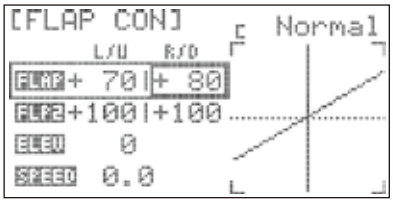
7. カーソルをL/U(レフト/アップ)に合わせプッシュします。

8. ジョグダイアルを回しLSサイドレバー操作により可動する(L/U)側のフラップ動作角度を任意の数値に増減させます。入力後、プッシュし決定します。



9. カーソルをR/D(ライト/ダウン)に合わせプッシュします。

10. ジョグダイアルを回しLSサイドレバー操作により可動する(R/D)側のフラップ動作角度を任意の数値に増減させます。入力後、プッシュし決定します。



フラップコントロール「Flap Con」

11. 必要に応じて「FLP2」も同様に設定します。

12. バックボタンを押しカーソルの選択を外します。

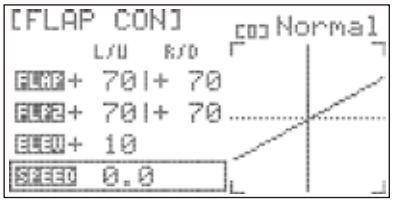
13. カーソルを「ELEV」に合わせプッシュします。

Tip	エレベーターの数値を必ず次のステップに移行する前に設定しておくようにしてください。

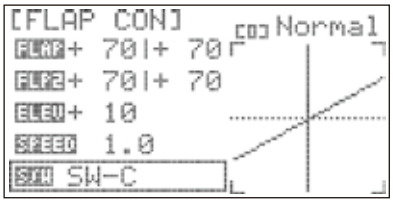
14. ジョグダイアルを回しエレベーターミキシング数値を入力しプッシュし決定します。
※通常はフラップダウン時の機種上げをエレベーターダウンにて補正します。

15. カーソルを「SPEED」に合わせプッシュします。

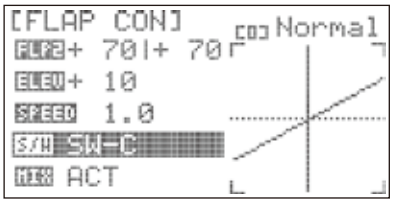
16. スクロール操作で任意の「SPEED」(0.0～10.0)を入力し
プッシュします。この設定によりフラップが変化する
までのディレータイムが有効になります。
※スピード設定は遅くなる方向のみ設定可能です、
数値を増加させると作動時にキャンバーがゆっくりと変化します。



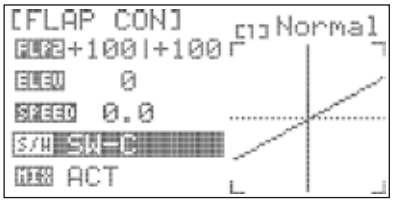
17. スクロールさせカーソルを「S/W」に合わせプッシュします。



18. スクロール操作で任意のスイッチを選択します。
確認しプッシュで決定します。



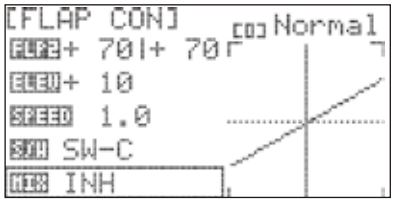
19. 任意の方向にスイッチを傾けて画面右上のポジション番号が
[0],[1],[2] と切り替わることを確認します。



20. バックボタンを一度押しモデルメニューに戻ります。

フラップコントロール機能OFF:

1. 「FLAP CON」 ミキシング画面よりカーソルを
プッシュします。



2. スクロールさせACTからINHに変更しプッシュします。

3. バックボタンを一度押しモデルメニューに戻ります。

ランディング「Landing」（ACRO専用）

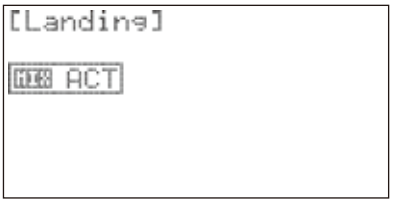
ランディングはスイッチ操作により各動翼を設定したプリセット位置に移動させ動翼でブレーキ面を構成することが出来ます。着陸時のエアブレーキとして有効です。
※エレベーターによる補正も同時に設定可能です。

1.モデルメニューより「Landing」に合わせプッシュします。



2. 再度ジョグダイアルをプッシュします。

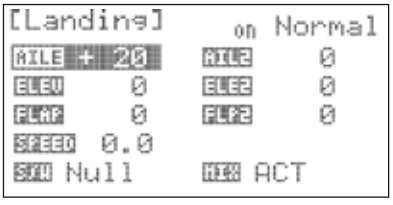
3. ジョグダイアルをスクロールさせINHからACTに
変更しプッシュします。



4. カーソルを「AILE」に合わせプッシュします。

5. スクロール操作で任意の「AILE」キャンバー数値を
設定してプッシュします。

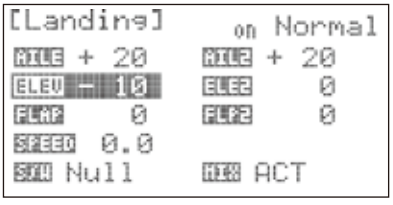
6. 必要に応じて「AIL2」も同様に設定します。



7.カーソルを「ELEV」に合わせプッシュします。

8. スクロール操作で任意の「ELEV」キャンバー数値を
設定してプッシュします。

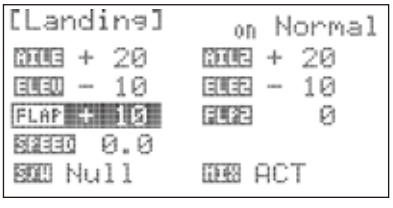
9. 必要に応じて「ELE2」も同様に設定します。



10. カーソルを「FLAP」に合わせプッシュします。

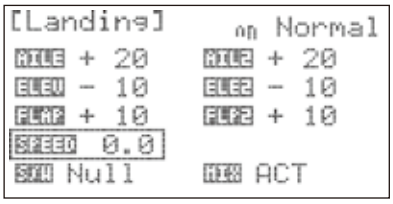
11. スクロール操作で任意の「FLAP」キャンバー数値を
設定してプッシュします。

12. 必要に応じて「FLP2」も同様に設定します。



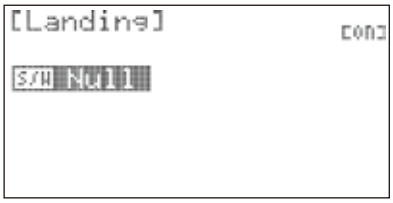
ランディング 「Landing 」 (ACRO 専用)

14. カーソルを「SPEED」に合わせプッシュします。



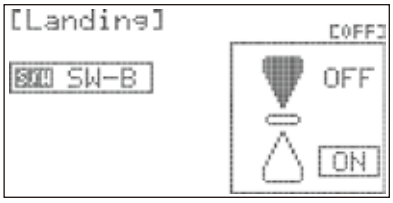
15. スクロール操作で任意の「SPEED」(0.0～10.0)を入力しプッシュします。この設定により各動翼が変化するまでのディレータイムが有効になります。
※スピード設定は遅くなる方向のみ設定可能です、数値を増加させると作動時に動翼がゆっくりと変化します。

16, カーソルを「S/W」に合わせ二回プッシュします。



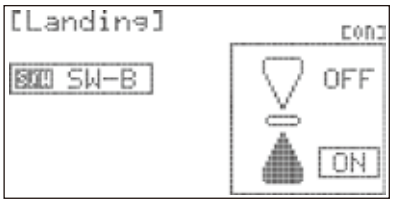
17. ミキシングのON/OFFをスイッチで行う場合はスクロール操作で任意のスイッチを選択しプッシュします。

a. NULLを選択した場合はスイッチによるミキシングのON/OFF操作が無効となり設定数値を入力した場合、ミキシングは常に有効となります:



b. スイッチを割り当てる場合:

- スイッチポジションメニューが表示されたらスクロールさせスイッチポジションハイライトを切り替えます。スイッチポジションが決定したらプッシュします。



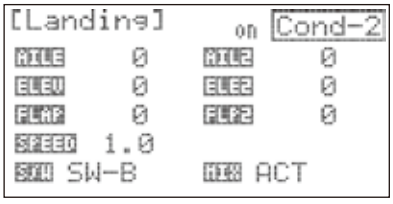
- スクロールさせスイッチ設定をOFFからONに切り替えます。その後、プッシュして設定を保存します。正しく設定できれば画面の右上のON/OFF表示がスイッチの操作に合わせ切り替わります。

18. フライトコンディションが設定されている場合:

- コンディションが設定されている場合、フライトコンディションを切り替える度に右上の表示と数値が設定されたコンディションに従い変化します。

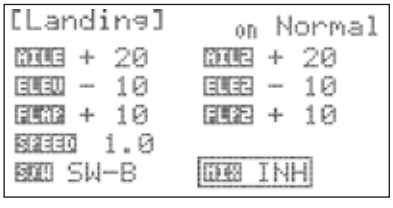
- カーソルを右上のコンディション名に合わせプッシュします。

- スクロールさせるとスイッチを切り替えることなくコンディションの変更が可能です。プッシュしコンディションを決定します。



19. ミキシング機能OFF:
「Landing」 ミキシング画面よりカーソルをMIXに合わせプッシュします。

スクロールさせACTからINHに変更しプッシュします。



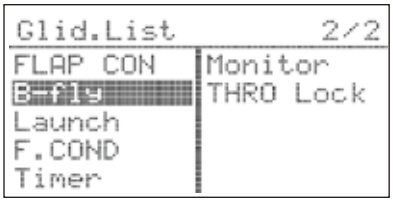
3. バックボタンを一度押しモデルメニューに戻ります。

バタフライミキシング「B-Fly」(GLID 専用)

バタフライミキシングはエルロンとフラップを交互に展開しエアブレーキを作動させる機能です。
FLASH 8 ではスロットルスティックでのブレーキコントロール及びエレベーターミキシングによる
ピッチング補正も可能です。バタフライミキシングはランディング時のスピードコントロールに有効です。

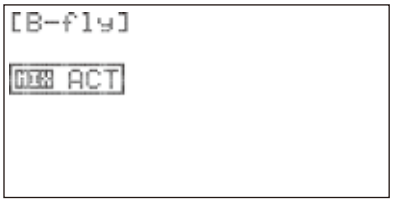
バタフライミキシング設定方法:

1. モデルメニューより「B-Fly」を選択しプッシュします。



2. 再度ジョグダイアルをプッシュします。

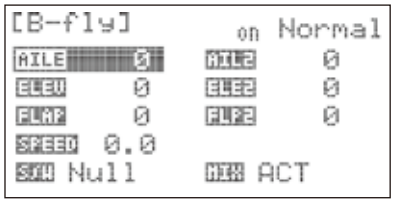
3. ジョグダイアルをスクロールさせINHからACTに
変更しプッシュします。



4. カーソルを「AILE」に合わせプッシュします。

5. スクロール操作で任意の「AILE」数値を設定してプッシュします。
外側のエルロン動翼を上げてブレーキ面を構成させます。

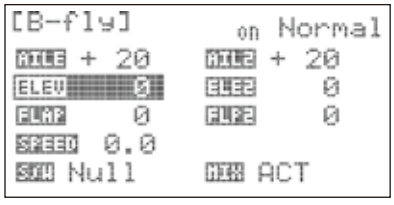
6. 必要に応じて「AIL2」も同様に設定します。



7.カーソルを「ELEV」に合わせプッシュします。

8.スクロール操作で任意の「ELEV」数値を設定してプッシュします。
通常はブレーキ作動時のピッチングを補正します。

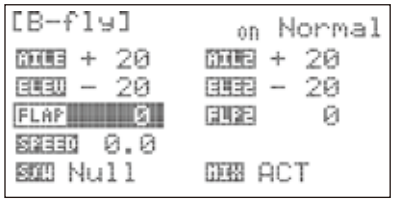
9. 必要に応じて「ELE2」も同様に設定します。



10. カーソルを「FLAP」に合わせプッシュします。

11. スクロール操作で任意の「FLAP」数値を設定してプッシュします。
内側のフラップ動翼を下げてブレーキ面を構成させます。

12.必要に応じて「FLP2」も同様に設定します。

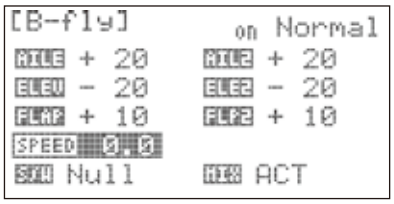


バタフライミキシング「B-Fly」(GLID 専用)

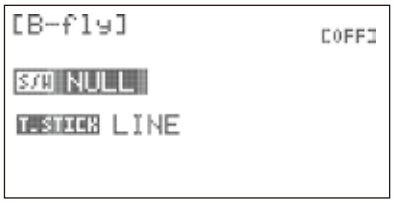
13. バックボタンを押しカーソルの選択を外します。

14. カーソルを「SPEED」に合わせプッシュします。

15. スクロール操作で任意の「SPEED」(0.0～10.0)を入力しプッシュします。この設定によりブレーキ面が変化するまでのディレータイムが有効になります。

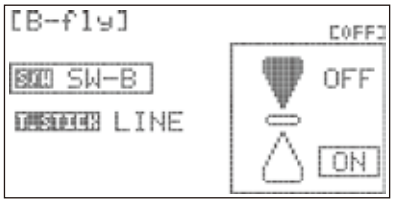


16. スイッチ設定メニューに切り替える為、カーソルを「S/W」に合わせ二回プッシュします。



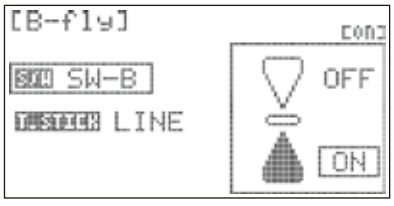
17. ブレーキ使用のON/OFFをスイッチで行う場合はスクロール操作で任意のスイッチを選択しプッシュします。

a. NULLを選択した場合はスイッチによるミキシングのON/OFF操作が無効となり設定数値を入力した場合、ミキシングは常に有効となります:



b. スイッチを割り当てる場合:

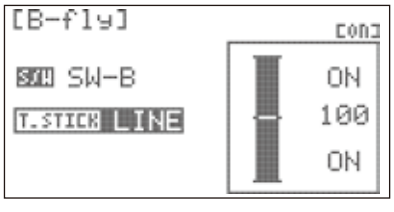
- スイッチポジションメニューが表示されたらスクロールさせスイッチポジションハイライトを切り替えます。スイッチポジションが決定したらプッシュします。



- スクロールさせスイッチ設定をOFFからONに切り替えます。その後、プッシュして設定を保存します。正しく設定できれば画面の右上のON/OFF表示がスイッチの操作に合わせ切り替わります。

ブレーキコントロール設定:

18. カーソルを「T.STICK」に合わせプッシュします。
スロットルポジションメニューが表示されます。

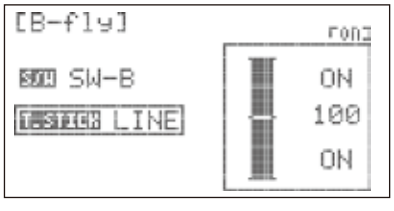


19. スクロールさせ「T.STICK」タイプを選択しプッシュします。

a. 「LINE」を選択する場合:

スロットルスティックに連動したリニアなブレーキコントロールが有効となります。

※スロットルポジションメニューの中間数値とON/OFFを設定することでスロットル操作によるブレーキの有効範囲及びリバースが設定可能です。(0～100)の範囲で調整可能。



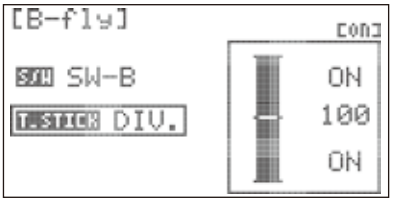
バタフライミキシング「B-Fly」(GLID 専用)

Tip

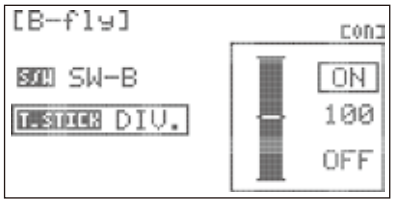
「LINE」を選択した場合、「SPEED」の設定は無効となります。

b.「DIV」を選択する場合:
スロットルスティックでブレーキ展開のON・OFF操作が有効となります。

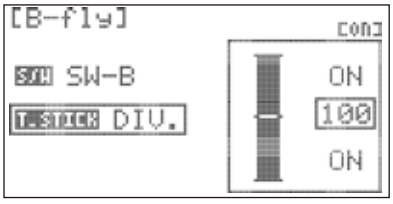
- スロットルポジションメニューが表示されます。



- カーソルをONに合わせプッシュします。
- スクロールさせON・OFFを選択しプッシュします。
スロットルのハイまたはローどちらで作動させるのか
リバース設定を行います。



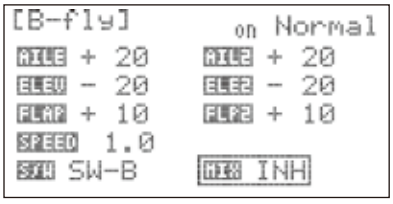
- カーソルをポジションメニューの中間数値に合わせプッシュします。
- 作動切り替えのスロットルポジション位置を選択する為、スクロールさせ数値を変更したらプッシュします。



20. バックボタンを押しモデルメニューに戻ります。

バタフライミキシング機能OFF:

1.「B-Fly」 画面よりカーソルをMIXに合わせプッシュします。
2. スクロールさせACTからINHに変更しプッシュします。
3. バックボタンを一度押しモデルメニューに戻ります。



ジャイロ「Gyro」

ここでは主に飛行機に搭載する1軸ジャイロの感度を送信機から切替えることができる機能です。
こん通常のスイッチ操作で最大3段階の感度を切替えられます。

※感度の切り替えは通常スイッチ及びフライトコンディションにも対応します。

Tip

ジャイロ設定を有効にする場合はP00チャンネルファンクションメニューを確認しジャイロチャンネルを割り当ててください。

ジャイロ「Gyro」

1. モデルメニューより「GYRO」を選択しプッシュします。

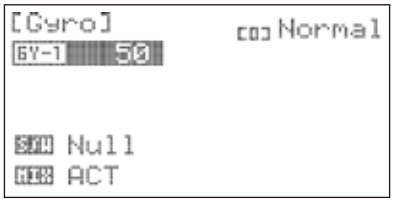


2. 再度ジョグダイアルをプッシュします。
3. ジョグダイアルをスクロールさせINHからACTに変更しプッシュします。

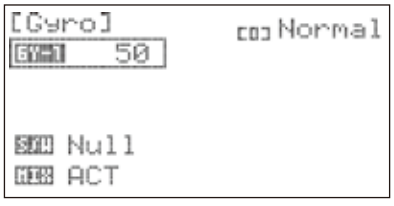


4. カーソルを「GV-1」に合わせプッシュします。
5. スクロールさせ任意のジャイロ感度を入力します。プッシュし決定します。

※搭載するジャイロの説明書を確認し数値を入力してください。



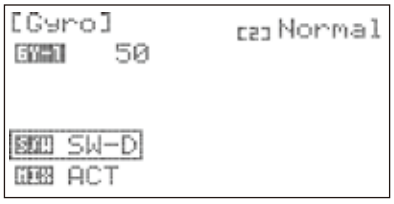
6. カーソルを「S/W」に合わせプッシュします。
7. ジャイロレートの切り替えをスイッチで行う場合はスクロール操作で任意のスイッチを選択しプッシュします。



a. スイッチNULLを選択した場合は入力されたレートが常にON（有効）となります：

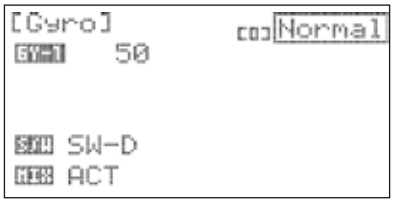
b. スイッチを割り当てる場合：

- スイッチを操作すると選択したポジションスイッチに合わせ右上のポジション番号が（0.1.2）と切り替わります。
- ステップ4・5を確認し各ポジション毎に適切なレートを入力します。



8. フライトコンディションが設定されている場合：

- コンディションが設定されている場合、フライトコンディションを切り替える度に右上の表示と数値が設定されたコンディションに従い変化します。
- カーソルを右上のコンディション名に合わせプッシュします。
- スクロールさせるとスイッチを切り替えることなくコンディションの変更が可能です。プッシュしコンディションを決定します。



ジャイロ「Gyro」

Tip

ジョグダイアルでコンディションを切り替える場合はその他の設定は有効になりません。

-ステップ4・6を確認し各コンディション毎に適切な数値を入力します。

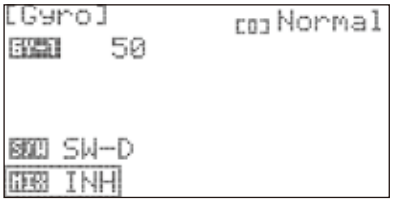
9. バックボタンを押しモデルメニューに戻ります。

ジャイロ機能OFF:

1.「Gyro」 画面よりカーソルをMIXに合わせプッシュします。

2. スクロールさせACTからINHに変更しプッシュします。

3. バックボタンを一度押しモデルメニューに戻ります。



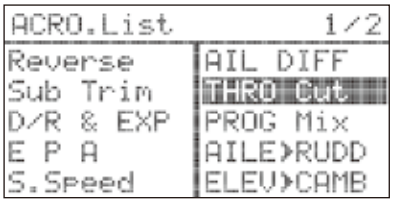
スロットルカット「Thro Cut」 (ACRO専用)

スロットルカット機能はエンジンのキャブレーター開度をサーボでコントロールする場合、スイッチ操作により設定した数値にサーボのポジションが移動します。エンジンがアイドリングまたはカットするように設定することで緊急時の対処にも有効な設定となります。

※スロットルスティックがどのポジションであっても有効です。

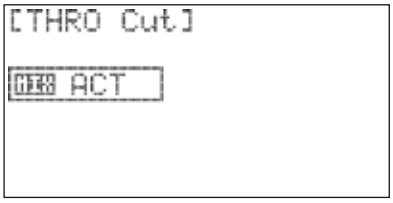
スロットルカット設定方法:

1. モデルメニューより「THRO Cut」を選択しプッシュします。



2. 再度ジョグダイアルをプッシュします。

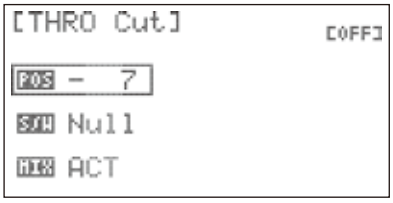
3. ジョグダイアルをスクロールさせINHからACTに変更しプッシュします。



4. カーソルを「POS」ポジションに合わせプッシュします。

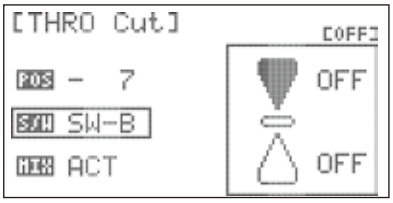
5. スクロールさせスロットルカット作動時のポジション数値を設定します。プッシュし決定します。

※リンケージ構造に負担が生じないことを確認します。



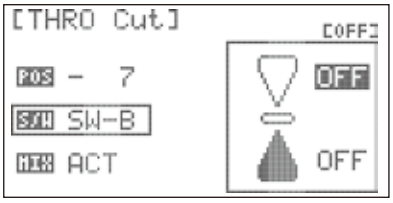
スロットルカット「Thro Cut」(ACRO 専用)

6. カーソルを「S/W」に合わせプッシュします。



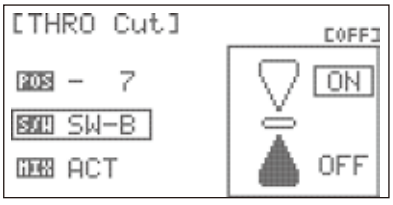
7. スクロールさせスロットルカットを操作するスイッチを選択しプッシュします。

a. スイッチNULLを選択した場合、スロットルカット機能はOFF(無効)となります:

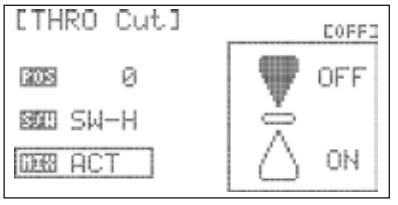


b. スイッチを割り当てる場合:

- スイッチポジションメニューが表示されたらスクロールさせスイッチポジションハイライトを切り替えます。スイッチポジションが決定したらプッシュします。



- スクロールさせスイッチ設定をOFFからONに切り替えます。その後、プッシュして設定を保存します。正しく設定できれば画面の右上のON/OFF表示がスイッチの操作に合わせ切り替わります。



Tip

スロットルカット機能は自動的にニュートラルポジションに戻るセルフリターンスイッチ(スイッチH)を割り当てると使用し易くなります。

8. バックボタンを一度押しモデルメニューに戻ります。

スロットルカット機能OFF:

1. 「Thro Cut」 画面よりカーソルをMIXに合わせプッシュします。

2. スクロールさせACTからINHに変更しプッシュします。

3. バックボタンを一度押しモデルメニューに戻ります。

スロットルカーブ「T. Curve」(ACRO 専用)

スロットルカーブはTHROチャンネルの動作にカーブをつける機能です。スロットルのスティック位置をグラフ上で5ポイントに分割しそのポイントでのサーボポジション数値を変更します。 ポジションスイッチ及びコンディションでの数値切換えやEXPに対応します。

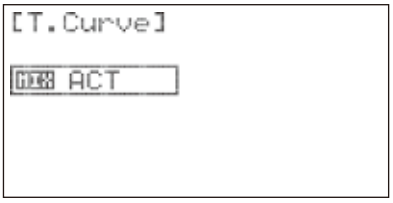
スロットルカーブ設定方法:

1. モデルメニューより「T.Curve」を選択しプッシュします。



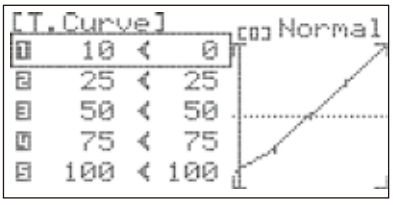
スロットルカーブ「T. Curve」(ACRO 専用)

2. 再度ジョグダイアルをプッシュします。
3. ジョグダイアルをスクロールさせINHからACTに
   変更しプッシュします。

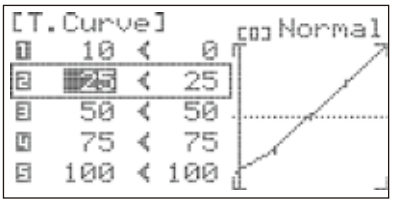


4. カーソルをポイント「1」に合わせプッシュします。
5. スクロールさせこのポイントでのスロットルポジション数値を
   変更しプッシュします。
   (ポイント1はスロットル最スローの位置です。)

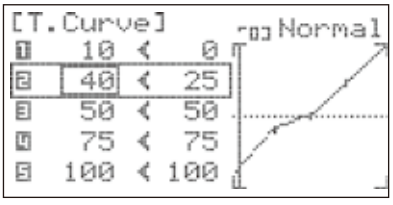
   -スロットルスティックの操作に合わせ縦線が移動します。「I/O」
   表示では左側の数値が実際のスティックポジション、右側が
   スロットルカーブ数値を表します。



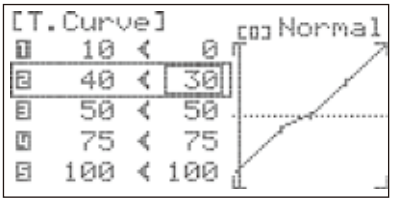
6. カーソルをポジション「2」 の左側の数値に合わせプッシュします。



7. スクロールさせポイント「2」でのY軸方向の数値を変更しプッシュ
   します。



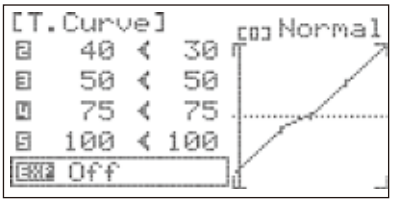
8. カーソルをポジション「2」 の右側の数値に合わせプッシュします。



9. スクロールさせポイント「2」でのX軸方向の数値を変更しプッシュ
   します。ステップ4-8を確認し全てのポイントでの数値を入力します。

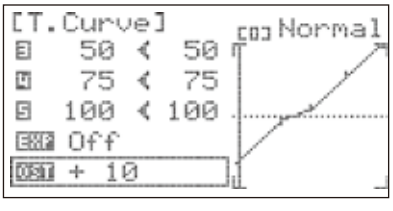
10. カーソルを「EXP」に合わせプッシュします。

11. スクロールさせ「ON・OFF」を切り替えプッシュします。
    ONにすると「EXP」は各ポイントの曲線を滑らかにします。
    グラフにてカーブの状態を確認してください。



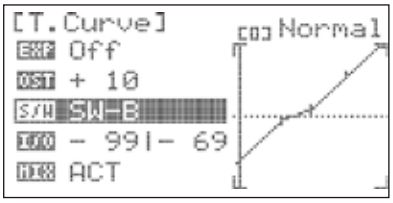
12. カーソルを「OST」に合わせプッシュします。

13. ジョグダイアルを回転させ任意のオフセット数値を入力し
    プッシュして決定します。※オフセット「OST」はカーブ全体
    を上下に移動させることができます



スロットルカーブ「T. Curve」(ACRO 専用)

14. カーソルを「S/W」に合わせプッシュします。



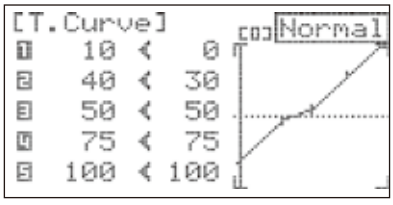
15. スロットルカーブの切り替えをスイッチで行う場合はスクロール操作で 任意のスイッチを選択しプッシュします。

a. NULLを選択した場合はスイッチ操作による数値の切り替えが無効となり入力されたスロットルカーブが常に有効となります:

b.スイッチを割り当てる場合:

- スイッチを操作すると選択したポジションスイッチに合わせ右上のポジション番号が(0.1.2)と切り替わります。
- ステップ4-8を確認し各ポジション毎に適切なレートを入力します。

16. フライトコンディションが設定されている場合:

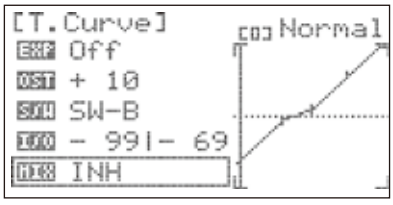


- コンディションが設定されている場合、フライトコンディションを切り替える度に右上の表示と数値が設定されたコンディションに従い変化します。
- カーソルを右上のコンディション名に合わせプッシュします。
- スクロールさせるとスイッチを切り替えることなくコンディションの変更が可能です。プッシュしコンディションを決定します。

17. バックボタンを一度押しモデルメニューに戻ります。

スロットルカーブ機能OFF:

1. 「T.Curve」 画面よりカーソルをMIXに合わせプッシュします。



2. スクロールさせACTからINHに変更しプッシュします。

3. バックボタンを一度押しモデルメニューに戻ります。

ヘリ専用　モデルメニュー

ヘリ　モデルファンクションメニューではヘリコプターの詳細設定が可能です。ここではモデルメニューの特徴や設定方法について説明をします。

Tip

この設定を行う前にクイックスタートガイドをよくご覧いただきフラッシュ8の基本設定に慣れておきましょう。

ヘリ　モデルメニューでは下記の専用項目についての設定が可能です：

FLT.COND: フライトコンディション

THRO CUT: スロットルカット

T.HOLD: スロットルホールド

GYRO: ジャイロ感度

REVO MIX: レボリューションミックス

SWASH>THRO: スワッシュ⇒スロットルミキシング

T.Curve: スロットルカーブ

P.Curve: ピッチカーブ

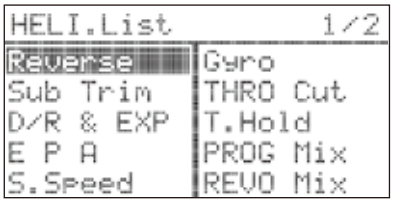
Swash Ring: スワッシュリング

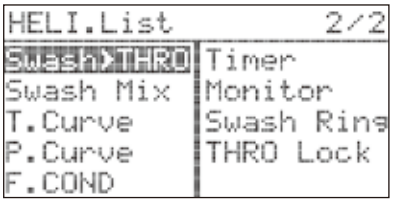
Swash Mix: スワッシュミックス

Governor : ガバナー

ヘリ　モデルメニュー　表示画面

1. 送信機の電源を入れ電波の発射の有無を選択します。
2. モデルタイプをヘリに切り替えます。
3. ジョグダイアルを長押ししてモデルメニューを表示させます。
4. メニューリストが表示されたらスクロール操作でカーソルが移動します。画面に1/2と表示されている場合は2ページ目まで表示可能です。項目はモデルタイプメニューで設定したタイプに合わせて自動的に切り替わります。





フライトコンディション「F. Cond」

フライトコンディションとはミキシングやピッチカーブ等の様々な設定内容をスイッチの切り替えにより一括して変更する機能です。フラッシュ8では最大5つのフライトコンディションが設定可能です。

ヘリコプターで使用可能なコンディション：

1. Normal「ノーマル」
2. Idle-1　「アイドル1」
3. Idle-2　「アイドル2」
4. Idle-3　「アイドル3」
5. Hold　「ホールド」

フライトコンディション「F. Cond」

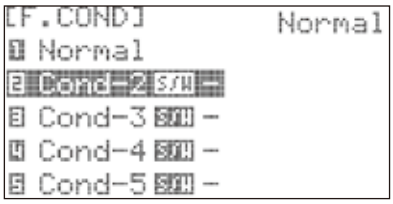
ヘリコプターでは通常、下記の専用設定メニューがフライトコンディション設定に有効です:

Gyro：ジャイロ感度
Revolution Mix：レボリューションミックス
Swash > Throttle Mix：スワッシュ⇒スロットルミキシング
Throttle Curve：スロットルカーブ
Pitch Curve：ピッチカーブ
T.Hold：スロットルホールド
Goveronr： ガバナー

1. モデルメニューより「F.COND」を選択しプッシュします。

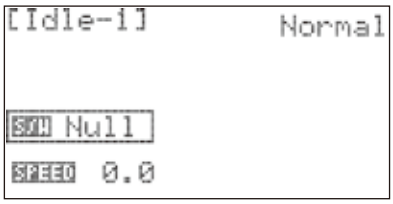


2. 任意のコンディションにカーソルを合わせプッシュします。



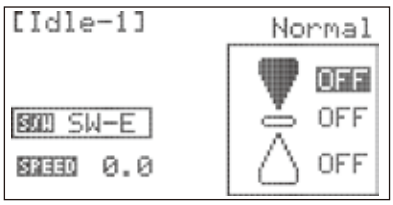
3. 再度プッシュしスイッチ選択を行ないます。

※「Normal」においてスイッチの割り当てはできません。



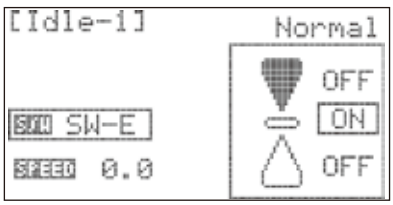
4. スクロールさせ任意のスイッチを選択します。

a.「NULL」を選択するとフライトコンディションは使用できません。



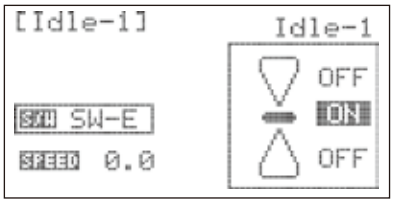
b. スイッチを選択するとスイッチポジションメニューが表示されます。
プッシュしON・OFF設定を行ないます。

- スクロールさせスイッチポジションハイライトを切り替えます。
スイッチポジションが決定したらプッシュします。



- スクロールさせスイッチ設定をOFFからONに切り替えます。
その後、プッシュして設定を保存します。正しく設定できれば
スイッチの操作に合わせ右上のコンディション名と設定が
切り替わります。

- バックボタンを押しカーソルの選択を外します。

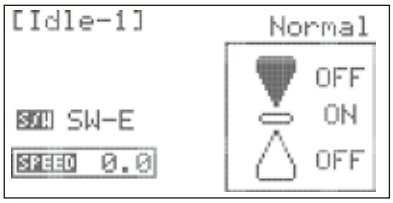


フライトコンディション「F. Cond」

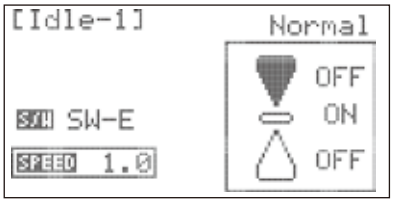
Note

フライトコンディションを新たに追加すると大きい数字で最後に設定したコンディションが作動に際し優先され、設定後のコンディション名はホームスクリーン上に表示されます。

5. カーソルを「SPEED」に合わせプッシュします。



6. スクロールさせると「SPEED」の数値を(0.0～10.0)の範囲で調整可能です。このコンディションディレー数値を設定するとコンディションが切り変わるまでの時間を遅らせることが可能です。この設定によりアイドル アップ作動時のスロットルカーブの急激な変化等を防ぐことが可能です。再度プッシュし決定します。



7. 追加の設定がある場合はバックボタンを一度押してステップ2-6を再度確認します。
8. 終了する場合はバックボタンを二回押してモデルメニューに戻ります。

スロットルカット「Thro Cut」

スロットルカット機能はエンジンのキャブレーター開度をサーボでコントロールする場合、スイッチ操作により設定した数値にサーボのポジションが移動します。エンジンがアイドリングまたはカットするように設定することで緊急時の対処にも有効な設定となります。

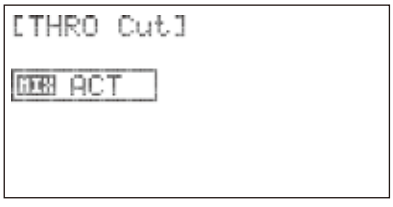
※スロットルスティックがどのポジションであっても有効です。

スロットルカット設定方法:

1. モデルメニューより「THRO　Cut」を選択しプッシュします。



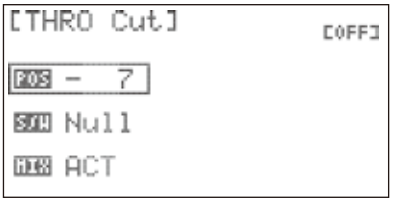
2. 再度ジョグダイアルをプッシュします。
3. ジョグダイアルをスクロールさせINHからACTに変更しプッシュします。



スロットルカット「Thro Cut」

4. カーソルを「POS」ポジションに合わせプッシュします。

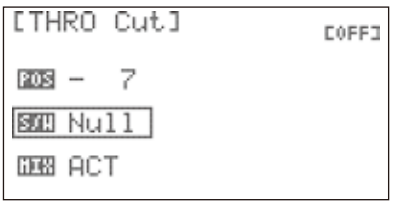
5. スクロールさせスロットルカット作動時のポジション数値を設定します。プッシュし決定します。
※リンケージ構造に負担が生じないことを確認します。



6. カーソルを「S/W」に合わせプッシュします。

7. スクロールさせスロットルカットを操作するスイッチを選択しプッシュします。

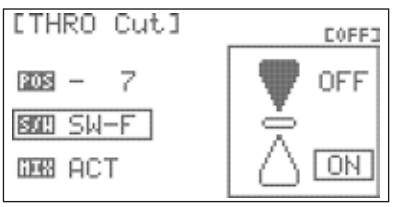
a. スイッチNULLを選択した場合、スロットルカット機能はOFF（無効）となります：



b. スイッチを割り当てる場合：

- スイッチポジションメニューが表示されたらスクロールさせスイッチポジションハイライトを切り替えます。スイッチポジションが決定したらプッシュします。

- スクロールさせスイッチ設定をOFFからONに切り替えます。その後、プッシュして設定を保存します。正しく設定できれば画面の右上のON/OFF表示がスイッチの操作に合わせ切り替わります。



Tip

スロットルカット機能は自動的にニュートラルポジションに戻るセルフリターンスイッチ（スイッチH）を割り当てると使用し易くなります。

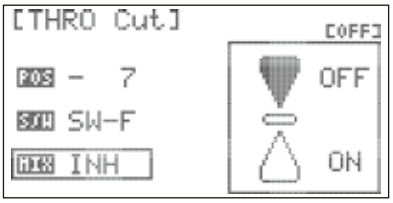
8. バックボタンを一度押しモデルメニューに戻ります。

スロットルカット機能OFF：

1. 「Thro Cut」 画面よりカーソルをMIXに合わせプッシュします。

2. スクロールさせACTからINHに変更しプッシュします。

3. バックボタンを一度押しモデルメニューに戻ります。



スロットルホールド「T. Hold」

スロットルホールドは主にオートローテーションの時に使用する機能です。
スロットルポジションを設定した数値に固定します。

Note

スロットルホールドを有効にする場合はP88を確認しフライトコンディション設定にて「Hold」を割り当ててください。

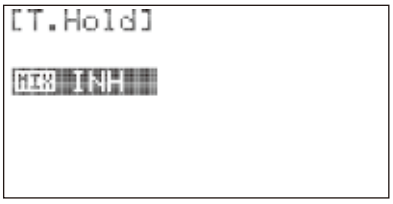
スロットルホールド「T. Hold」

1. カーソルを「T.Hold」に合わせプッシュします。



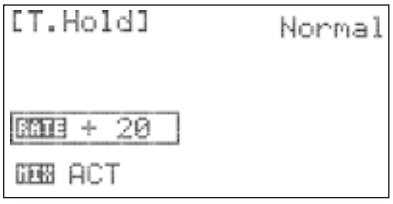
2. 再度ジョグダイアルをプッシュします。

3. ジョグダイアルをスクロールさせINHからACTに
変更しプッシュします。



4. カーソルを「RATE」に合わせプッシュします。

5. ジョグダイアルを回しスロットルホールド作動時のスロットル
固定数値を決定します。再度プッシュし決定します。



スロットルホールド機能OFF:

1. カーソルをMIXに合わせてプッシュします。

2. ジョグダイアルを回しACTからINHに変更します。
再度プッシュし決定します。

3. バックボタンを押しモデルメニューに戻ります。



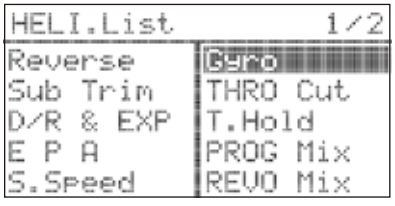
ジャイロ 「Gyro」（HELI専用）

ジャイロ設定はヘリコプターの1軸ラダージャイロの感度調整をする機能です。
スイッチポジション又はフライトコンディションごとに最大3段階の異なった感度を設定できます。
フラッシュ 8ではジャイロの感度設定を「single」、「dual」いずれかのタイプに切り替えることが可能です。

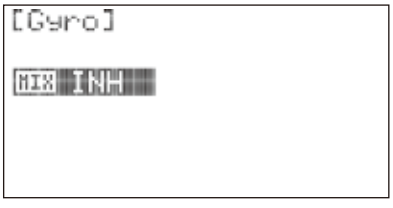
Tip

ジャイロ設定を有効にする場合はP37チャンネルファンクションメニューを確認しジャイロ
チャンネルを割り当ててください。

1. モデルメニューより「Gyro」を選択しプッシュします。

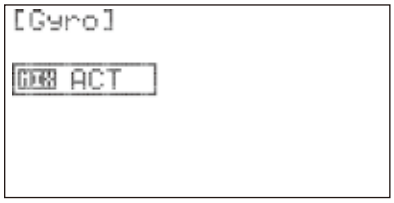


2. 再度ジョグダイアルをプッシュします。

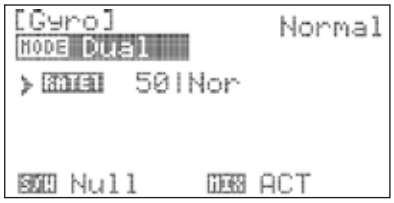


ジャイロ 「Gyro」（HELI専用）

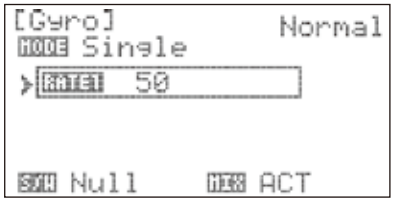
3. ジョグダイアルを回しINHからACTに変更しジャイロ機能を有効にします。再度プッシュで決定します。



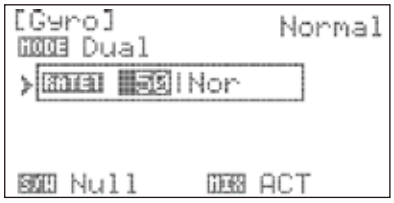
4. カーソルを「MODE」に合わせてプッシュします。
5. ジョグダイアルを回しジャイロ感度タイプを「Single」または「Dual」のどちらかを選択しプッシュします。



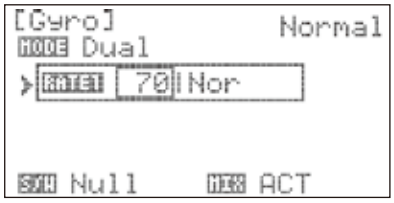
a. シングルモード「Single」:
- カーソルをRATE1に合わせプッシュします。
- ジョグダイアルを回し任意のジャイロ感度を入力します。シングルモードでは一般的に50%を基準（感度0%）として50%以上がテールロックモード、50%以下がノーマルモードとなります。



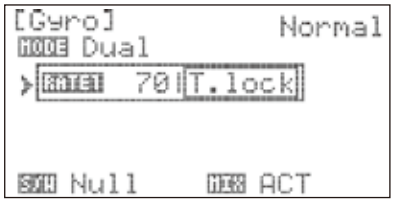
b. デュアルモード「Dual」:
- カーソルをRATE1に合わせプッシュします。
- カーソルをジャイロ感度数値に合わせプッシュします。



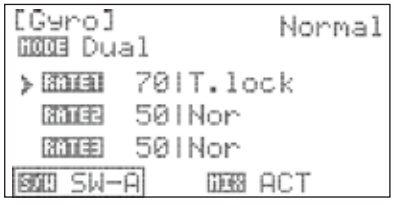
- ジョグダイアルを回し任意のジャイロ感度を入力します。入力後、プッシュで決定します。
※機体やご使用するジャイロの説明書を確認し正しい感度を入力します。



- カーソルを（NorまたはT,lock)に合わせてプッシュします。
- ジョグダイアルを回しNor（ノーマルモード）T,lock（テールロックモード）のどちらかを選択しプッシュします。



6. カーソルをS/Wに合わせてプッシュします。



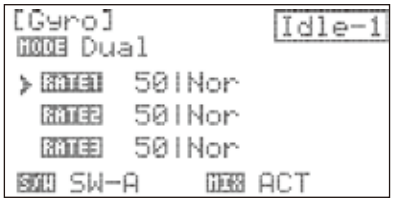
7. ジャイロレートの切り替えをスイッチで行う場合はスクロール操作で任意のスイッチを選択しプッシュします。
a. スイッチNULLを選択した場合は入力されたレートが常にON（有効）となります:

ジャイロ 「Gyro」（HELI専用）

b. スイッチを割り当てる場合：
- スイッチを操作すると選択したポジションスイッチに合わせ「RATE」が追加されレート番号が切り替わります。
- ステップ4-5を確認し各ポジション毎に適切なレートを入力します。



8. フライトコンディションが設定されている場合：
- コンディションが設定されている場合、フライトコンディションを切り替える度に右上の表示と数値が設定されたコンディションに従い変化します。
- カーソルを右上のコンディション名に合わせプッシュします。
- スクロールさせるとスイッチを切り替えることなくコンディションの変更が可能です。プッシュしコンディションを決定します。



Tip

ジョグダイアルでコンディションを切り替える場合はその他の設定は有効になりません。

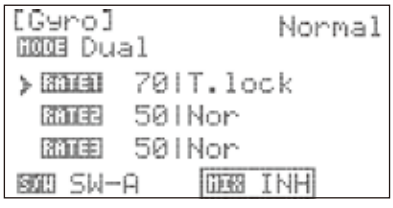
- ステップ4-5を確認し各コンディション毎に適切なレートを入力します。

ジャイロ機能OFF：

1.「Gyro」 画面よりカーソルをMIXに合わせプッシュします。

2. スクロールさせACTからINHに変更しプッシュします。

3. バックボタンを一度押しモデルメニューに戻ります。



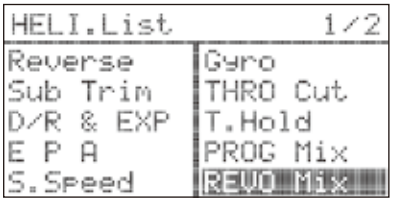
レボリューション ミックス 「Revo Mix」

レボリューション ミックスはヘリのメインローターから発生する反動トルクを補正する為にピッチからテールローター（ラダー）にミキシングを掛ける機能です。

※テールロックジャイロを使用する場合は使用しないでください。

レボリューションミックス設定方法：

1. モデルメニューより「REVO Mix」を選択しプッシュします。



2. 再度ジョグダイアルをプッシュします。

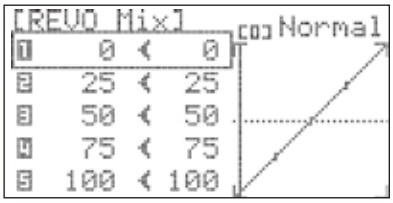
3. ジョグダイアルをスクロールさせINHからACTに変更しプッシュします。



レボリューション ミックス 「Revo Mix」

4. カーソルをポイント「1」に合わせプッシュします。

5. スクロールさせこのポイントでのレボリューション ミックス数値を変更しプッシュします。(ポイント1はスロットル最スローの位置です。)

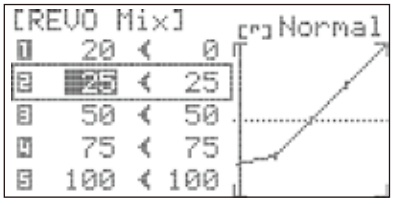


-スロットルスティックの操作に合わせ縦線が移動します。「I/O」表示では左側の数値が実際のスティックポジション、右側がラダーミキシング数値を表します。

6. カーソルをポジション「2」 の左側の数値に合わせプッシュします。

7. スクロールさせポイント「2」でのY軸方向の数値を変更しプッシュします。

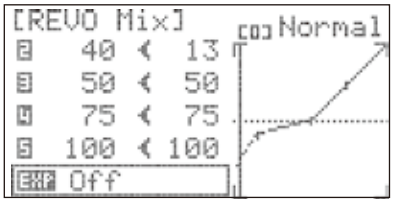
8. 同様にスクロールさせポイント「2」でのX軸方向の数値を変更しプッシュします。



9. ステップ4-8を確認し全てのポイントでの数値を入力します。

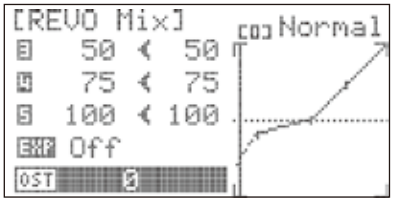
10. カーソルを「EXP」に合わせプッシュします。

11. スクロールさせ「ON・OFF」を切り替えプッシュします。
ONにすると「EXP」は各ポイントの曲線を滑らかにします。
グラフにてカーブの状態を確認してください。

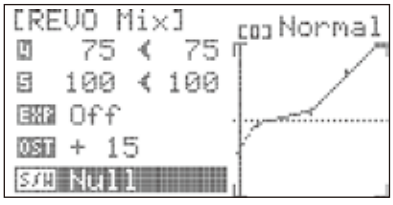


12. カーソルを「OST」に合わせプッシュします。

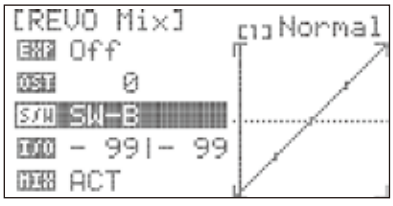
13. ジョグダイアルを回転させ任意のオフセット数値を入力しプッシュして決定します。※オフセット「OST」はカーブ全体を上下に移動させることができます



14. カーソルを「S/W」に合わせプッシュします。



15. レボリューション ミックスの切り替えをスイッチで行う場合はスクロール操作で 任意のスイッチを選択しプッシュします。



a. NULLを選択した場合はスイッチ操作による数値の切り替えが無効となり入力されたレボリューション ミックスが常に有効となります:

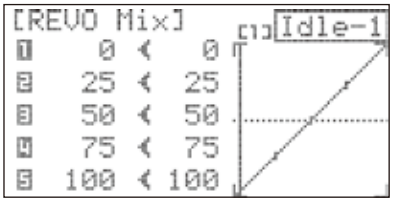
b.スイッチを割り当てる場合:

- スイッチを操作すると選択したポジションスイッチに合わせ右上のポジション番号が(0.1.2)と切り替わります。

レボリューション　ミックス「Revo Mix」

16. フライトコンディションが設定されている場合:

- コンディションが設定されている場合、フライトコンディションを切り替える度に右上の表示と数値が設定されたコンディションに従い変化します。
- カーソルを右上のコンディション名に合わせプッシュします。
- スクロールさせるとスイッチを切り替えることなくコンディションの変更が可能です。プッシュしコンディションを決定します。



Tip

ジョグダイアルでコンディションを切り替える場合はその他の設定は有効になりません。

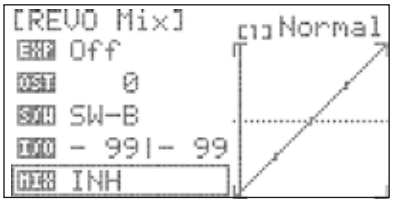
17. –ステップ4–12を確認し各コンディション毎に適切なレートを入力します。
18. バックボタンを一度押しモデルメニューに戻ります。

レボリューション ミックス機能OFF:

1.「REVO Mix」 画面よりカーソルをMIXに合わせプッシュします。

2. スクロールさせACTからINHに変更しプッシュします。

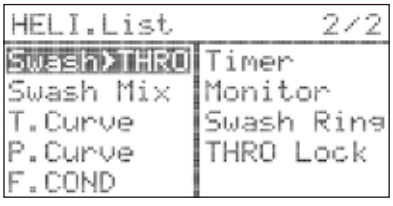
3. バックボタンを一度押しモデルメニューに戻ります。



スワッシュ＞スロットル　ミックス「Swash. Thro」

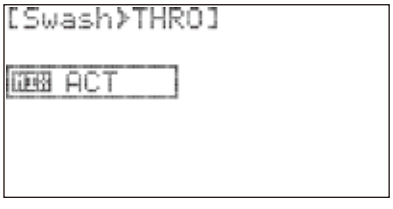
スワッシュ＞スロットル　ミックスはスワッシュプレートが変化する（エルロン、エレベーター）動作に対してスロットルへミキシングを掛けます。正しく設定することでスワッシュ操作時のパワーロスを補正し高度低下を防ぐことが出来ます。

1. モデルメニューより「SWASH＞THRO」を選択しプッシュします。



2. 再度ジョグダイアルをプッシュします。

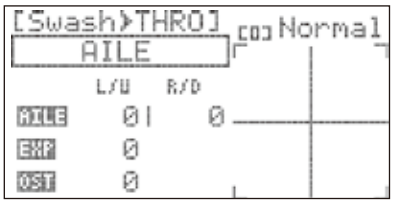
3.ジョグダイアルをスクロールさせINHからACTに変更しプッシュします。



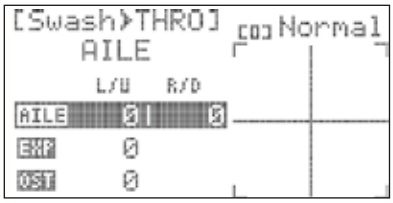
スワッシュ＞スロットル　ミックス「Swash. Thro」

4. スクロールさせマスター側のチャンネルを選択します。「AILE」または「ELEV」を選択します。

5. エルロン側を変更する場合はスクロールさせ「AILE」を選択しプッシュします。



6. カーソルを「AILE」に合わせプッシュします。



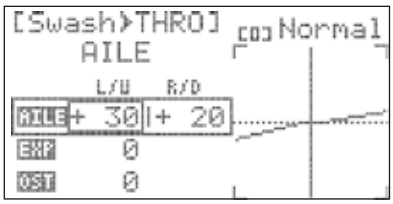
7. スクロールさせ数値を変更するスティック方向、ここではL/U(レフト/アップ)R/D(ライト/ダウン)の両方にカーソルを合わせプッシュします。

8. ジョグダイアルを回転させ任意の数値を入力しプッシュして決定します。(L/U・R/Dの両方にカーソルをを合わせると両方に数値が同時に変化します。)



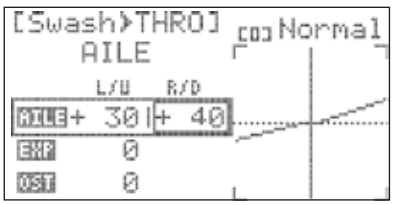
9. カーソルをL/U(レフト/アップ)に合わせプッシュします。

10. スクロール操作で左エルロン操作に連動するスロットルの数値を任意の数値に増減させます。入力後、プッシュし決定します。



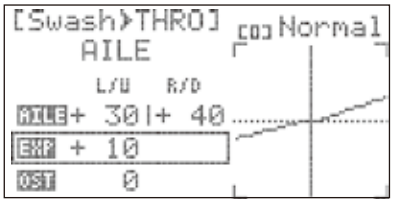
11. カーソルをR/D(ライト/ダウン)に合わせプッシュします。

12. スクロール操作で右エルロン操作に連動するスロットルの数値を任意の数値に増減させます。入力後、プッシュし決定します。



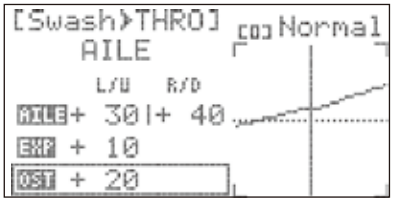
13. カーソルを「EXP」に合わせプッシュします。

14. ミキシングの効き具合を調整する場合はスクロール操作で「Swash＞THRO」ミキシングの「EXP」数値を入力します。(＋)数値でカーブの中間数値が増加し(ー)数値でカーブ中間が低下します。入力後、プッシュし決定します。



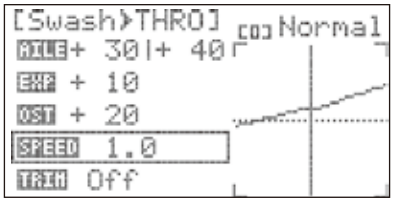
15. カーソルを「OST」に合わせプッシュします。

16. ジョグダイアルを回転させ任意のオフセット数値を入力しプッシュして決定します。※オフセット「OST」はカーブ全体を上下に移動させることができます。



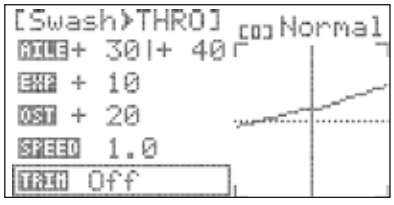
スワッシュ＞スロットル　ミックス「Swash. Thro」

17. カーソルを「SPEED」に合わせプッシュします。



18. ジョグダイアルを回転させ任意のスピード数値を入力しプッシュして決定します。※スピード「SPEED」の数値を上げるとスレーブ側の動作スピードが低下します。

19. カーソルを「TRIM」に合わせプッシュします。

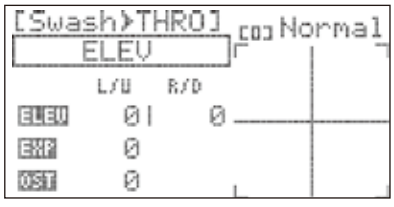


20. トリムリンク「TRIM」をON（有効）にするとマスター側のトリム変更数値がスレーブ側にも反映されます。

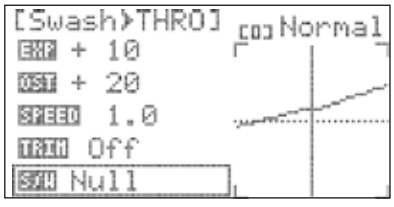
21. ジョグダイアルを回しONまたはOFFに変更しプッシュします。

22. エレベーター側を変更する場合はプッシュ&スクロール操作で「ELEV」を選択します。

23. ステップ6-20を確認しエルロン側と同様に設定します。

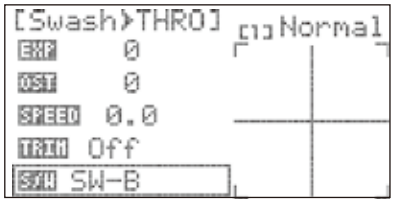


24. カーソルを「S/W」に合わせてプッシュします。

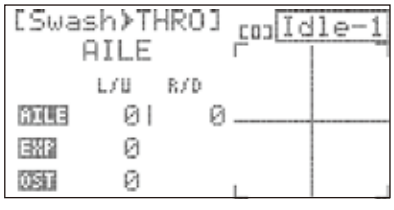


25. 設定の切り替えをスイッチで行う場合はスクロール操作で任意のスイッチを選択しプッシュします。
    a. スイッチNULLを選択した場合は入力された数値が常にON（有効）となります：

    b. スイッチを割り当てる場合：
    - スイッチを操作すると選択したポジションスイッチに合わせ右上のポジション番号が（0.1.2）と切り替わります。
    - ステップ4-23を確認し各ポジション毎に適切な数値を入力します。



26. フライトコンディションが設定されている場合
    - コンディションが設定されている場合、フライトコンディションを切り替える度に右上の表示と数値が設定されたコンディションに従い変化します。



スワッシュ＞スロットル　ミックス「Swash. Thro」

- カーソルを右上のコンディション名に合わせプッシュします。
- スクロールさせるとスイッチを切り替えることなくコンディションの変更が可能です。プッシュしコンディションを決定します。

Tip

ジョグダイアルでコンディションを切り替える場合はその他の設定は有効になりません。

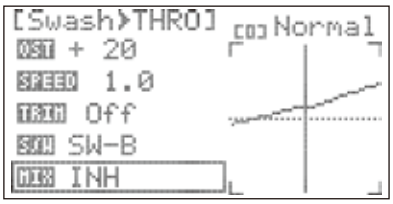
- ステップ4-23を確認し各コンディション毎に適切な数値を入力します。

スワッシュ＞スロットル　ミックス機能OFF:

1.「Swash＞THRO」画面よりカーソルをMIXに合わせプッシュします。

2. スクロールさせACTからINHに変更しプッシュします。

3. バックボタンを一度押しモデルメニューに戻ります。



スワッシュ　ミックス「Swash Mix.」

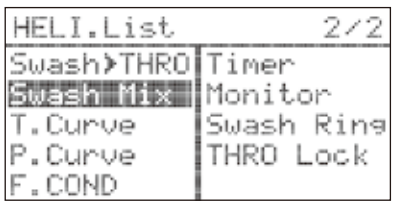
スワッシュ　ミックスメニューは「MDL　Type」スワッシュタイプ設定にて1-SERVO90°以外を選択した際に有効です。
各チャンネルの動作幅とサーボリバース方向をミキシングされた状態で一括して変更可能です。

Tip

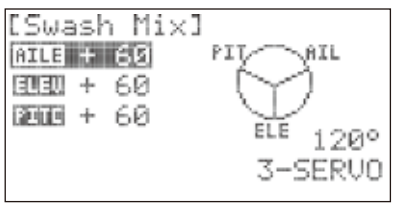
スワッシュ　ミックス設定はフライトコンディションの切り替えには影響されません。

スワッシュ　ミックス設定方法:※ここでは120°CCPMを例に説明します。

1. モデルメニューより「Swash　Mix」を選択しプッシュします。



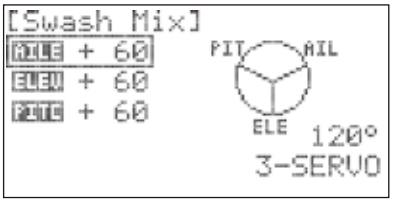
2. スクロールさせカーソルを変更したいチャンネル（AILE・ELEV・PITC）に合わせプッシュします。



スワッシュ ミックス「Swash Mix.」

3. スクロールさせ各チャンネルのスワッシュ動作幅を任意の数値に変更しプッシュします。

※数値のプラスマイナスを変更するとスワッシュ動作が反転します。



Tip

スワッシュ ミックス設定は3軸ジャイロを搭載しない場合のスワッシュの初期設定に使用します。120° 3-SERVO(120° CCPM方式)は3つのサーボ(AILE・ELEV・PITC)が連動しスワッシュプレートを制御します。初めはP43のサーボリバース設定にて3つのサーボが同じ方向に連動して動作するように設定し、次にこのスワッシュ ミックス設定でスティック操作に対しスワッシュプレートが正しい方向に傾くように動作方向を設定します。また、スワッシュのリンケージ構造に負荷がかからないように各舵のストロークも調整します。
同時にピッチニュートラルを合わせる場合は初めにピッチカーブの数値が初期値である事を確認し、使用する機体の説明書に従いリンケージを適切な長さにします。そして、サーボホーンを指定のニュートラル位置に合わせます。次にスロットルスティックを中立にしてサブトリム補正の必要があれば使用し、ホーンのニュートラルを正確に合わせます。最後にスワッシュプレートの水平を確認し同時にブレードの角度が0° になるように調整します。

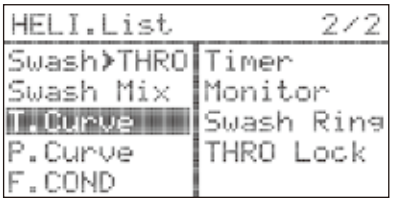
※3軸ジャイロを搭載し送信機の設定を行う場合は必ず使用する3軸ジャイロの説明書に従ってください。

スロットルカーブ「T. Curve」

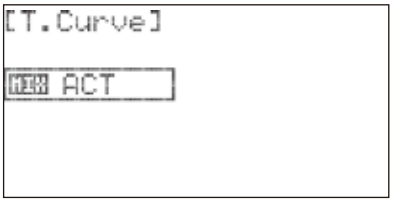
スロットルカーブはTHROチャンネルの動作にカーブをつける機能です。スロットルのスティック位置をグラフ上で5ポイントに分割しそのポイントでのサーボポジション数値を変更します。 ポジションスイッチ及びコンディションでの数値切換えやEXP等に対応します。

スロットルカーブ設定方法:

1. モデルメニューより「T.Curve」を選択しプッシュします。

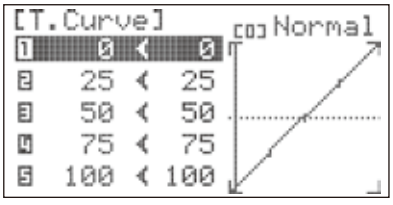


2. 再度ジョグダイアルをプッシュします。
3. ジョグダイアルをスクロールさせINHからACTに変更しプッシュします。



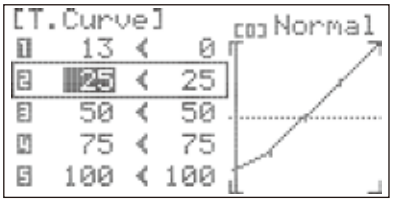
4. カーソルをポイント「1」に合わせプッシュします。
5. スクロールさせこのポイントでのスロットルポジション数値を変更しプッシュします。
(ポイント1はスロットル最スローの位置です。)

-スロットルスティックの操作に合わせ縦線が移動します。「I/O」表示では左側の数値が実際のスティックポジション、右側がスロットルカーブ数値を表します。



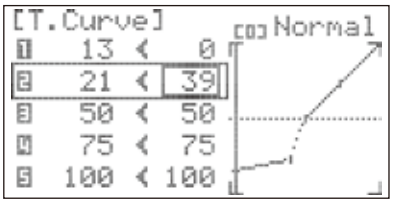
スロットルカーブ「T. Curve」

6. カーソルをポジション「2」 の左側の数値に合わせプッシュします。



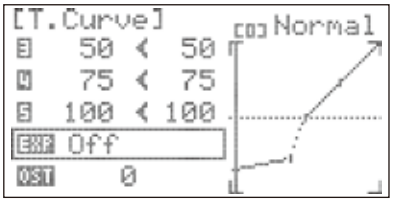
7. スクロールさせポイント「2」でのY軸方向の数値を変更しプッシュします。

8. カーソルをポジション「2」 の右側の数値に合わせプッシュします。



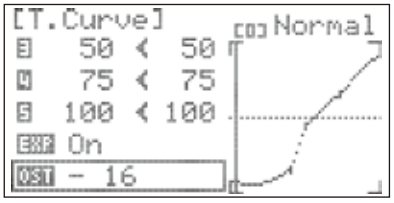
9. スクロールさせポイント「2」でのX軸方向の数値を変更しプッシュします。ステップ4-8を確認し全てのポイントでの数値を入力します。

10. カーソルを「EXP」に合わせプッシュします。



11. スクロールさせ「ON・OFF」を切り替えプッシュします。
ONにすると「EXP」は各ポイントの曲線を滑らかにします。
グラフにてカーブの状態を確認してください。

12. カーソルを「OST」に合わせプッシュします。



13. ジョグダイアルを回転させ任意のオフセット数値を入力しプッシュして決定します。※オフセット「OST」はカーブ全体を上下に移動させることができます

14. カーソルを「S/W」に合わせプッシュします。

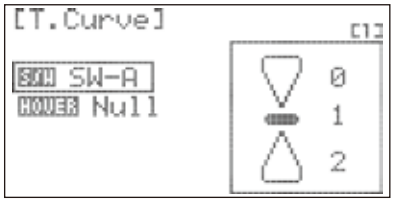


15. スロットルカーブの切り替えをスイッチで行う場合はスクロール操作で 任意のスイッチを選択しプッシュします。

a. NULLを選択した場合はスイッチ操作による数値の切り替えが無効となり入力されたスロットルカーブが常に有効となります:

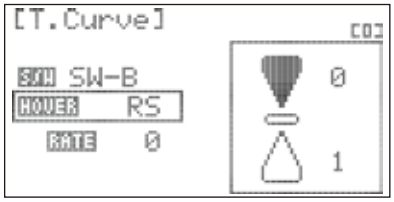
b.スイッチを割り当てる場合:

- スイッチを操作すると選択したポジションスイッチに合わせ右上のポジション番号が(0.1.2)と切り替わります。



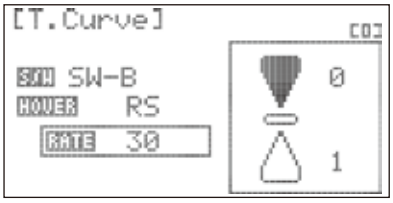
16. カーソルを「HOVER」に合わせプッシュします。
「HOVER」機能ではスロットル中立、ポイント「3」の数値を左右のスライダースイッチ及び全面トリムにて変更することが可能です。

17. スクロールさせ「RS」「LS」「LT」「RT」のいずれかを選択しプッシュします。設定しない場合は「NULL」を選択します。



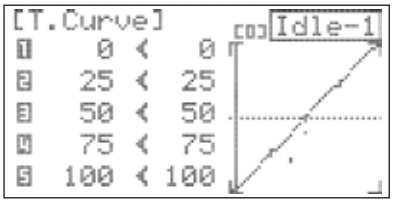
スロットルカーブ「T. Curve」

18. カーソルを「RATE」に合わせプッシュします。
スクロールさせ任意の数値を入力しプッシュし決定します。
※「RATE」の数値を変更すると各スイッチを操作した際に
変化する数値の割合が増減します。



19. フライトコンディションが設定されている場合:

- コンディションが設定されている場合、フライトコンディションを切り替える度に右上の表示と数値が設定されたコンディションに従い変化します。
- カーソルを右上のコンディション名に合わせプッシュします。
- スクロールさせるとスイッチを切り替えることなくコンディションの変更が可能です。プッシュしコンディションを決定します。



Tip

ジョグダイアルでコンディションを切り替える場合はその他の設定は有効になりません。

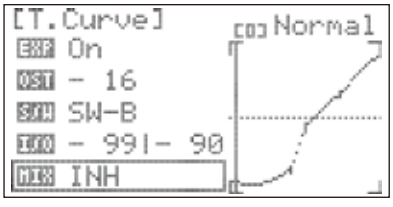
20. バックボタンを一度押しモデルメニューに戻ります。

スロットルカーブ機能OFF:

1. 「T.Curve」 画面よりカーソルをMIXに合わせプッシュします。

2. スクロールさせACTからINHに変更しプッシュします。

3. バックボタンを一度押しモデルメニューに戻ります。



ピッチカーブ「P. Curve」

ピッチカーブはPITCチャンネルの動作にカーブをつける機能です。スロットルのスティック位置をグラフ上で5ポイントに分割しそのポイントでのサーボポジション数値を変更します。 ポジションスイッチ及びコンディションでの数値切換えやEXP等に対応します。

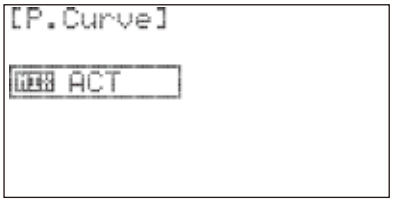
ピッチカーブ設定方法:

1. モデルメニューより「P.Curve」を選択しプッシュします。



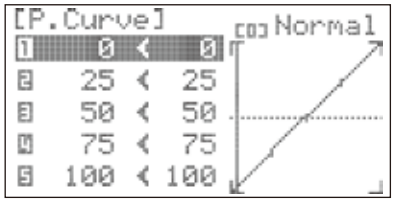
2. 再度ジョグダイアルをプッシュします。

3. ジョグダイアルをスクロールさせINHからACTに
変更しプッシュします。



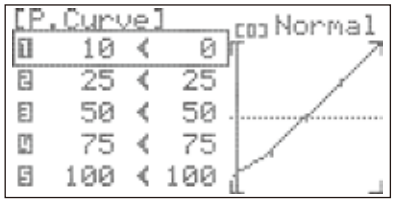
ピッチカーブ「P. Curve」

4. カーソルをポイント「1」に合わせプッシュします。

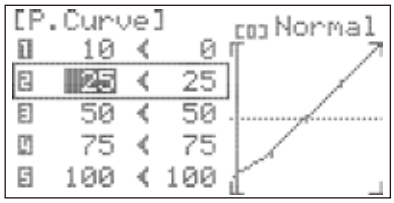


5. スクロールさせこのポイントでのピッチポジション数値を変更しプッシュします。
（ポイント1はスロットル最スローの位置です。）

–スロットルスティックの操作に合わせ縦線が移動します。「I/O」表示では左側の数値が実際のスティックポジション、右側がピッチカーブ数値を表します。



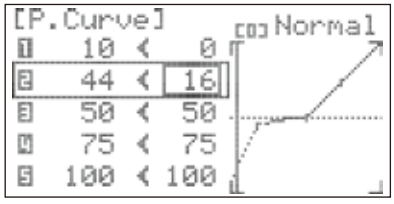
6. カーソルをポジション「2」 の左側の数値に合わせプッシュします。



7. スクロールさせポイント「2」でのY軸方向の数値を変更しプッシュします。

8. カーソルをポジション「2」 の右側の数値に合わせプッシュします。

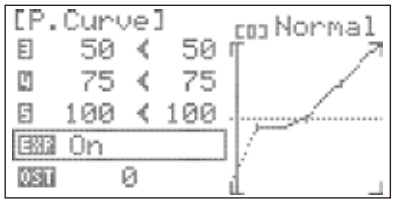
スクロールさせポイント「2」でのX軸方向の数値を変更しプッシュします。



9. ステップ4–8を確認し全てのポイントでの数値を入力します。

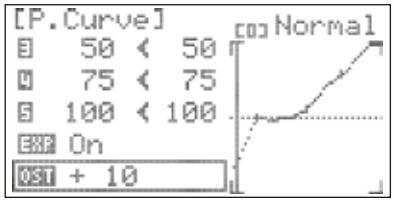
10. カーソルを「EXP」に合わせプッシュします。

11. スクロールさせ「ON・OFF」を切り替えプッシュします。
ONにすると「EXP」は各ポイントの曲線を滑らかにします。
グラフにてカーブの状態を確認してください。

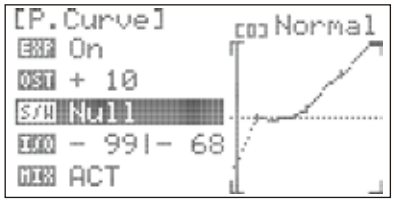


12. カーソルを「OST」に合わせプッシュします。

13. ジョグダイアルを回転させ任意のオフセット数値を入力しプッシュして決定します。※オフセット「OST」はカーブ全体を上下に移動させることができます



14. カーソルを「S/W」に合わせプッシュします。



ピッチカーブ「P. Curve」

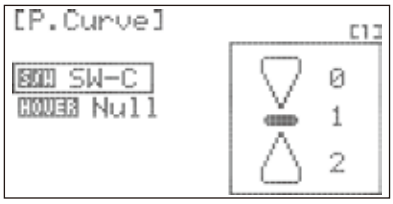
15. ピッチカーブの切り替えをスイッチで行う場合はスクロール操作で 任意のスイッチを選択しプッシュします。



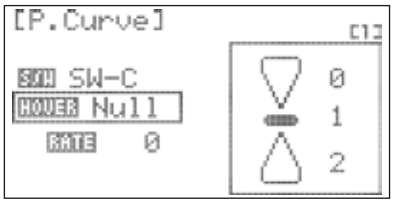
a. NULLを選択した場合はスイッチ操作による数値の切り替えが無効となり入力されたピッチカーブが常に有効となります:

b.スイッチを割り当てる場合:

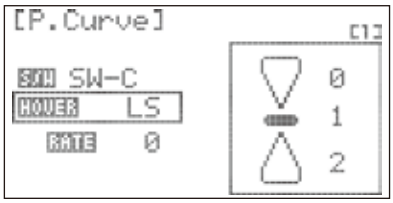
- スイッチを操作すると選択したポジションスイッチに合わせ右上のポジション番号が(0.1.2)と切り替わります。



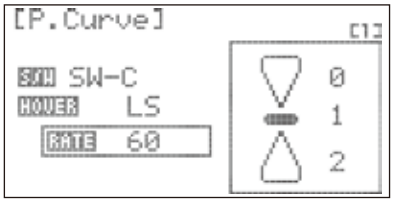
16. カーソルを「HOVER」に合わせプッシュします。「HOVER」機能ではスロットル中立、ポイント「3」の数値を左右のスライダースイッチ及び全面トリムにて変更することが可能です。



17. スクロールさせ「RS」「LS」「LT」「RT」のいずれかを選択しプッシュします。設定しない場合は「NULL」を選択します。

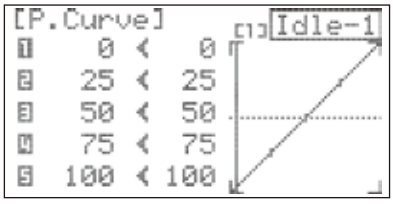


18. カーソルを「RATE」に合わせプッシュします。スクロールさせ任意の数値を入力しプッシュし決定します。※「RATE」の数値を変更すると各スイッチを操作した際に変化する数値の割合が増減します。



19. フライトコンディションが設定されている場合:

- コンディションが設定されている場合、フライトコンディションを切り替える度に右上の表示と数値が設定されたコンディションに従い変化します。
- カーソルを右上のコンディション名に合わせプッシュします。
- スクロールさせるとスイッチを切り替えることなくコンディションの変更が可能です。プッシュしコンディションを決定します。



Tip

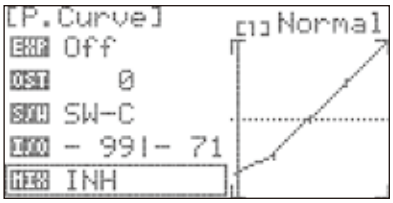
ジョグダイアルでコンディションを切り替える場合はその他の設定は有効になりません。

ピッチカーブ「P. Curve」

20. バックボタンを一度押しモデルメニューに戻ります。

ピッチカーブ機能OFF:

1.「P.Curve」 画面よりカーソルをMIXに合わせプッシュします。



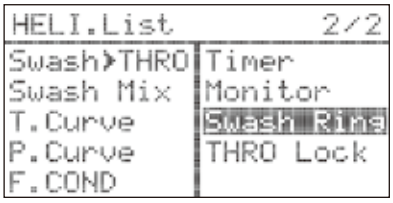
2. スクロールさせACTからINHに変更しプッシュします。

3. バックボタンを一度押しモデルメニューに戻ります。

スワッシュ リング「Swash Ring」

スワッシュ リングは任意に設定した割合までスワッシュの舵角を調整し複合舵を打った際のスワッシュ リンケージの負荷を低減させます。
※3軸ジャイロを搭載する場合は使用しません。

1. モデルメニューより「Swash Ring」を選択しプッシュします。

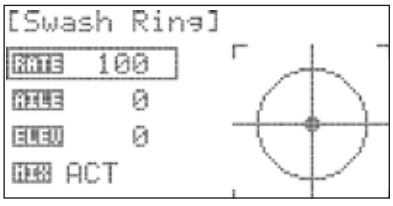


2. 再度ジョグダイアルをプッシュします。
3. スクロールさせACTからINHに変更しプッシュします。
※「ACT」にすると「RATE」の数値が初期値の100であっても複合舵の舵各は予めプリセットされた割合に減少します。



4. カーソルを「RATE」に合わせプッシュします。

5. スクロールさせ任意の数値を入力しプッシュし決定します。
※「RATE」の数値を変更すると図の円グラフが変化し「AILE」「ELEV」を操作した時にその独立した舵角と複合舵の数値が増減します。



6. バックボタンを押しモデルメニューに戻ります。

テレメトリーシステム

フラッシュ 8はOPTIMA7/9を使用する際に別売りのHTS-SSセンサーステーションと各種センサーを接続することでテレメトリーシステムを利用することが出来ます。※受信機電源の電圧表示は別途センサーを接続することなく使用可能です。テレメトリーシステムは各種センサーが計測した情報を双方向通信にて計器情報として送信機のディスプレイ等に表示することが出来ます。これによりパイロットは機体の情報をより正確に判断でき機体性能の把握や緊急時の機体の状態をリアルタイムで確認できます。その為、テレメトリーシステムは機体の調整や飛行中の安全管理に至るまで幅広い事項に役立ちます。

センサーステーションの接続方法は本体の説明書をご確認ください。
下記の表示可能なテレメトリーセンサーの種類を確認し使用するセンサー及びそれに対応するセンサーステーションの種類を確認します。

詳しくは弊社HPをご覧下さい。 http://www.hitecrcd.co.jp/

フラッシュ 8は下記のテレメトリー情報が表示可能です:

GPS – GPSメニューは機体の緯度経度、飛行高度、飛行速度を表示します。

RPM – RPMメニューはプロペラ等の回転数を表示します。

TEMP –TEMPメニューはセンサー取り付け部の温度を表示します。

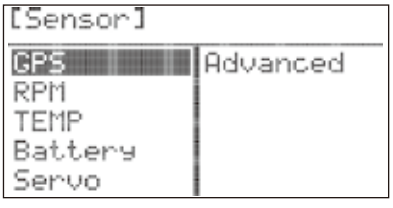
Battery – Batteryメニューは機体電源や受信機電源の電圧・電流値など表示します。

Servo – Servoメニューではサーボの電流値を表示します。

Advanced – Advancedメニューでは対気速度及び気圧高度を表示します。

センサーメニュー画面表示

1. 送信機とオプティマ受信機のバインドが完了していることを確認します。
2. 各種センサー・センサーステーション及び受信機を正しく接続します。(※テレメトリー機能はオプティマ7及びオプティマ9のみ使用可能です。)
3. 送信機の電源を入れ「YES」を押して電波を発射させます。
4. 受信機の電源を入れます。
5. バックボタンをジョグダイアルを同時に長押ししてシステムメニューを開きます。
6. カーソルを「Sensor」に合わせてプッシュします。



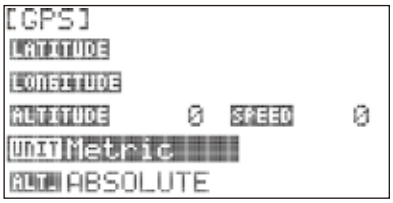
GPS情報

GPSセンサーを使用するとGPSスクリーンメニューで緯度経度、飛行高度、飛行速度を検出しリアルタイムで表示可能です。

使用するセンサー: HTS-GPS GPS センサー。

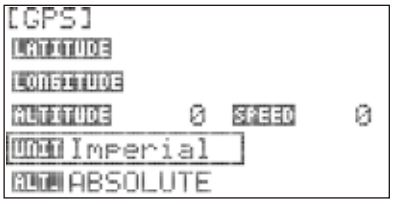
GPS情報 「GPS cont.」

1.センサーメニューより「GPS」に合わせプッシュします。



2. カーソルを「UNIT」に合わせプッシュします。

3. スクロールさせ「Metric」(メートル法表示)または「Imperial」(ヤード・ポンド表示)を選択しプッシュします。



4. カーソルを「ALT」に合わせプッシュします。



5. スクロールさせ「RELATIVE」(相対高度表示)または「ABSOLUTE」(海抜高度表示)を選択しプッシュします。

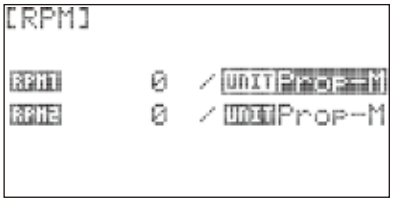
6. バックボタンを押しセンサーメニューに戻ります。

回転数情報 「RPM」

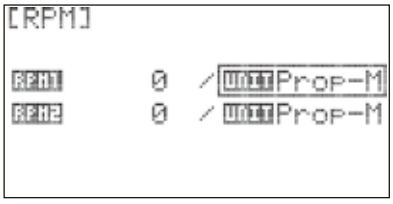
RPMセンサーを使用すると機体タイプに関係なく(プロペラ・ローター・発動機)等の回転数を検出しリアルタイムで表示可能です。検出環境に合わせマグネット式または光学式を選択します。また、両センサー情報は同時に表示可能です。

使用するセンサー: HTS-ORPM (光学式回転数センサー)・HTS-MRPM (マグネット式回転数センサー)

1. センサーメニューより「RPM」を選択しプッシュします。



2. カーソルを「RPM1　UNIT」に合わせプッシュします。



回転数情報「RPM」

3. スクロールさせ「Prop-M」または「Prop-2・Prop-3・Prop-4」を選択しプッシュします。

※「Prop-M」はマグネット式の際に選択します。

※光学式の場合は「Prop-2・Prop-3・Prop-4」を選択します。「Prop」の末尾の数字はプロペラの枚数を表します。



4. 同様に「RPM2」も設定する場合はステップ2-3を確認します。
5. バックボタンを押しセンサーメニューに戻ります。

温度情報「Temp」

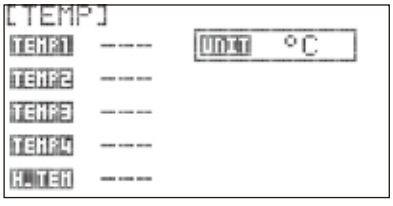
TEMPセンサーを使用すると最大4つまでセンサーを取り付けた箇所の温度を計測することが出来ます。
さらに画面上の「H.TEM」では計測された最高温度が表示可能です。

使用するセンサー:HTS-TEMP（温度センサー）・HTS-E TEMP（エンジン温度センサー）

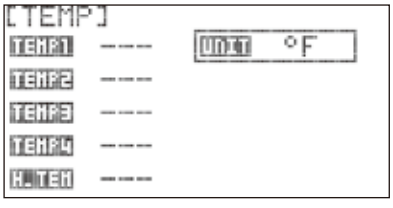
1. センサーメニューより「TEMP」を選択しプッシュします。



2. ジョグダイアルを再度プッシュし「UNIT」を有効にします。



3. スクロールさせ「° F」（華氏表示）または「° C」（摂氏表示）を選択しプッシュします。



4. バックボタンを押しセンサーメニューに戻ります。

バッテリー情報「Battery」

バッテリー情報では接続されたセンサーに従い機体の「RX.BATT」受信機電圧・「CURRENT」センサー取り付け箇所の電流値・「VOLTAGE」主電源等の電圧・「WATTAGE」消費電力が表示されます。

※消費電力は電流センサー及び電圧センサーを使用時にその両方から検出された数値を元に計算し表示されます。

使用するセンサー:HTS-TEMP: HTS-C50（電流センサー）・HTS-C200（電流センサー）・
HTS-VOLT（電圧センサー）

Tip	受信機電源の電圧はメインメニュー画面の左下に表示されます。

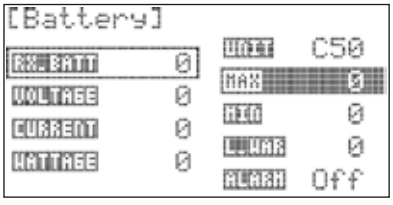
バッテリー情報 「Battery」

1. センサーメニューより「Battery」を選択します。



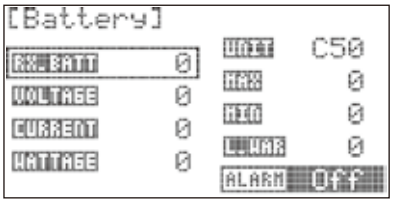
2. スクロールさせ「RX.BATT」を選択しプッシュします。

3. 「MAX」 「MIN」では受信機電圧の最大値と最小値を確認可能です。

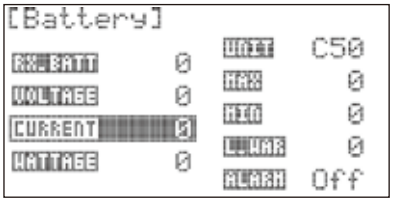


4. スクロールさせ「L WAR」または「ALARM」を選択しプッシュします。「L WAR」はアラーム作動電圧の設定「ALARM」はアラームタイプの設定が可能です。

5. バックボタンを押しバッテリーメニューに戻ります。

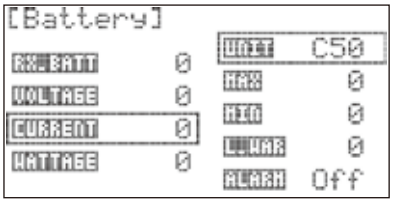


6. スクロールさせ「CURRENT」を選択しプッシュします。



7. HTS-C50センサーを使用する場合は「C50」を選択しHTS-C200センサーを使用する場合は「C200」を選択しプッシュします。

8. バックボタンを押しセンサーメニューに戻ります。



サーボ情報 「Servo」

HTS-SM（サーボマネージャー）を使用するとサーボ情報画面に接続されたサーボの電流値が表示されます。

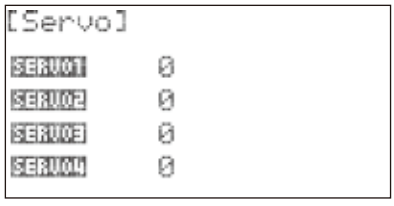
Note

複数のサーボをYハーネスコネクター等を使用しサーボマネージャーに接続する場合はそのトータルの電流値が表示されます。

使用するセンサー: HTS-SM サーボマネージャーセンサー（※HTS-SS Advanced Sensor Stationのみ対応）

1. センサーメニューより「Servo」を選択します。

2. バックボタンを押してセンサーメニューに戻ります。

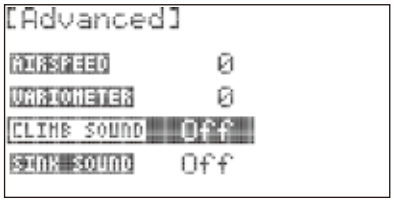


アドバンス情報　「Advanced」

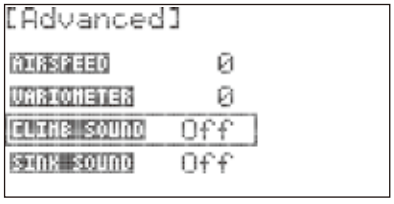
アドバンススクリーンメニューでは圧力センサーを用いた対気速度センサーとバリオメーターセンサー使用しGPSセンサーと同様に機体速度および機体高度を表示可能です。

使用するセンサー: HTS-AS 対気速度センサー 及び HTS-VM バリオメーターセンサー (※両センサー共にHTS-SS Advanced Sensor Stationのみ対応).

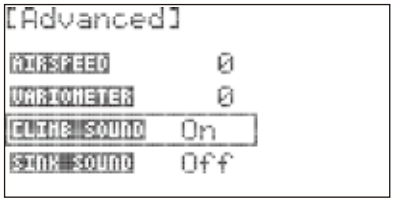
1. センサーメニューより「Advanced」を選択します。



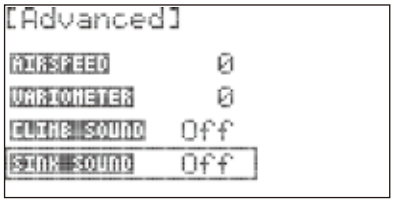
2.カーソルを「CLIMB SOUND」に合わせプッシュします。



3. スクロール操作でクライムサウンドのON・OFFを設定します。
ONにすると機体の上昇時にトーンサウンドがします。

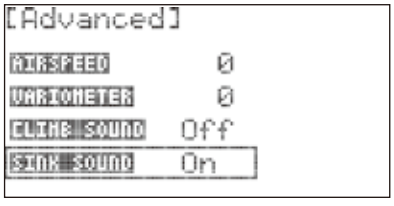


4. カーソルを「SINK　SOUND」に合わせプッシュします。



5. スクロール操作でシンクサウンドのON・OFFを設定します。
ONにすると機体の降下時にトーンサウンドがします。

6. バックボタンを一度押してセンサーメニューに戻ります。





FLASH 8

8 Channel 2.4 GHz Aircraft Computer Radio System

FCC ID: IFHFLASH7
IC: 3420A-FLASH7

MSIP-CRI-HRK-FLASH7

CE 1177

Made in the Philippines